

長野市国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会施設整備計画



第 82 回 国民スポーツ大会



第 27 回 全国障害者スポーツ大会

令和4(2022)年 3月

長野市

I 計画策定にあたって

- 1 本市のスポーツ振興に対する取り組み 1
- 2 本市のスポーツを取り巻く情勢 2
- 3 第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会の開催 2
- 4 計画の位置づけ 4
- 5 長野市公共施設マネジメントとの整合 4

II 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会における施設整備

- 1 計画策定の目的 6
- 2 長野市における実施競技 6
 - (1) 国民スポーツ大会の競技及び施設選定の基本方針
 - (2) 国民スポーツ大会の実施内定競技
 - (3) 全国障害者スポーツ大会について
- 3 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向けた施設整備の方針 8
- 4 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会を行う施設の位置づけ 8
- 5 長野市公共施設適正化検討委員会からの提言（概要） 9
- 6 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会における施設整備 10

III 競技開催予定施設(スポーツ施設)の現況と課題

- 1 長野運動公園 11
 - 総合体育館 11
 - (1) 実施予定競技
 - (2) 施設の概要
 - (3) 現況と課題
 - 総合市民プール(アクアウイング) 13
 - (1) 実施予定競技
 - (2) 施設の概要
 - (3) 現況と課題

■ 県営野球場	・・・14
(1) 実施予定競技	
(2) 施設の概要	
(3) 現況と課題	
■ 長野運動公園 共通事項	・・・15
(1) 駐車場不足	
(2) 長野運動公園 配置図	
2 真島総合スポーツアリーナ(ホワイトリング)	・・・・・・17
(1) 実施予定競技	
(2) 施設の概要	
(3) 現況と課題	
3 南長野運動公園	・・・・・・19
■ 体育館	・・・19
(1) 実施予定競技	
(2) 施設の概要	
(3) 現況と課題	
■ 長野オリンピックスタジアム	・・・20
(1) 実施予定競技	
(2) 施設の概要	
(3) 現況と課題	
■ 総合球技場(長野Uスタジアム)	・・・22
(1) 実施予定競技	
(2) 施設の概要	
(3) 現況と課題	
■ 南長野運動公園 共通事項	・・・25
(1) 駐車場不足	
(2) 南長野運動公園 配置図	
4 競技開催予定施設(スポーツ施設)の課題 一まとめ	・・・・・・26

IV 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会施設整備計画の策定

1 施設整備計画の対象とする施設等	・・・・・・28
(1) 長寿命化改修による整備を行う施設	
(2) 施設整備計画の対象から除く施設	
(3) 施設整備計画の対象とする施設等	

2 施設整備計画の内容	・ ・ ・ ・ ・ 29
(1) 施設整備計画の区分(項目)	
(2) 施設整備計画で定める事項	
(3) 計画の期間	

V 長野運動公園 総合体育館

1 課題解消の方法(手段)	・ ・ ・ ・ ・ 31
(1) 課題の整理	
(2) 課題の分析	
(3) 課題解消のために考えられる方法(手段)	
2 施設整備計画における方針	・ ・ ・ ・ ・ 34
(1) 施設整備の方針	
(2) 公共施設適正化検討委員会からの提言	
3 施設整備後の利活用	・ ・ ・ ・ ・ 36
(1) 本市の大規模体育館のあり方	
(2) 施設整備後の利活用	
4 施設の規模・整備の内容(仕様)	・ ・ ・ ・ ・ 41
(1) 施設の規模	
(2) 整備の内容(仕様)	
(3) 防災拠点としての機能	
5 財政負担の軽減	・ ・ ・ ・ ・ 46
(1) 補助・助成制度の活用	
(2) 整備手法の検討	
(3) 整備後の維持管理	
6 事業スケジュール	・ ・ ・ ・ ・ 49

VI 長野Uスタジアム(フットボール場)

1 課題解消の方法(手段)	・ ・ ・ ・ ・ 50
(1) 課題の整理	
(2) 課題の分析	
2 施設整備計画における方針	・ ・ ・ ・ ・ 63
(1) 施設整備の方針	
(2) 公共施設適正化検討委員会からの提言	


3 施設の規模・整備の内容（仕様）	・ ・ ・ ・ ・ 65
(1) 施設の規模・整備の内容(仕様)	
(2) 施設整備の候補地	
(3) 防災拠点としての機能	
4 施設整備後の利活用	・ ・ ・ ・ ・ 72
(1) 本市の芝生グラウンドのあり方	
(2) 施設整備後の利活用	
(3) 防災拠点としての利活用	
5 財政負担の軽減	・ ・ ・ ・ ・ 74
(1) 補助・助成制度の活用	
(2) 整備手法の検討(民間資金導入等)	
(3) 整備後の維持管理	
(4) 既存スポーツ施設(グラウンド)の維持管理等見直し	
6 事業スケジュール	・ ・ ・ ・ ・ 78

VII 駐車場

1 課題解消の方法（手段）	・ ・ ・ ・ ・ 79
(1) 課題の整理	
(2) 課題解消の方法（手段）	
2 施設整備計画における方針	・ ・ ・ ・ ・ 81
(1) 長野運動公園	
(2) 南長野運動公園	
3 事業スケジュール	・ ・ ・ ・ ・ 83
(1) 長野運動公園	
(2) 南長野運動公園	

VIII 参考資料

1 長野市公共施設適正化検討委員会からの提言	・ ・ ・ ・ ・ 84
2 大会準備及び施設整備計画策定の経過	・ ・ ・ ・ ・ 90



I 計画策定にあたって

1 本市のスポーツ振興に対する取り組み

本市はこれまで、スポーツが市民の生活に果たす役割や意義を重要なものと捉え、スポーツの振興に努めてきました。昭和 51(1976)年の全国高等学校総合体育大会、昭和 53(1978)年の国民体育大会（やまびこ国体）を控え、昭和 50(1975)年 6 月 15 日に“スポーツ都市宣言”を行い、体育施設の整備・充実、体育指導委員（現スポーツ推進委員）の増員、地域のスポーツ振興、各種スポーツ教室の増設など具体的な施策を掲げ、明るく豊かな長野市を築くべく、その施策を推進してきました。

■ スポーツ都市宣言

健康な心、健康なからだ、これは古代より人間の求めてやまない願いである。

私たち長野市民は、スポーツを愛し、スポーツを通じて健康な心とからだをつくり、豊かで明るい長野市を築くため、ここにスポーツ都市の宣言をする。

- 1 スポーツを通じてたくましい心とからだをつくろう。
- 1 スポーツ活動を通じて多くの友達をつくり、友情の輪を広げよう。
- 1 スポーツを愛し、広く世界の人々と手をつなごう。

平成 10(1998)年 2 月には長野オリンピック冬季競技大会、同年 3 月には長野パラリンピック冬季競技大会が開催され、その後、これを機に整備されたスポーツ施設やボランティア精神の高揚など有形無形の財産を基に、オリンピック・ムーブメント※¹、パラリンピック・ムーブメント※²の推進とともに、スポーツの振興を図ってきました。

※¹ オリンピック・ムーブメント … いかなる差別もなく、友好、連帯、フェア・プレーの精神をもって、相互理解を推進するという「オリンピック精神」に基づき、スポーツを通して青少年を育成することによって平和でよりよい世界を建設し、国際親善に貢献しようとする事。

※² パラリンピック・ムーブメント… パラリンピックスポーツを通して発信される価値やその意義を通して、世の中に気づきを与え、より良い社会を作るための社会変革を起こそうとするあらゆる活動のこと

スポーツには、体を動かすことそのものを楽しむことに加え、健康の増進や交流人口の拡大、地域経済の活性化といった“まちづくり”面があることから、平成 19(2007)年 4 月に策定した“第四次長野市総合計画”ではこれに着目した“スポーツを軸としたまちづくりの推進”を基本施策に掲げ、平成 20(2008)年 9 月には総合計画の個別計画として、長野市スポーツ振興計画を策定しました。平成 21(2009)年 9 月には「文化芸術及びスポーツの振興による文化力あふれるまちづくり条例」を制定し、市民と行政が連携、協働し、文化芸術及びスポーツの持つ「文化力」あふれるまちづくりの推進を目指しています。

国においては、平成 22(2010)年 8 月に、新たなスポーツ文化の確立を目指す「スポーツ立国戦略」を策定し、さらに平成 23(2011)年 6 月に「スポーツ振興法」を全面改正し「スポーツ基本法」を制定しました。

本市では、この「スポーツ基本法」の規定に基づき、平成 24(2012)年 4 月に「長野市スポーツ推進計画」を策定、平成 27(2015)年 4 月に、それまでの教育委員会事務局から市長部局に文化スポーツ振興部スポーツ課を設置しました。さらに平成 29(2017)年 4 月にはスポーツコミッション推進室を設置するなど、生涯スポーツや自主的なスポーツ活動の促進だけではなく、本市をホームタウンとする地域密着型プロスポーツチーム※³との連携や、大規模大会等の誘致による地域の活性化など、新たな取り組みによるスポーツの振興を行っています。

※³ 地域密着型プロスポーツチーム … 地域を拠点とし、地域からの支援・応援を基に活躍・活動するとともに地域への貢献を行うプロスポーツチーム

2 本市のスポーツを取り巻く情勢

令和 10(2028)年に本県での開催が予定されている第 82 回国民スポーツ大会は、前回の「やまびこ国体」から 50 年ぶりの開催となりますが、当時と比較すると、少子・高齢化や高度情報化の進展など、社会構造は大きく変化しており、市民の価値観やライフスタイルも多様化しています。また、本格的な人口減少社会の到来、地球温暖化に伴う気候変動、税収をはじめとする歳入の減少と社会保障関係費等の増加により厳しさを増す財政状況など、市政運営に当たって様々な課題に直面しています。また、スポーツの多様化に伴い、本市のスポーツ施設整備の最盛期であった前回国体からオリンピック開催までの間に整備した施設による競技環境と、現在の競技別人口と乖離が見られるようになっていきます。

本市の特徴として、長野オリンピック・パラリンピック冬季競技大会を機に整備された大規模スポーツ施設を有していることと、これらをホームスタジアム・ホームアリーナとして活動する 4 つの地域密着型プロスポーツチームが活動していることが挙げられます。

大規模スポーツ施設では、地域密着型プロスポーツチームのリーグ戦だけでなく、国際大会・試合や全国大会が数多く行われるようになり、「するスポーツ」に加えて「みるスポーツ」という要素が加わり、「参加者」の定義にも、これまでの「選手・役員」に「観客」が加わることで、大規模な大会・試合の開催が交流人口の拡大や地域経済に大きな影響を与えるようになっていきます。

今後はこれらの大規模施設で行われる試合や大会などで長野市出身の選手が活躍することが期待されますが、トップアスリートの輩出には、スポーツを始める“きっかけ”としての「みるスポーツ」の環境整備に加え、一般競技者の練習環境や指導体制などを含めた底辺拡大が不可欠であり、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会を契機に、これらの環境を整えていく必要があります。

3 第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会の開催

国民スポーツ大会(旧名称：国民体育大会)は、都道府県対抗、各都道府県持ち回りで毎年開催されている国内最大のスポーツの祭典で、昭和 63(1988)年の京都大会から二巡目に入っています。

全国障害者スポーツ大会は、国民スポーツ大会に続いて行われ、障がい者が競技を通してスポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がい者に対する理解を深め、障がい者の社会参加に寄与することを国的として行われるものです。

平成 29(2017)年 3 月、長野県が国民スポーツ大会の招致を決め、同年 7 月日本スポーツ協会から内々定を受けたことにより、令和 10(2028)年の第 82 回国民スポーツ大会と第 27 回全国障害者スポーツ大会の開催が事実上決定しました。

長野県における国民スポーツ大会の開催は、昭和 53(1978)年の「やまびこ国体」以来 50 年ぶり※の開催となり、成功のためには関係機関・団体、県並びに市町村が一丸となって開催準備に取り組む必要があります。

国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催にあたり、本市は県内でも有数の規模のスポーツ施設や宿泊施設を数多く有しており、これらの施設を有効に活用することで開催県の中心的な役割を果たし、スポーツ人口拡大・競技力向上などのスポーツ振興だけでなく、全国から本市を訪れる選手・役員・観客等による経済効果、市民による歓迎や観光PRによる全国への魅力発信などにより、本市が基本施策に掲げる“スポーツを軸としたまちづくり”を推進し、地域の活性化につなげていきたいと考えています。

※ 冬季大会を除く

第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会
開催基本方針

1 基本方針

第 82 回国民スポーツ大会及び第 27 回全国障害者スポーツ大会は、全ての県民の元気と力を結集して、夢、勇気、感動などスポーツの持つ限りない力と、本県の多彩な魅力を発信する大会として開催します。

大会の開催に当たっては、大会運営の簡素化・効率化を図るとともに、大会終了後を見据え、より多くの県民が各々の関心や適性等に応じて「する」「みる」「ささえる」など様々な形でスポーツに参加できる文化の創造と、地域の魅力発信による経済の活性化等を通じて、「スポーツを通じた元気な長野県づくり」の実現を目指します。

2 実施目標

(1) “スポーツ”で長野県を元気にする大会

人生 100 年時代と言われる今、スポーツを健康に活かした取組を推進し、スポーツを通じた“健康長寿世界一の信州”の実現を目指すとともに、観光資源とスポーツ資源を融合させた地域活性化等にも取り組み、元気な長野県を推進する大会とします。

(2) “スポーツ”の振興を支える好循環を創出する大会

長野県の地で選手が育ち、その選手が指導者となって次世代の選手を育成するなど、将来にわたり本県のスポーツ振興を支える好循環の形成に努めるとともに、子どもたちが夢や希望を未来へとつなぐことができる大会とします。

(3) “スポーツ”で共生社会づくりを加速する大会

障がい者の社会参加の推進と社会の障がい理解を促進するとともに、障がいの有無に関わらず、スポーツを通じた交流を拡大するなど、誰にでも「居場所」と「出番」があり、多様性を尊重する共生社会づくりを力強く後押しする大会とします。

(4) “スポーツ”の環境づくりを推進する大会

少子高齢化社会を迎え、地域ごとに求められるスポーツ施設に対する需要が変化していく中であって、将来にわたり安全で、適正なスポーツ施設環境を提供するとともに、誰もが生涯を通じて気軽にスポーツに親しめる環境づくりを推進する大会とします。

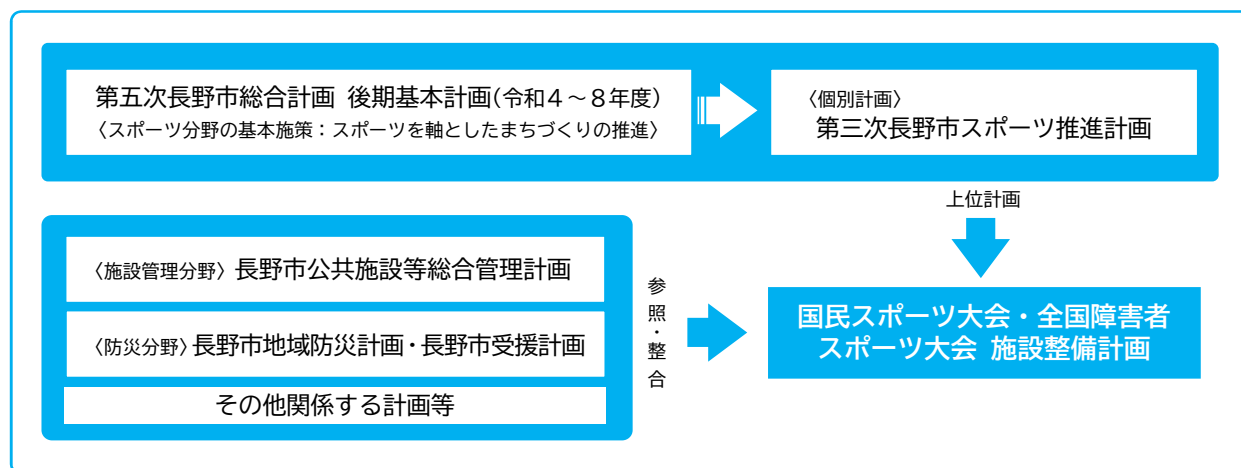
(5) “スポーツ”が長野県のファンを増やす大会

豊かな自然環境、美しい景観など数々の長野県の誇れる魅力を県民一人ひとりが見つけ直し、県内外に発信するとともに、全国から訪れる数多くの来県者を温かいおもてなしの心で迎え、一人でも多くの方に長野県のファンとなっただけの大会とします。

4 計画の位置づけ

本計画は、令和10(2028)年に本県での開催が予定されている第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会を迎えるにあたり、競技が開催される会場や本市のスポーツ環境等の課題を分析し、国民スポーツ大会開催のための施設整備に活用できる特定財源を考慮しながら、整備を行う施設の選定や規模(仕様)等の概要について策定するものです。

なお、計画の策定にあたっては、第五次長野市総合計画及びスポーツ分野の個別計画である長野市スポーツ推進計画を上位計画として位置づけます。また、本市が進めている公共施設マネジメントや、防災分野など関係する計画等を参照し、政策の整合を図ります。



5 長野市公共施設マネジメントとの整合

本市では、将来にわたり持続可能な行財政運営を行っていくため、公共施設等の総合的かつ計画的な管理の推進のための中長期的な計画である「公共施設等総合管理計画」を平成29年に策定し、公共施設を最適に維持管理していく公共施設マネジメントを推進しています。

このような中、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の施設整備を検討するにあたり、スポーツ振興の面だけでなく、公共施設マネジメントの面から意見をいただき、本計画に反映するため、長野市公共施設適正化検討委員会（以下「公共施設適正化検討委員会」という。）から施設整備に向けた提言をいただきました。

提言にあたっては、スポーツ関係者の意見を聞きながら「公共施設等総合管理計画」との整合を図っていくため、スポーツ推進審議会の委員や国民スポーツ大会開催内定競技の関係者を外部委員とし、議論を深めるため公共施設適正化検討委員会の下に「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の施設整備検討小委員会」（以下「検討小委員会」という。）を設け、提言を行うために必要な検討を行っていただきました。

検討小委員会では、現在の施設の状況を確認するための視察を行ったほか、本市から各競技施設の現状や課題、整備の方向性などを説明し、令和3(2021)年11月から令和4(2022)年2月にかけての短期間に集中して検討を重ね、令和4(2022)年2月18日の検討小委員会の後、令和4(2022)年3月3日に公共施設適正化検討委員会において、本市への提言^{*}が提出されました。

本計画では、この提言に基づき、整備方針、整備する施設の規模、整備内容及び財政負担の軽減などの検討を行いました。

^{*} 9ページ、84ページ 参照



第 33 回国民体育大会「やまびこ国体」 秋季大会開会式 (昭和 53(1978)年 10 月 15 日)

II 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会における施設整備

II 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会における施設整備

1 計画策定の目的

スポーツ施設は道路や公園等の社会インフラと比較すると整備財源となる補助等の制度が少ないため、本市は国庫補助等の対象となる総合スポーツ大会の開催を機会に大規模スポーツ施設の整備を行ってきました。

大会名	開催年	整備された代表的なスポーツ施設
第33回国民体育大会「やまびこ国体」	昭和53年 (1978年)	長野運動公園（総合体育館等）
第18回オリンピック冬季競技大会	平成10年 (1998年)	南長野運動公園（長野オリンピックスタジアム等） アクアウィング、ホワイトリング ほか

令和10(2028)年に本県での開催が予定されている第82回国民スポーツ大会は、前回「やまびこ国体」から50年ぶり、長野オリンピックからは30年ぶりとなる総合スポーツ大会の開催であり、有利な補助制度の活用が見込めることから、本市のスポーツ施設の課題を解消し、市民のスポーツ環境やスポーツ施設の持つ防災拠点機能などの強化を図る絶好の機会となります。

このことから、第82回国民スポーツ大会・第27全国障害者スポーツ大会の開催に向けた施設整備計画を定め、大会の円滑な実施と大会後の利活用等を踏まえた準備を行うことを目的とします。

2 長野市における実施競技

(1) 国民スポーツ大会の競技及び施設選定の基本方針

本市は第82回国民スポーツ大会の実施競技及び施設を検討するにあたり、以下のとおり「競技及び施設選定の基本方針」を定め(平成30(2018)年7月2日決定)、施設整備を行う可能性を見据えた上で選定を行ってきました。

- 1 本市における大規模な大会開催実績が豊富にあり、競技団体と市の連携が十分にとれること
- 2 競技が市民に広く親しまれており、国体開催のレガシーが残ることが期待できること
- 3 競技の開催要件を満たす施設があること。また、開催を機に利便性向上や長寿命化等の整備が見込め、本市のスポーツ振興に資する施設として残ること

(2) 国民スポーツ大会の実施内定競技

前項の「競技及び施設選定の基本方針」に基づき、第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会長野県準備委員会（以下「長野県準備委員会」という。）及び競技団体と協議を行い、令和4(2022)年3月現在、本市における次の競技開催が内定しています。

■ 本大会実施内定競技

競技名／種目名		種別	実施予定会場	長野県準備委員会における内定	備考
水泳	競泳 飛込 水球 A S※1	全種別 〔 成年男女 少年男女 〕	長野運動公園総合市民プール (アクアウィング)	第一次選定 (2018. 11. 9)	会期前大会 (9月)で実施
バスケットボール		全種別 〔 成年男女 少年男女 〕	真島総合スポーツアリーナ (ホワイトリング) 長野運動公園総合体育館 南長野運動公園体育館	第一次選定 (2018. 11. 9)	
高等学校野球		硬式	長野オリンピックスタジアム 長野運動公園県営野球場	第一次選定 (2018. 11. 9)	
サッカー		成年女子※2	南長野運動公園総合球技場 (長野Uスタジアム) 他	第二次選定 (2019. 7. 31)	
ボウリング		全種別 〔 成年男女 少年男女 〕	ヤングファラオ	第二次選定 (2019. 7. 31)	民間施設
体操	競技	全種別 〔 成年男女 少年男女 〕	真島総合スポーツアリーナ (ホワイトリング)	第六次選定 (2022. 2. 2)	会期前大会 (9月)で実施
ライフル射撃	C P※3	成年男子	長野県警察学校	第六次選定 (2022. 2. 2)	

※1 アーティスティックスイミング(旧シンクロナイズドスイミング)

※2 令和4(2022)年度以降の実施種別による ※3 センターファイアピストル

■ 冬季大会実施内定競技

競技名／種目名		種別	実施予定会場	長野県準備委員会における内定	備考
スピードスケート		全種別	長野市オリンピック記念アリーナ (エムウェーブ)	第四次選定 (2020. 11. 18)	
フィギュアスケート		全種別	長野市若里多目的スポーツアリーナ (ビッグハット)	第四次選定 (2020. 11. 18)	

(3) 全国障害者スポーツ大会について

全国障害者スポーツ大会は、障がい者が競技を通してスポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与することを目的としたスポーツの祭典です。大会は国民スポーツ大会の後、同じ開催県で3日間の会期で開催されます。

国民スポーツ大会の競技施設で行うこととされているため、全国障害者スポーツ大会のための施設整備は原則不要ですが、国民スポーツ大会の施設整備にあたりユニバーサルデザイン※に配慮する必要があります。

※ ユニバーサルデザイン … 高齢者や障害のある人が社会生活をしていく上で障壁となるものを除去するというバリアフリーに加え、健常者も含め多様な人々が利用しやすいよう、あらかじめ都市や生活環境をデザインするという考え方



全国障害者スポーツ大会
シンボルマーク

■ 本市での実施内定競技

競技名・種目名		実施予定会場	参加人数*	会期等
水 泳	知的障害 身体障害	アクアウィング	約 310 人	・会期 3日間
バスケットボール（知的障害）		長野運動公園又は ホワイトリング	約 170 人	・会期 2日間 ・競技用 2コート
車いすバスケットボール		長野運動公園又は ホワイトリング	約 85 人	・会期 2日間 ・競技用 1コート、アップ用 1コート
ボウリング（知的障害）		ヤングファラオ	約 170 人	・会期 2日間

3 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向けた施設整備の方針

本市における実施競技が概ね内定したことから、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催に向けた施設整備を検討するにあたり「競技及び施設選定の基本方針」で定めた「開催を機に利便性向上や長寿命化等の整備が見込め、本市のスポーツ振興に資する施設として残ること」に基づき、本市の財政状況を踏まえつつ、以下のとおり施設整備方針を定め、施設整備計画を策定していくこととしました(令和2(2020)年7月1日決定)。

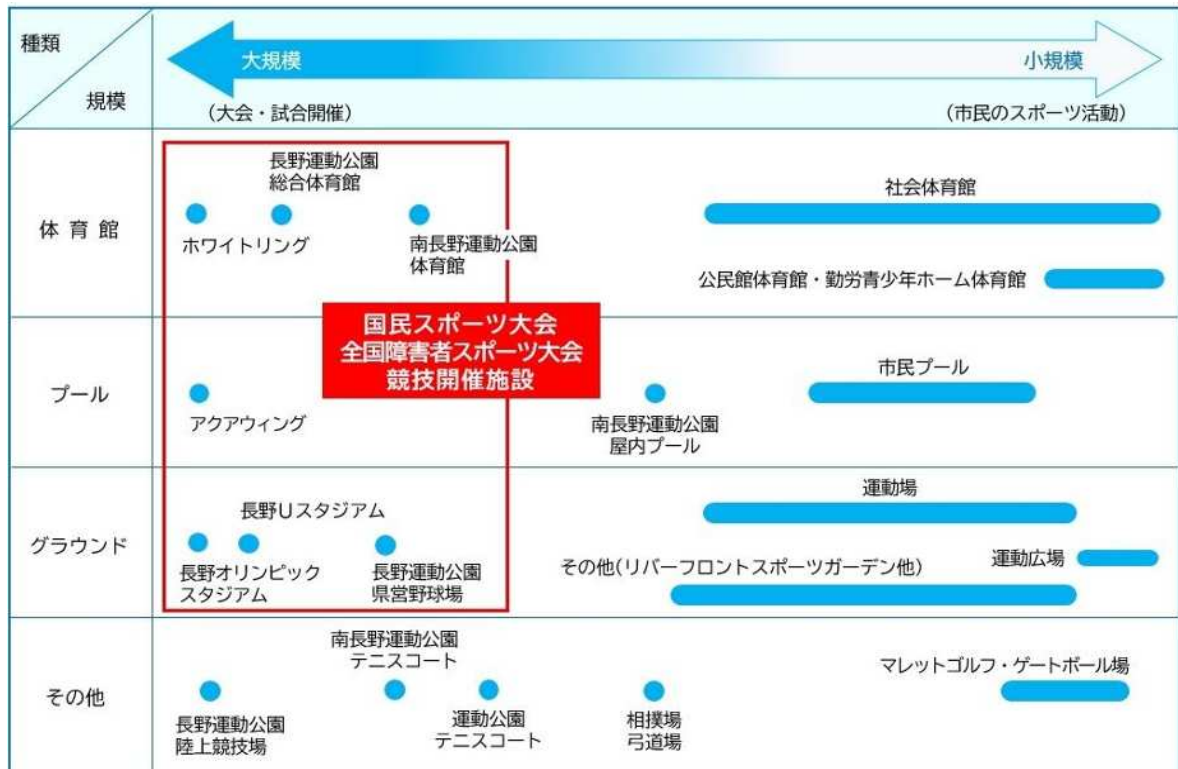
- ・国民スポーツ大会の開催に必要な施設整備であること
- ・本市のスポーツ施設が抱える課題を解消できる施設整備であること
- ・国民スポーツ大会終了後も市民に有効に活用される施設整備であること
- ・国民スポーツ大会の施設整備の対象となる補助、助成制度を最大限活用する施設整備であること

4 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会を行う施設の位置づけ

国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会を行う施設は、国民スポーツ大会の競技施設基準や選手・役員、観客等を迎え入れるための駐車場などの付帯施設を考慮すると、本市のスポーツ施設の中でも比較的大規模なものになります。

大規模スポーツ施設は、日常的な市民のスポーツ活動の場として利用されているほか、週末や休日を中心に、地域密着型プロスポーツチームの試合や、全国規模で参加者の宿泊を伴う“スポーツコンベンション”的な大会など、様々な大会などが開催され、本市のスポーツ振興の拠点としての役割を担っています。

また、防災拠点として各種計画に定められており、令和元年東日本台風災害の際にも多くの施設が避難所や支援・救助活動の拠点として活用されました。



5 公共施設適正化検討委員会からの提言（概要）

令和4(2022)年3月3日、長野市公共施設適正化検討委員会(倉田博光委員長)から提出された「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の施設整備に向けた提言」の概要は次のとおりです。

総論

- 現在の施設は、必要な長寿命化改修を施すなど、十分に活用
- 新たな整備等が必要な場合は、公共施設マネジメントに沿って、十分に検討
 なお、施設の整備に当たっては、以下に考慮
 - ・ 普段スポーツ施設を利用しない市民を含めた広い市民の理解
 - ・ 災害発生時などスポーツ以外での複層的な活用
 - ・ ユニバーサルデザインの推進
 - ・ 国等による財政的支援の確保や整備後の収支を見越した財政負担の抑制

施設別

体育館

- 総合体育館などの大規模体育館は、スポーツ振興の拠点施設となっているため、国スポ・全障スポ後も重要な役割を維持していくよう検討

プール

- アクアウィングは、長寿命化改修等を行い、国スポ・全障スポ後も有効に活用するよう対応

運動場（野球場）

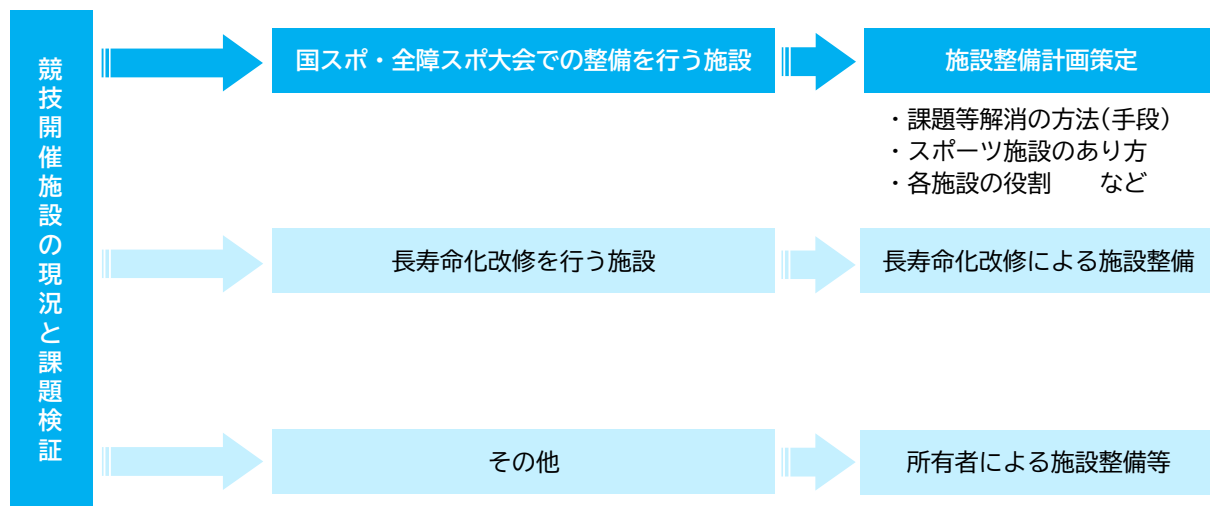
- 市有施設は、長寿命化改修など適切な対策を検討
- 県有施設は、県に働きかけ、国スポ開催に支障のないよう対応

運動場（球技場）

- 長野Uスタジアムは、今後も市のスポーツ振興に有効に活用
- 国スポを迎えるに当たり不足する競技環境の確保は、確実にできるよう対策を検討

6 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会における施設整備

国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の施設整備計画を進めるにあたり、それぞれの施設の現況と抱える課題を検証し、整備計画の対象とする施設と、長寿命化改修による整備対象とする施設等に分類した上で、施設整備計画を策定します。施設整備計画では、将来の本市の大規模スポーツ施設全体のあり方と、各施設の役割整理なども併せて検討を行います。



Ⅲ 競技開催予定施設(スポーツ施設)の現況と課題

Ⅲ 競技開催予定施設(スポーツ施設)の現況と課題

第 82 回国民スポーツ大会の競技開催予定のスポーツ施設の現状及び課題について、施設ごとに整理し、どのような整備が必要か検討を行います。

なお、冬季大会の競技開催予定施設であるエムウェーブとビッグハットは、冬季のアイスリンク設置期間以外はコンベンション施設として利用されているため、検討の対象外とします。また、ボウリング競技開催予定施設であるヤングファラオ及びライフル射撃(CP)競技開催予定施設である長野県警察学校も、本市が維持管理に関わっていない施設であるため、検討の対象外とします。

1 長野運動公園

総合体育館

(1) 実施予定競技

実施予定競技	種目/種別	備考
バスケットボール	未定※	
(水泳)	(選手待機場所等で使用)	会期前大会(9月)で使用

※ 成年男子、成年女子、少年男子、少年女子のいずれか

第 27 回全国障害者スポーツ大会での使用 ○:バスケットボール(知的障害)又は車いすバスケットボール

(2) 施設の概要

・工期	昭和 51(1976)年 12 月 22 日～昭和 53(1978)年 8 月 20 日					
・構造	〈主体育館〉 鉄筋コンクリート造 3 階 〈補助体育館〉 鉄骨、鉄筋コンクリート造 2 階 カラー鉄板折板葺					
・面積	建築面積(m ²)		延面積(m ²)			
	〈主体育館〉	3,998.27	6,526.81			
	〈補助体育館〉	1,069.34	2,135.66			
	計	5,037.61	8,662.47			
・施設内容	〈主体育館〉	メインアリーナ 1,925.59 m ² バスケットボール 2 面 バレーボール 4 面 バドミントン 12 面 卓球 24 面 観客席 固定席 1,200 人/立見 500 人/車イス 24 人 会議室 3、更衣室 2、卓球場(3階)、事務室、救護室				
	〈補助体育館〉	1 階 剣道場 363 m ² 柔道場 465 m ² (208 畳敷) 2 階 サブアリーナ 886.54 m ² バスケットボール 1 面 バレーボール 2 面				
・利用状況	年 度	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)
	利用人数	135,639 人	142,949 人	136,803 人	135,403 人	130,841 人

注: R 元(2019)年度以降は、令和元年東日本台風災害と新型コロナウイルス感染症の影響を受けているため掲載していない



主体育館 メインアリーナ



補助体育館2階 サブアリーナ



補助体育館1階 剣道場



補助体育館1階 柔道場

(3) 現況と課題

- ・ 平日は市民のスポーツ活動、休日は学生や一般の大会などに利用され、利用率が非常に高くなっています。
- ・ 令和元年東日本台風災害の際は、指定避難所として災害発生日(10月12日)から多くの避難者を受け入れ、避難所の整理・統合時には統合避難所として使用されました(12月20日閉鎖)。
- ・ 竣工後40年以上が経過しており施設全体の老朽化が激しくなっています。また、国民スポーツ大会開催時には竣工後50年を迎えることとなります。
- ・ 冷房設備が未設置であることや諸設備の老朽化等により大会(試合)の開催が敬遠されることが多くなっています。このためホワイトリングに大会(試合)が集中し、ホワイトリングの予約がとれない場合、本市に経済効果をもたらす大会(試合)が他の自治体に流れるケースがあります。
- ・ 利用者の動線やトイレ等のバリアフリー化が現在の基準から見ると不足しています。

- 竣工後43年経過による施設の老朽化
- 大会(試合)の開催が敬遠され、ホワイトリングに大会(試合)の開催希望が集中
- バリアフリー化不足により全国障害者スポーツ大会の開催に支障
- 指定避難所としての機能が不足
→ 高齢者・障害者対応(バリアフリー新法不適合)、夏季の対応(空調設備の不備)

総合市民プール（アクアウィング）

(1) 実施予定競技

実施予定競技	種目	種別	備考
水泳	競泳	成年男子／女子、少年男子／女子	会期前大会(9月)で実施の予定
	飛込	成年男子／女子、少年男子／女子	
	水球	少年男子	
	A S	少年女子	

第27回全国障害者スポーツ大会での使用

○：水泳（知的障害／身体障害）

(2) 施設の概要

- ・ 完 成 平成11(1999)年1月29日 注：プールとしての改修完成日
- ・ 構造、面積 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造）
建築面積 10,200.870㎡
- ・ 施設内容
 - メインプール 50m×25m 水深 浅部0～2.0m、深部0～3.0m
鉄筋コンクリート造 プール用タイル仕上
 - 長水路50m競泳プール 国際公認 8コース 両端余裕2.5m
 - 短水路25m競泳プール 公 認 16コース //
 - 国際シンクロプール、国際水球プール
 - ダイビングプール 20m×25m 水深 3.5m～5m
 - 国際公認飛込プール
 - サブプール 25m×14m 水深 1.2m～1.4m
鉄筋コンクリート造 プール用タイル仕上
 - 観客席 約2,000席（内車イス席10席）
 - 更衣室、トレーニングジム、公園管理事務室、会議室、機械室等

・ 利用状況

年 度	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)
利用人数	125,019人	130,467人	141,237人	140,031人	135,655人

注：R元(2019)年度以降は、令和元年東日本台風災害と新型コロナウイルス感染症の影響を受けているため掲載していない



アクアウィング外観



メインプール(手前)、ダイビングプール(奥)

(3) 現況と課題

- ・ プールだけでなく2階に設置されたトレーニングジムや会議室を使用しての各種スポーツ教室など、多くの市民に利用されています。また、県内唯一の本格的な屋内水泳競技施設として、全日本クラスを含めた競技大会が開催されています。
- ・ 竣工後20年以上が経過しており、設備の老朽化が目立つようになってきています(国民スポーツ大会開催時には竣工後30年経過)。ろ過機など定期的に更新が必要なものはもちろん、可動床や空調設備等、競技会の開催に必要な設備も老朽化・旧式化しているものがあります。

■ 定期的・計画的な設備更新、整備が必要

→ 怠ると将来的に大規模大会の開催が困難になる

県営野球場

(1) 実施予定競技

実施予定競技／種目	種別	備考
高等学校野球	硬式	特別競技

第27回全国障害者スポーツ大会での使用	なし
---------------------	----

(2) 施設の概要

- ・ 竣工 昭和41(1966)年10月
- ・ グラウンド 両翼98m センター122m 内野 シンダー舗装 外野 天然芝
- ・ スタンド 内野 鉄筋コンクリート造2階 収容人数10,000人
外野 芝生席 収容人数6,000人 スコアボード バックスクリーン
- ・ 照明設備 ナイター照明6基 高さ22m 昭和53(1978)年6月設置
照度 バッテリー間700ルクス 内野500ルクス 外野330ルクス
- ・ 利用状況

年度	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)
利用人数	37,771人	41,464人	55,991人	36,569人	41,597人

注：R元(2019)年度以降は、令和元年東日本台風災害と新型コロナウイルス感染症の影響を受けているため掲載していない



県営野球場 外観



県営野球場 グラウンド

(3) 現況と課題

- ・ 夜間や休日を中心に利用され、少年野球から入場料を徴収する高校野球、BCL※の試合まで、幅広い層に利用されています。 ※BCL：プロ野球独立リーグ ベースボール・チャレンジリーグ
- ・ 築後から 55 年を経過しており、施設全体の老朽化が激しくなっています。国民スポーツ大会開催時には築後 62 年を迎えることとなります。
- ・ 建物や設備は老朽化が進み常に不具合箇所が発生しているような状態ですが、一方でグラウンドの質の良さには定評があります。
- ・ 利用者の動線やトイレ等のバリアフリー化が現在の基準からすると不足しています。
- ・ 防球ネットが設置されておらず、打球による駐車車両への被害が多数発生しています。

- 建物・設備の老朽化が激しく、補修や更新が困難
- 観客を含めた障害者対応に支障
 - 高校野球(硬式)は国民スポーツ大会屈指の人気種目であり、多数の観客来場が予想される
- 飛球対策不足から施設周辺に人的・物的被害が発生する恐れ

長野運動公園 共通事項

(1) 駐車場不足

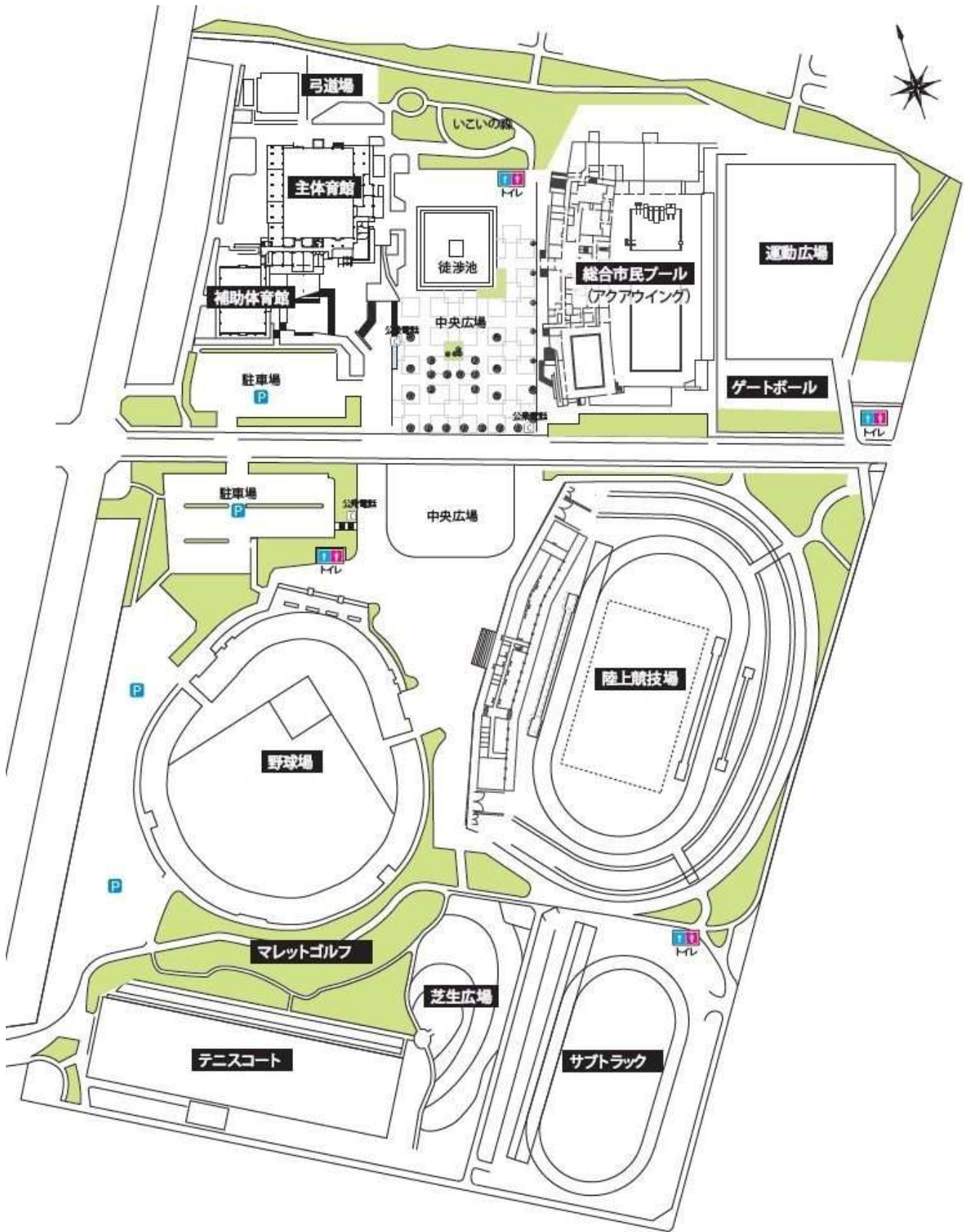
- ・ 長野運動公園には国民スポーツ大会の競技開催予定施設の 3 施設以外にも陸上競技場、テニスコート等があり、複数の大会・試合が開催される場合は周辺の商業施設や住宅地への迷惑駐車や交通渋滞が発生し、大会運営にも支障が生じています。特に大会等が多く行われる夏季には休日(週末)を中心に慢性的な駐車場不足となっています。
- ・ 駐車場が不足しているため、大規模な大会の開催時には、陸上競技場東側の民有地を大会主催者が借用し、駐車場として利用することがあります。

- 休日(週末)における慢性的な駐車場不足
 - 周辺への迷惑のほか、大会運営にも支障

参考：陸上競技場のサッカー競技での使用

- ・ 陸上競技場の芝生フィールドは、国民スポーツ大会のサッカー競技の施設基準を満たしておらず、競技会場とするにはトラックの改修などが必要となりますが、陸上競技に資する整備ではありません。
- ・ 本施設は市内唯一の陸上競技場として、平日、休日とも主に陸上競技に利用されており、国民スポーツ大会の改修を契機にサッカー競技の利用を中心に転換することは不可能です。
- ・ 長野運動公園では国民スポーツ大会で 3 施設が競技会場となることが予定されており、陸上競技場を競技会場として加えることは、前述の駐車場不足もあり、長野運動公園内において大会運営を困難なものとする可能性があります。
- ・ ただし、サッカー競技の練習会場とすることは可能と思われます。

(2) 長野運動公園 配置図



2 真島総合スポーツアリーナ（ホワイトリング）

(1) 実施予定競技

実施予定競技	種目	種別	備考
体操	競技	成年男子／女子、少年男子／女子	会期前大会(9月)
バスケットボール	—	未定※	

※ 成年男子、成年女子、少年男子、少年女子のいずれか

第27回全国障害者スポーツ大会での使用	○：バスケットボール(知的障害)又は車いすバスケットボール
----------------------------	-------------------------------

(2) 施設の概要

- ・ 工期 平成5(1993)年9月～平成8(1996)年3月
- ・ 構造
 - 〈メインアリーナ〉 鉄筋コンクリート造・鉄骨造 3階
 - 〈サブアリーナ〉 鉄筋コンクリート造・鉄骨造 2階
- ・ 面積

	建築面積(m ²)	延面積(m ²)
〈メインアリーナ〉	10,780	16,060
〈サブアリーナ〉	3,110	3,450
計	13,890	19,510
- ・ 施設内容
 - 〈メインアリーナ〉 アリーナ面積 2,700 m²
 バスケットボール 3面 バレーボール 4面
 バドミントン 12面
 観客席 固定席 5,008人 冷暖房設備
 会議室、シャワー・洗面所付更衣室、研修室、
 事務室 他
 - 〈サブアリーナ〉 アリーナ面積 2,300 m²
 バスケットボール 3面 バレーボール 4面
 バドミントン 12面
 ただし、半面は体操練習場として使用

・ 利用状況

年 度	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)
利用人数	166,723人	177,313人	167,263人	180,591人	177,454人

注：R元(2019)年度以降は、令和元年東日本台風災害と新型コロナウイルス感染症の影響を受けているため掲載していない



メインアリーナ 外観



メインアリーナ 内部



施設外観（右：メインアリーナ、左：サブアリーナ）



サブアリーナ 内部(右側のカーテン奥が体操練習場)

(3) 現況と課題

- ・ 市内でも貴重な冷暖房を完備した大規模体育館(アリーナ)として、国際大会、全国大会をはじめ多くの大会が開催されています。また、B1リーグ※1及びF1リーグ※2の要件を満たす施設として、信州ブレイブウォリアーズとボアルース長野フットサルクラブのホームアリーナとなっており、シーズン中はホーム戦が開催されています。

※1 B1リーグ：ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ ディビジョン1

※2 F1リーグ：日本フットサルリーグ ディビジョン1

〈参考：B1リーグ及びF1リーグの施設基準（抜粋）〉

	入場可能数	照明設備	空調設備
B1リーグ	5,000 席以上	1,400 ルクス	20℃程度に調整可
F1リーグ	1,000 人以上※	規定なし	冷暖房完備

※ 旧規定では2,000人以上

- ・ 本施設の前身は「長野市民体育館」ですが、オリンピック施設として国際大会等も開催可能な施設として新たに整備されたことから、多くの参加者が一堂に会して複数の試合を行うことができる会場として、選手・役員等の参加者や観戦者の宿泊を伴い、本市に経済波及効果を及ぼすような大規模大会が数多く開催される重要な施設となっています。
- ・ 空調設備とアリーナ面積などの点で他に代替となる体育館(アリーナ)がないことから、必ずしも本施設の規模でなくとも開催できる大会(試合)まで開催希望が集中し、開催前年度には週末(休日)の日程がほぼ埋まってしまう状況となっており、非常に予約の“競争率”が高い施設となっています。また、サブアリーナの半分が体操練習場となっていることもこの傾向に拍車をかけています。
- ・ 本来、メインアリーナと同程度のアリーナ面積を持つサブアリーナについて、常時半分使用できないことから、参加者(選手)人数の多い大会の運営などに制約を及ぼしています。
- ・ 築後20年以上が経過しており設備の老朽化が目立つようになっています(国民スポーツ大会開催時には築後30年経過)。各種設備についても老朽化・旧式化しているものがあります。また、高い利用率に比例して、メインアリーナの床(フローリング)の劣化が目立つようになっています。

■ 施設のポテンシャルを活かした有効利用ができていない

→ 本来の施設規模に応じた大会(試合)の開催による本市の活性化

■ 定期的・計画的な設備更新、整備が必要

→ 怠ると将来的に大規模大会の開催が困難になる ※フローリングの前回張替は平成21(2009)年

体育館

(1) 実施予定競技

実施予定競技	種目／種別	備考
バスケットボール	未定*	

※ 成年男子、成年女子、少年男子、少年女子のいずれか

第27回全国障害者スポーツ大会での使用	なし
---------------------	----

(2) 施設の概要

- ・ 工期 平成7(1995)年1月～平成8(1996)年10月
- ・ 構造 鉄筋コンクリート造+木造(屋根及び屋根梁) 2階
- ・ 施設内容
 - アリーナ面積 1,651.53㎡(周辺通路を除く)
 - バスケットボール 2面 バレーボール6人制 3面
 - バレーボール9人制 2面 ソフトテニス 2面
 - バドミントン 10面 卓球 20面
 - 会議室、更衣室、スタジオ、観客席 450席
 - 冷暖房設備(令和3(2021)年設置予定)
 - 同一建物内に通年型25mプール、幼児用プール、ジャグジー等あり

・ 利用状況

年 度	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)
利用人数	42,128人	41,291人	43,127人	44,574人	48,111人

注：体育館利用者のみ(プール利用者は含まない)。R元(2019)年度以降は、令和元年東日本台風災害と新型コロナウイルス感染症の影響を受けているため掲載していない



体育館・プール棟(右側が体育館)



体育館 内部(アリーナ)

(3) 現況と課題

- ・ 同じ建物内にある通年型の25mプールやトレーニングジムを含め、多くの市民のスポーツ活動に利用され、休日は学生や一般の大会などにも利用されています。

- ・ 令和元年東日本台風災害の際は、災害発生当日(10月12日)から多くの避難者を受け入れ、12月6日の閉鎖まで約2か月間、指定避難所として使用されました。
- ・ 本年(令和3(2021)年)、アリーナの冷暖房設置工事が完了し、ホワイトリングに集中していた大会(試合)を若干緩和できることや、避難所としての機能向上が期待されています。
- ・ アリーナ照明の照度が不足しており、利用者から「暗い」という苦情が多数寄せられています。
- ・ 竣工後20年以上が経過しており、設備の老朽化が目立つようになっています(国民スポーツ大会開催時には竣工後30年経過)。

- 定期的・計画的な設備更新、整備が必要
- アリーナ照明の照度向上、LED化が必要

長野オリンピックスタジアム

(1) 実施予定競技

実施予定競技/種目	種別	備考
高等学校野球	硬式	特別競技

第27回全国障害者スポーツ大会での使用	なし
---------------------	----

(2) 施設の概要

- ・ 工期 平成6(1996)年1月～平成12(2000)年3月
- ・ 面積 施設面積 37,900㎡
建築面積 14,809㎡
延床面積 10,867㎡
- ・ グラウンド 両翼 99.1m センター 122m 面積 14,200㎡ 内外野人工芝
- ・ スタンド 内野 鉄筋コンクリート造2階(一部鉄骨鉄筋コンクリート造)
収容人数 21,000人(バックネット裏椅子席、他はベンチ席)
外野 芝生席 収容人数 9,000人 磁気反転式スコアボード(W52m×H6m)
- ・ 照明設備 ナイター照明6基
照度 バッテリー間 2,500ルクス 内野 2,000ルクス 外野 1,000ルクス
- ・ その他設備 管理運営用諸室、選手用諸室、審判用諸室、報道関係者用諸室、トレーニングルーム、屋内練習場、会議室

利用状況	年度	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)
利用人数		101,012人	100,567人	124,260人	114,170人	134,623人

注：R元(2019)年度以降は、令和元年東日本台風災害と新型コロナウイルス感染症の影響を受けているため掲載していない



聖火台と長野オリンピックスタジアム外観



長野オリンピックスタジアム グラウンド

(3) 現況と課題

- ・ 長野オリンピックの開閉会式会場となった本市の象徴的な施設であり、全国的にも有数の規模を誇る野球場としてプロ野球から少年野球まで、幅広く利用されています。
- ・ NPB※の試合やBCL※の試合、全日本大学軟式野球選手権大会、全国高等学校野球選手権大会長野大会などの多くの観客が来場する大会が定期的に行われているほか、社会人や学生の練習にも利用されています。また、長野マラソンのフィニッシュ会場、オリンピックデーランなどのイベントにも利用されています。※NPB：日本野球機構／Nippon Professional Baseball Organization
※BCL：プロ野球独立リーグ ベースボール・チャレンジリーグ
- ・ 竣工後 20 年以上が経過しており、建物や設備の老朽化・旧式化が目立つようになっています（国民スポーツ大会開催時には竣工後 30 年経過）。



内野スタンド外側のシーリング剥がれ



正面階段の劣化(ひび割れ、欠け)

■ 定期的・計画的な設備更新、整備が必要
→ 怠ると将来的に大規模大会の開催が困難になる

総合球技場（長野Uスタジアム）

(1) 実施予定競技

実施予定競技／種目	種別	備考
サッカー	成年女子	

第27回全国障害者スポーツ大会での使用	なし※
---------------------	-----

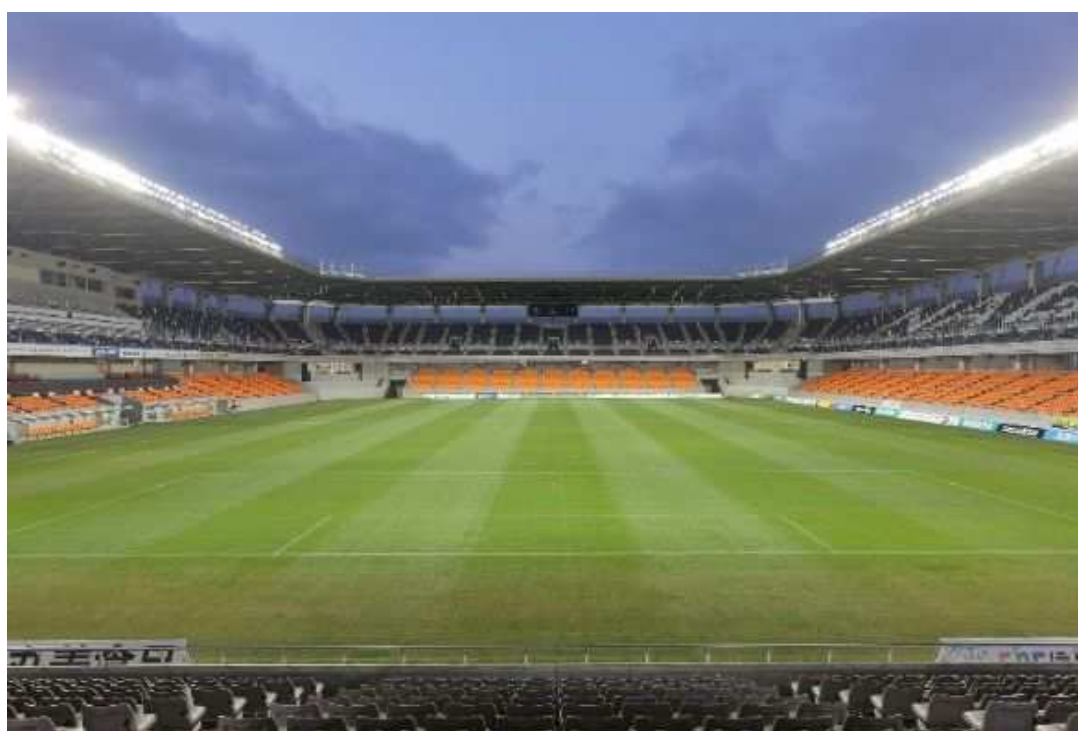
※ 全国障害者スポーツ大会のサッカー競技は松本市で開催予定

(2) 施設の概要

- ・ 工期 〈建設工期〉平成13(2001)年6月～平成15(2003)年3月
〈改修工期〉平成25(2013)年12月～平成27(2015)年2月
- ・ 構造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地上4階 高さ25m
- ・ 施設内容 施設面積 13,963 m² 延床面積 26,684 m²
フィールド面積 9,600 m² (120m×80m)
照明設備 100～1,500ルクス 映像装置 W12m×H6m フルカラーLED
収容人数 15,575人(一般観客席15,491席)
諸室、設備等 J1スタジアム基準準拠

利用状況	年度	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)
	利用人数	改修中	171,228人	152,768人	154,479人	116,948人

注：R元(2019)年度以降は、令和元年東日本台風災害と新型コロナウイルス感染症の影響を受けているため掲載していない



照明点灯時のフィールド

(3) 現況と課題

- ・ 長野オリンピック後にサッカー、ラグビー、アメリカンフットボール等の総合球技場として整備、その後、J1ライセンスの施設基準を満たす“スタジアム”として大規模改修され、屋根の形状から「長野Uスタジアム※」という愛称がつけられました。 ※公募による
- ・ J3リーグに所属するAC長野パルセイロと、WEリーグに所属するAC長野パルセイロ・レディースのホームスタジアムとなっており、シーズン中はホーム戦が開催されています。
- ・ 最新の設備を持ち、地方に適正な規模の“フットボール”専用スタジアムとして、日本サッカー協会はじめ競技団体からの評価が非常に高く、また“観戦しやすいスタジアム”として観客からの評価も高いものとなっています。
- ・ サッカー女子日本代表“なでしこジャパン”の代表戦が2回開催されているほか、2015年から海外からのチームを招いて「Jリーグインターナショナルユースカップ」が開催されています。

注：2020・2021年は新型コロナウイルス感染拡大のため大会中止

- ・ 2つのプロチームのホーム戦が行われているほか、サッカー、ラグビー等の各年代の大会等にも利用されており、他のJリーグホームスタジアムに比べて使用頻度が非常に高く、“競技場”としての評価を左右する芝生の維持管理が困難となっています。

〈参考：Jリーグホームスタジアムの年間使用日数〉

	チーム名	所属リーグ	年間使用日数	施設所有者
茨城県立カシマ サッカースタジアム	鹿島アントラーズ	J1	76日※2	茨城県
松本平広域公園総合球技場 (サンプロアルウィン)	松本山雅FC	J2※1	90日以内※3	長野県
南長野運動公園総合球技場 (長野Uスタジアム)	AC長野パルセイロ	J3	約120日※4	長野市

※1 2021シーズン ※2 2016年スポーツ庁資料 ※3 長野県スポーツ課資料 ※4 長野市開発公社による(2018年までの平均)

- ・ 傷んだ芝生を張り替えるために必要な芝生を育成する圃場(ほじょう)が少なく、高い使用頻度と相まって芝生の維持管理を一層困難にしています。
- ・ 長野Uスタジアムにはサブピッチがなく、また本市には長野Uスタジアムの他に国際大会や大会開催時の練習会場としての施設要件を満たすことができる芝生グラウンドもないため、これを必須の要件とする国際試合や大規模大会を誘致することが困難となっています。このため、競技団体からの高い評価を活かすことができていません。

〈参考：他のスタジアムのサブピッチ例〉 写真：Google



茨城県立カシマサッカースタジアム



松本平広域公園総合球技場 (サンプロアルウィン)

- ・ 国民スポーツ大会のサッカー競技については、本市の他に松本市(少年男子)及び大町市(少年女子)で開催されることが内定していますが、1市1種目開催とする方針のため、成年女子種目の開催にあたり、長野Uスタジアム以外にも国民スポーツ大会の施設基準を満たすサッカー場が必要です。

■ 国民スポーツ大会 サッカー競技場の施設基準

— (公財)日本サッカー協会 国体実施委員会「施設ガイドライン」抜粋／要約

- ・ 成年女子(参加チーム数：16)の開催には2～3面のピッチが必要
- ・ 原則ピッチ1面につき1日の試合数は3試合以下 注：芝のコンディション維持のため
→ 原則を適用し、ピッチ1面あたり1日3試合以下とすると、最低ピッチ3面が必要

成年女子	1日目	2日目	3日目	4日目
イベント	1回戦	準々決勝	準決勝	3決・決勝
A面	2試合		2試合	2試合
B面	3試合	2試合		
C面	3試合	2試合		
チーム数16	8試合	4試合	2試合	2試合

注：会期に総合開会式及び監督会議の日は含まない

- ・ 常緑の天然芝またはJFA公認のロングパイル人工芝公認ピッチであること
- ・ 人工芝の使用は各カテゴリーで1面の使用を原則とする。ただし、隣接した人工芝ピッチが2面以上ある場合は利用が認められる場合がある
- ・ 準決勝、決勝は必ず天然芝ピッチで開催
→ 人工芝ピッチは1回戦、準々決勝、3位決定戦のみ使用可能
- ・ チーム数分の更衣室、シャワールーム、ドーピングルーム等が必要
- ・ (その他、フィールドサイズ、ウォームアップスペース、付帯施設等を規定)

■ 使用頻度の高さ、圃場の不足により、芝生のコンディション維持が困難

→ 2チームのホームスタジアムであり試合数(使用日数)削減には限界がある

■ サブピッチ及び市内に長野Uスタジアム以外の競技施設がないため、大規模大会(試合)の誘致・開催が困難

→ 評価の高い長野Uスタジアムのポテンシャルを活かせていない

■ 国民スポーツ大会開催には、長野Uスタジアム以外にも大会の施設基準を満たす競技場が必要

→ 長野市営陸上競技場での開催にはトラック等の大規模な改修が必要であり、国民スポーツ大会終了後、再び復旧を行う必要がある

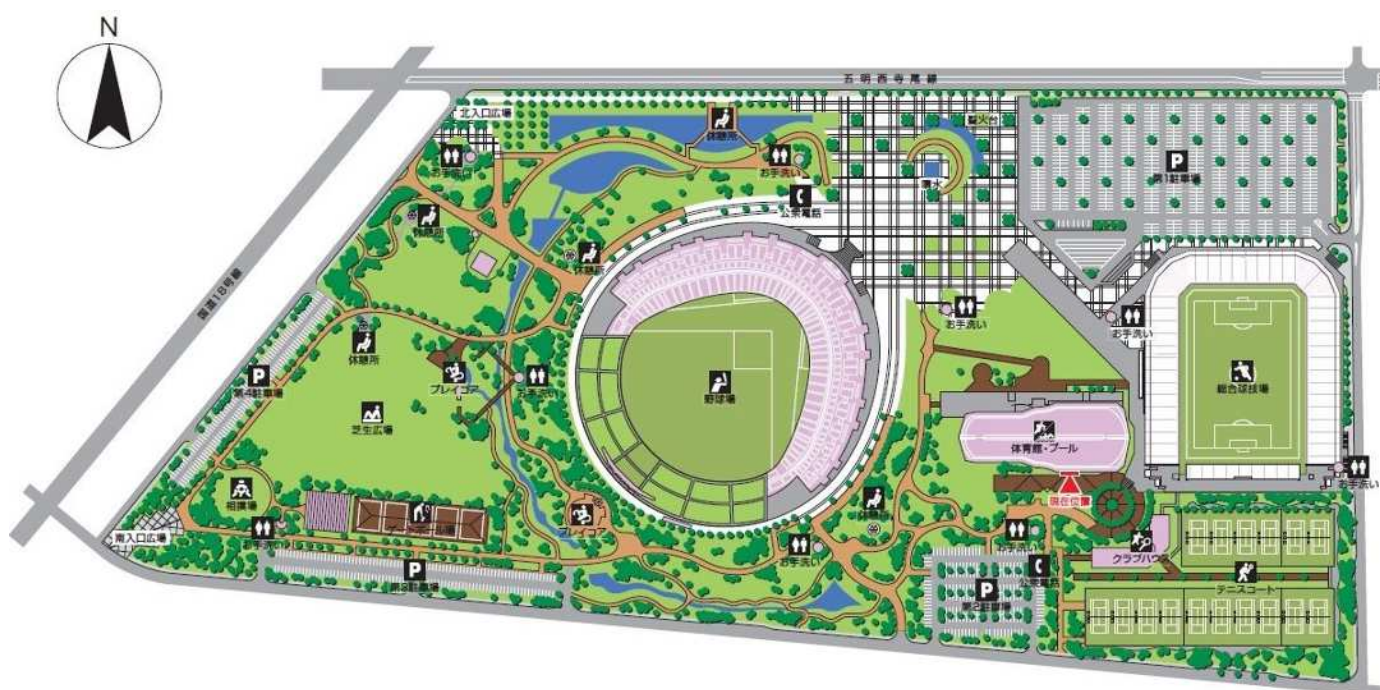
南長野運動公園 共通事項

(1) 駐車場不足

- ・ 南長野運動公園には国民スポーツ大会の競技開催予定の3施設以外にも、テニスコートやゲートボール場、相撲場等があり、複数の大会・試合が開催される場合は周辺の商業施設や住宅地への迷惑駐車や交通渋滞が発生し、大会運営にも支障が生じています。特にJリーグの試合が開催される週末は慢性的な駐車場不足となっています。

- 休日(週末)における慢性的な駐車場不足
→ 周辺への迷惑のほか、試合・大会運営にも支障

(2) 南長野運動公園 配置図



4 競技開催予定施設(スポーツ施設)の課題 — まとめ —

長野運動公園	総合体育館	<ul style="list-style-type: none"> ■ 竣工後 43 年経過による施設の老朽化 ■ 大会(試合)の開催が敬遠され、ホワイトリングに大会(試合)の開催希望が集中 ■ バリアフリー化不足により全国障害者スポーツ大会の開催に支障 ■ 指定避難所としての機能が不足
	総合市民プール (アクアウイング)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 定期的・計画的な設備更新、整備が必要
	県営野球場	<ul style="list-style-type: none"> ■ 建物・設備の老朽化が激しく、補修や更新が困難 ■ 観客を含めた障害者対応に支障 ■ 飛球対策不足からにより、施設周辺に人的・物的被害が発生する恐れ
	共通事項	<ul style="list-style-type: none"> ■ 休日(週末)における慢性的な駐車場不足
ホワイトリング		<ul style="list-style-type: none"> ■ 施設のポテンシャルを活かした有効利用ができていない ■ 定期的・計画的な設備更新、整備が必要
南長野運動公園	体育館	<ul style="list-style-type: none"> ■ 定期的・計画的な設備更新、整備が必要 ■ アリーナ照明の照度向上、LED化が必要
	長野オリンピックスタジアム	<ul style="list-style-type: none"> ■ 定期的・計画的な設備更新、整備が必要
	総合球技場 (長野Uスタジアム)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 使用頻度の高さ、圍場の不足により、芝生のコンディション維持が困難 ■ サブピッチ及び市内に長野Uスタジアム以外の競技施設がないため、大規模大会(試合)の誘致・開催が困難 ■ 国民スポーツ大会開催には、長野Uスタジアム以外にも施設基準を満たす競技場が必要
	共通事項	<ul style="list-style-type: none"> ■ 休日(週末)における慢性的な駐車場不足



長野運動公園総合体育館（建設年月 昭和 53(1978)年 8 月）

IV 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会施設整備計画の策定

1 施設整備計画の対象とする施設等

(1) 長寿命化改修による整備を行う施設

第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会の競技開催予定施設のうち、主な課題として「定期的・計画的な設備更新、整備が必要」が挙げられ、かつ、公共施設個別施設計画で今後の施設の方針を「長寿命化」としている施設は、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向けた施設整備計画の対象とせず、長野市公共施設等総合管理計画の長寿命化基本方針に基づき、施設の長寿命化を図るための保全工事を中心に実施していくものとします。

〈長寿命化改修による整備等を行う施設〉

- 長野運動公園 総合市民プール（アクアウィング）
- 真島総合スポーツアリーナ（ホワイトリング）
- 南長野運動公園 体育館
- 南長野運動公園 長野オリンピックスタジアム

(2) 施設整備計画の対象から除く施設

第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会の競技開催予定施設のうち、次の施設については所有者が長野市でないため、施設整備計画の対象から除くものとします。ただし、大会の開催に向けて老朽化等の課題を解消するため、施設所有者である長野県に対し改築を要望します。

〈施設整備計画の対象から除く施設〉

- 長野運動公園 県営野球場 — 施設所有者である長野県に対し、課題解消のため改築を要望

(3) 施設整備計画の対象とする施設等

第 82 回国民スポーツ大会の競技開催予定施設のうち、次の施設を国民スポーツ大会施設整備計画の対象とし、課題解決に向けた整備手法等の検討を行います。検討にあたっては、当該施設の課題だけでなく、長野市全体の公共施設マネジメント、財政状況、スポーツ環境等を考慮しながら、将来本市のスポーツ振興に資する整備となるよう、複合的に検討を行います。

なお、長野運動公園及び南長野運動公園の共通の課題である駐車場不足についても、併せて解決策の検討を行います。

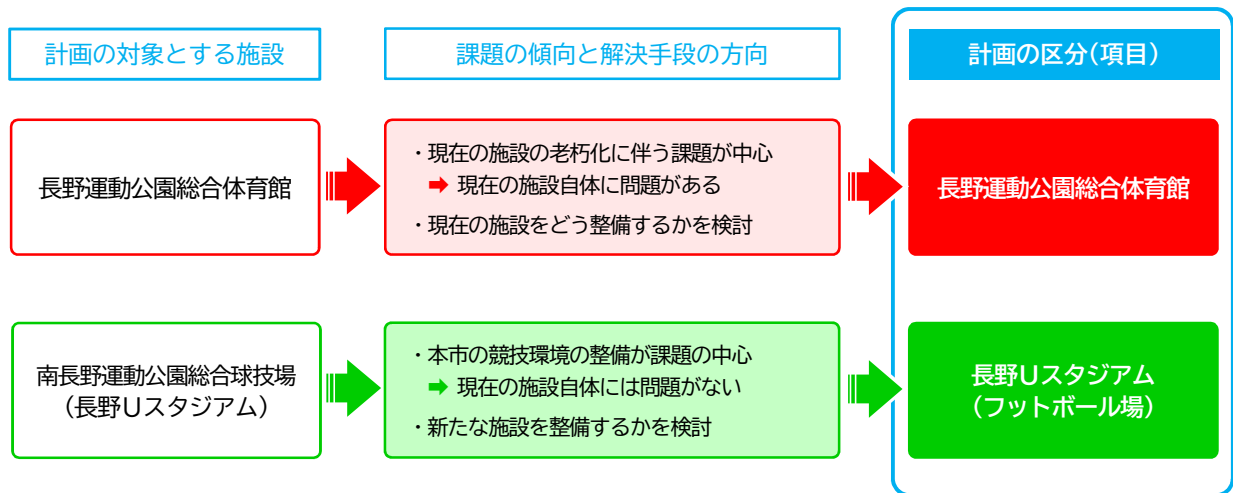
〈施設整備計画の対象とする施設等〉

- 長野運動公園 総合体育館
- 南長野運動公園 総合球技場（長野Uスタジアム）

2 施設整備計画の内容

(1) 施設整備計画の区分(項目)

国民スポーツ大会施設整備計画では、前項で定めた対象とする施設について、以下のとおり区分し、整備方針の検討・策定を行います。



(2) 施設整備計画で定める事項

国民スポーツ大会施設整備計画では、項目ごとに以下の事項について定めるものとします。

- | | |
|----------------|-------------------|
| ① 課題等解消の方法(手段) | ④ 施設の規模・整備の内容(仕様) |
| ② 施設整備計画における方針 | ⑤ 財政負担の軽減 |
| ③ 施設整備後の利活用 | ⑥ 事業スケジュール |

(3) 計画の期間

令和4(2022)年度から令和10(2028)年度(大会開催年度)までとします。



長野マラソン スタートの様子（長野運動公園）



V 長野運動公園 総合体育館

1 課題解消の方法（手段）

(1) 課題の整理

長野運動公園総合体育館について、Ⅲ-1で挙げた課題は以下のとおりです。

- 1 竣工後 43 年経過による施設の老朽化
- 2 大会(試合)の開催が敬遠され、ホワイトリングに大会(試合)の開催希望が集中
- 3 バリアフリー化不足により全国障害者スポーツ大会の開催に支障
- 4 指定避難所としての機能が不足
→ 高齢者・障害者対応(バリアフリー新法不適合)、夏季の対応(空調設備の不備)

(2) 課題の分析

1 竣工後 43 年経過による施設全体の老朽化

- ・施設全体の老朽化が激しく、コンクリート打放しの外壁はコンクリートの中酸化による爆裂が発生しています。また、メインアリーナは天井から雨漏りが続いています。
- ・基準値以上の耐震強度を保持していますが、昭和 56(1981)年の新耐震基準以前に建てられた旧耐震基準施設です。
- ・長野市公共施設等総合管理計画の長寿命化の基本方針では、「昭和 56(1981)年の新耐震基準以前に建てられた既存施設は、今後の施設総量削減を見据え、原則、長寿命化は行わず、竣工から 50 年を建替え時期とする」としています。

2 大会(試合)の開催が敬遠され、ホワイトリングに大会(試合)の開催希望が集中

- ・原因 1：空調設備の不備
 - メインアリーナは重油ボイラーによる暖房のみとなっており、サブアリーナ、柔剣道場に空調設備はありません(会議室と事務室には個別エアコン有)。このため、特に夏場を中心に空調設備の整ったホワイトリングに大会(試合)の開催希望が集中する傾向があります。
- ・原因 2：観客席が 1,200 席(固定席)と少ない
 - 興行として行われるスポーツイベントでは、一般的にホームチームの安定的な経営状態を保つため、1 試合当たり 2,000 人以上の観客数が望ましいと言われています。また、一般の大会では観客席が参加者の控え場所となるため、参加者の多い大会では通路や 2 階のエントランスも控え場所として使用する状態になります。

・原因3：観客用トイレが少ない

→ スポーツアリーナで推奨される最小設置数は、女性1,000人につきトイレが20室、洗面台が7、男性1,000人につきトイレ5室、小便器10器、洗面台が5とされています。

現在の施設は、トイレは、2階に女性トイレ10室、洗面台が6、男性トイレ4室、小便器11器、洗面台が6、3階に女性トイレ1室、洗面台が1、男性トイレ1室、小便器2器、洗面台が1となっています。車イス等に対応する多目的トイレは1階にしかありません。

・原因4：大会(試合)運営諸室の不備

→ 大会(試合)運営に必要な諸室が不足しています。特に各種競技の運営側から求められる審判更衣室や、国民スポーツ大会でも設置が求められるドーピングコントロール室に適した諸室がありません。

3 バリアフリー化不足により全国障害者スポーツ大会開催に支障

・昭和53(1978)年8月竣工の古い建物であるため、平成18(2006)年に改正したバリアフリー法の建築物移動等円滑化基準を満たしていません。このため、出入口の段差解消、手摺の設置、2階や3階への多目的トイレ設置などが必要です。

4 指定避難所としての機能が不足

・原因1：高齢者・障害者対応の機能が不足

→ 施設のバリアフリー化不足により、利用者の動線やトイレなど避難生活に不便を与えるおそれがあります。実際に令和元年東日本台風災害で避難所となった際、高齢者から改善の要望がありました。

・原因2：空調設備の不備

→ 近年は温暖化により気温が上昇し、屋内でも熱中症の危険があります。本施設は冷房がないため、夏場は避難生活を送るのが困難な状態です。



令和元年東日本台風災害発生当初のメインアリーナ内



避難所として長期間利用されたメインアリーナ

(3) 課題解消のために考えられる方法（手段）

これまでの検証から、課題解消のためには現在不足している機能を有した体育館を整備する必要がありますが、そのためには次の2つの方法(手段)が考えられます。

案A：現在の総合体育館を大規模改修する
案B：現在の総合体育館を建替える

以下、それぞれの案について検証を行います。

不足している機能など	案A：大規模改修	案B：建替え
老朽化	△ 中性化対策や長寿命化には相当の費用を要するが、耐用年数は延びない	○ —
空調設備	△ 機械室や配管等のスペースが必要なため、現在の機能が損なわれるおそれがある	○ 新設のため整備可能
観客席(参加者の控え場所)	× 拡張は困難	○ 新設のため整備可能
観客用トイレ	× 拡張は困難	○ 新設のため整備可能
大会(試合)の運営諸室	× 増設は困難	○ 新設のため整備可能
バリアフリー化	△ 2階以上への多目的トイレ設置は困難	○ 新設のため整備可能

国民スポーツ大会時に竣工後50年を経過する施設であり、大規模改修後約30年で鉄筋コンクリート躯体の耐用年数を迎えます。^{※1}

なお、国土交通省の防災・安全交付金では「耐用年数の9割^{※2}を超過した公園施設」を重点配分の対象としています。

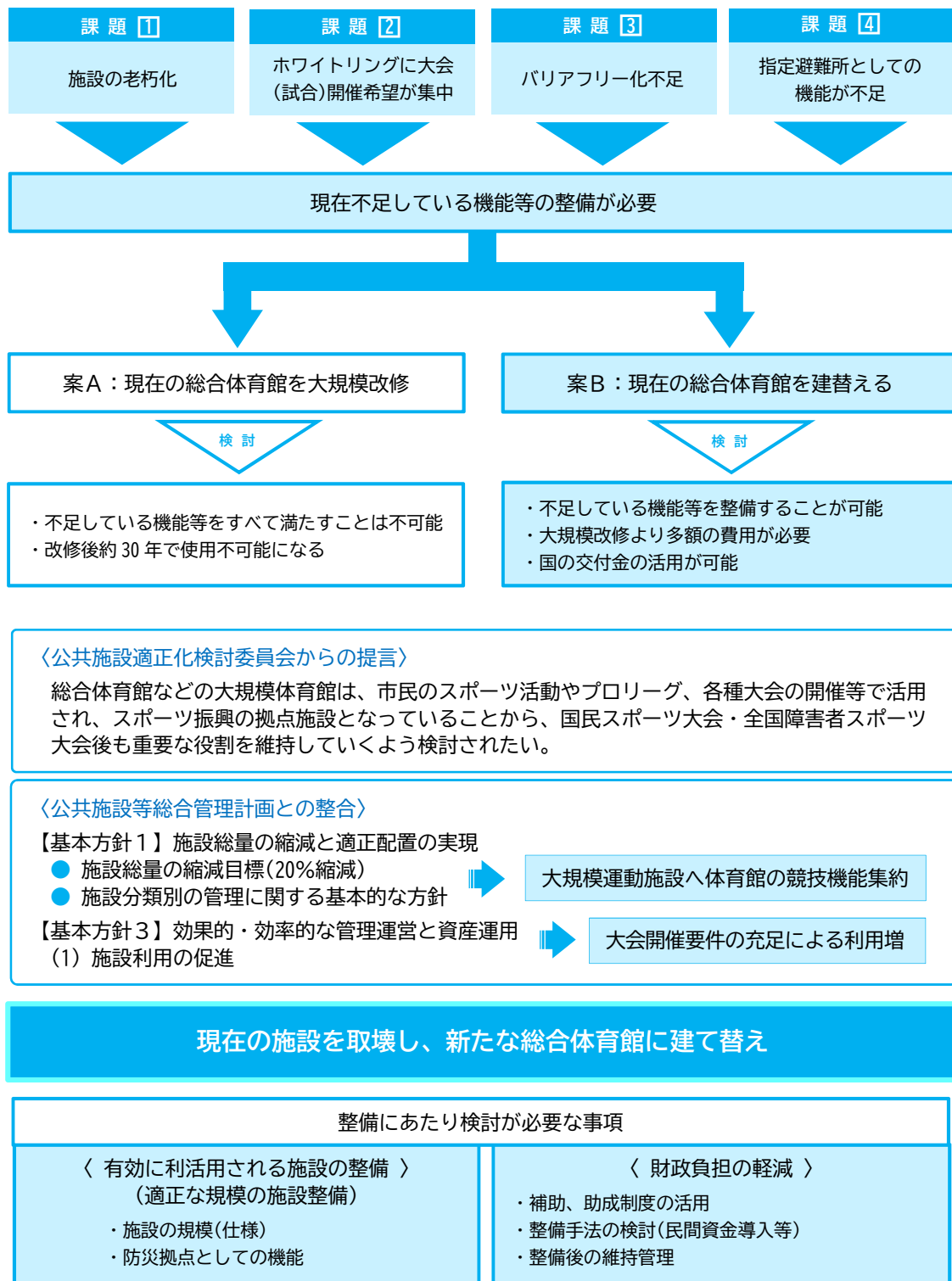
※1 長野市公共施設等総合管理計画における使用年数の考え方（**新耐震基準以降の建物の場合**）
「鉄筋コンクリート造躯体における物理的な耐用年数は「建築物の耐久計画に関する考え方」（日本建築学会）により（中略）耐用年数(Y)は81年と算出されるため本市の目標使用年数を80年と設定します。」

※2 長野運動公園総合体育館の場合、令和5(2023)年に耐用年数の9割(竣工後45年)を迎える

2 施設整備計画における方針

(1) 施設整備の方針

これまでの分析と検証の結果から、現在の施設を取壊し、課題を解消できる機能を有した新たな総合体育館に建て替えることとします。また、整備にあたっては、本市全体の大規模体育館のあり方を見直し、将来にわたって市民等に有効に活用され、可能な限り本市の財政負担軽減を図ることができるよう検討した上で、新しい総合体育館の規模(仕様)を決定することとします。



(2) 公共施設適正化検討委員会からの提言

公共施設適正化検討委員会からは、体育館について次のとおり提言を受けました。また、検討小委員会では、長野運動公園総合体育館の建替えについても意見が出されました。

■ 提言（体育館関係）

- 総合体育館などの大規模体育館は、市民のスポーツ活動やプロリーグ、大会の開催等で活用され、スポーツ振興の拠点施設となっており、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の後も重要な役割を維持していくよう検討されたい。

【参考】検討小委員会における各委員の主な個別意見

- ・総合体育館は、かなり古い施設で利用者も多いため、新しく建替える必要がある
- ・他の大規模体育館を含めて位置づけを明確にし、各施設の役割が重複しないようにすること
- ・公式大会開催が可能など、大規模体育館ならではの利用価値の高い施設とすること
- ・バリアフリー等、今まで不足していた部分を整備すること
- ・シャワー室や運営に使用する諸室など、選手や大会運営側の意見も取り入れること
- ・（長野運動公園総合体育館の建替えを行う場合には）国際規格のプールであるアクアウィングと一体的に利用できるようにし、国際大会を含めた大規模大会が開催できるよう検討すること
- ・体育館の建設とともに、使いやすい駐車場の整備をきちんと行うこと
- ・利用用途に対して規模や設備の過不足がないよう、よく検討を行うこと
- ・施設の使い方を決定した上で、適切な利用料金を検討すること
- ・建設後すぐに改修が必要といったことがないよう、基本的な計画をよく検討すること
- ・現在無料で利用できる社会体育館の有料化を検討すること

3 施設整備後の利活用

(1) 本市の大規模体育館のあり方

■ 本市の体育館の現況

本市には令和4(2022)年現在 44 施設 46 フロアの体育館があり(学校施設を除く)、その内訳は以下のとおりとなっています。

No.	施設名	フロア面積	観客席	
1	長野運動公園 総合体育館	メインアリーナ	1,925.59 m ²	固定席 1,200
2		サブアリーナ	886 m ²	—
3	真島総合スポーツアリーナ (ホワイトリング)	メインアリーナ	2,700 m ²	固定席 5,008
4		サブアリーナ	2,300 m ²	—
5	南長野運動公園 体育館	1,651.53 m ²	固定席 450	
6	社会体育館	三輪体育館	720 m ²	—
7		篠ノ井体育館	720 m ²	—
8		芹田体育館	406 m ²	—
9		安茂里体育館	696 m ²	—
10		松代体育館	696 m ²	—
11		若穂体育館	690 m ²	—
12		川中島体育館	696 m ²	—
13		七二会体育館	410.55 m ²	—
14		信更体育館	700 m ²	—
15		北郷体育館	312 m ²	—
16		川合新田体育館	416 m ²	—
17		芋井体育館	476 m ²	—
18		古里体育館	696 m ²	—
19		小松原体育館	416 m ²	—
20		塩崎体育館	715.2 m ²	—
21		古牧体育館	715.2 m ²	—
22		長沼体育館 (現在使用不可)	768 m ²	—
23		裾花体育館	777.6 m ²	—
24		浅川体育館	799.2 m ²	—
25		柳原体育館	779.2 m ²	—
26		朝陽体育館	782.4 m ²	—
27		豊野体育館	1,428 m ²	—
28		戸隠体育館	1,147 m ²	—
29		大岡体育館	750 m ²	固定席約 190
30		信州新町体育館	1,467 m ²	固定席約 200
31		中条体育館	739.2 m ²	—

No.	施設名	フロア面積	観客席
32	更北体育館	909.16 m ²	—
33	大豆島体育館	854 m ²	固定席約 70
34	昭和の森公園フィットネスセンター	720 m ²	—
35	篠ノ井村山健康スポーツセンター	375 m ²	—
36	両京健康スポーツセンター	476 m ²	—
37	上里健康スポーツセンター	476 m ²	—
38	朝陽公民館体育館	290 m ²	—
39	若槻公民館体育館	308 m ²	—
40	浅川公民館体育館	356 m ²	—
41	小田切公民館体育館	432 m ²	—
42	中部公民館分室後町ホール	583 m ²	—
43	信更公民館高野分室体育館	389 m ²	—
44	北部勤労者青少年ホーム体育館	312 m ²	—
45	南部勤労者青少年ホーム体育館	410 m ²	—
46	中部勤労者青少年ホーム体育館	396 m ²	—

これらのうち、フロア面積が広く、観客席や駐車場があることから、市内全域や県内・北信越・全国から参加者が集まる大会(試合)の開催希望が集中する施設は以下の3施設になります。

なお、これらの施設は、交流人口拡大の推進の観点から、北信越以上の大会については優先予約ができるようにしており、平日の市民利用も含め稼働率は非常に高くなっています。

- ◆ 長野運動公園 総合体育館
- ◆ 真島総合スポーツアリーナ (ホワイトリング)
- ◆ 南長野運動公園 体育館

また、社会体育館の中でも豊野体育館と信州新町体育館の2施設は、フロア面積が1,400 m²以上と広く、駐車場も比較的広いため、上記の3施設が予約できなかった大会が開催されることが多くなっています。

- ◆ 豊野体育館 フロア面積 1,428 m²
- ◆ 信州新町体育館 フロア面積 1,467 m²

5施設以外の体育館は、市民のスポーツ活動の場や地域の大会、イベント等での利用が中心となっています。

以上の5施設に、興行的スポーツイベントで利用されることもある「若里多目的スポーツアリーナ(ビッグハット)」を加え、本市の大規模体育館のあり方を検討します。

■ 本市の大規模体育館の利用状況と利用調整に関する課題

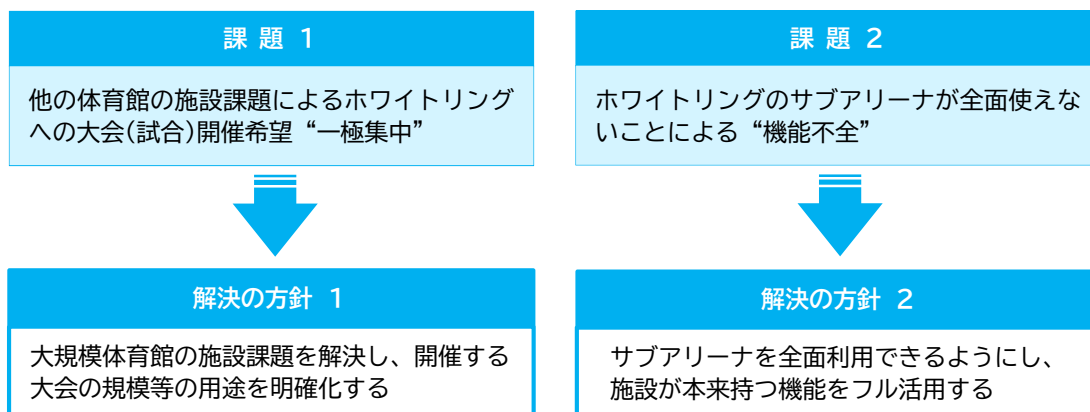
本市の大規模体育館の利用状況と利用調整に関する課題を分析し、主な課題を集約した上で、解決のための方針を検討します。

・ 大規模体育館の利用状況と利用調整に関する課題

施設名	利用状況と利用調整に関する課題
長野運動公園 総合体育館	<p>○利用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北信越大会、県大会、北信大会、長野市大会の開催 ・中体連、高体連主催大会の開催 ※ 全国大会は空調設備を求められることが多く、あまり開催されていない <p>○利用調整に関する課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空調設備の不足や老朽化等、施設に関する課題から、ホワイトリングでの開催が第一希望であることが多い ・空調設備が開催要件となる大会、試合の開催ができない
ホワイトリング	<p>○利用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北信越大会、県大会、北信大会、長野市大会の開催 ・高体連、中体連主催大会の開催 ・国際大会、全国大会の開催 ・地域密着型プロスポーツチームのホームゲーム開催 <p>○利用調整に関する課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空調設備があることや他施設の課題により、必ずしもホワイトリングの規模でなくても開催が可能な大会、試合であっても予約が集中している ・サブアリーナの半分に体操練習場が常設されていることから、大規模大会の開催に制約が生じる 例) サブアリーナを選手の控え場所として利用する計画であったが面積が足りず、近隣の小学校体育館を借用
南長野運動公園 体育館	<p>○利用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北信越大会、県大会、北信大会、長野市大会の開催 ・高体連、中体連主催大会の開催 ※ 全国大会は空調設備を求められることが多く、あまり開催されない <p>○利用調整に関する課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空調設備の不足や観客席数等、施設に関する課題から、ホワイトリングでの開催が第一希望であることが多い ・令和3(2021)年に空調設備を整備したことから、開催可能な大会が増え、ホワイトリングへの“一極集中”緩和が期待される
ビッグハット	<p>○現況(主な利用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンサート、コンベンションの開催 ・冬季はフィギュアスケートの全国大会、国際大会が開催されている <p>○利用調整に関する課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季のスポーツイベント開催は、フロアの設置に経費がかかることから、収入を見込める興行的イベントに限られる。
豊野体育館・信州新町体育館	<p>○利用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトリング他の予約ができなかった長野市大会等 ・通常は市民のスポーツ活動での利用が主である

本市の大規模体育館は、それぞれの施設が抱える課題から、大会(試合)の規模を問わずホワイトリングに開催希望が集中し、その後他の施設に振り分けられていく傾向があり、大会(試合)の規模に応じた区分も明確になっていません。

このことから、次のとおり主な課題を集約し、解決の方針を示します。



■ 将来の本市の大規模体育館のあり方

前項で検証した課題解決の方針から、将来的にどのような用途に利用していくか長野市総合計画施策の категорияに分類し、あり方を検討します。

・ 将来の本市大規模体育館のあり方

総合計画施策	カテゴリー	役割	施設	主な用途*
スポーツを通じた交流拡大の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 交流人口拡大 ● プロチームとの連携 		ビッグハット	◆ 興行的な大規模スポーツイベントの開催
			ホワイトリング	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 信州ブレイブウォリアーズのホームゲーム開催 ◆ 国際大会、全国大会、北信越大会の開催 ・ 長野運動公園総合体育館の建替えを機に体操練習場を移設し、サブアリーナ全面を利用可能にすることにより、本来のポテンシャルを活用
誰もがスポーツを楽しめる環境づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 生涯スポーツ推進 ● 競技力向上 		長野運動公園総合体育館	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ポアールス長野のホームゲーム開催 ◆ 全国大会、北信越大会、県大会、北信大会の開催 ◆ 高体連、中体連主催大会の開催 ・ 建替えを機に体操練習場を移設し、これまでホワイトリングでしか開催されなかった体操関係の大会も開催する
			南長野運動公園体育館	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 北信越大会、県大会、北信大会、長野市大会の開催 ◆ 高体連、中体連主催大会の開催 ・ 令和3(2021)年、空調設備を整備
			豊野体育館 信州新町体育館	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 長野市大会等、他の大規模体育館を予約できなかった大会の受け皿として活用 ・ 利用料が無料であることから空調(冷房)設備の整備は当面行わない

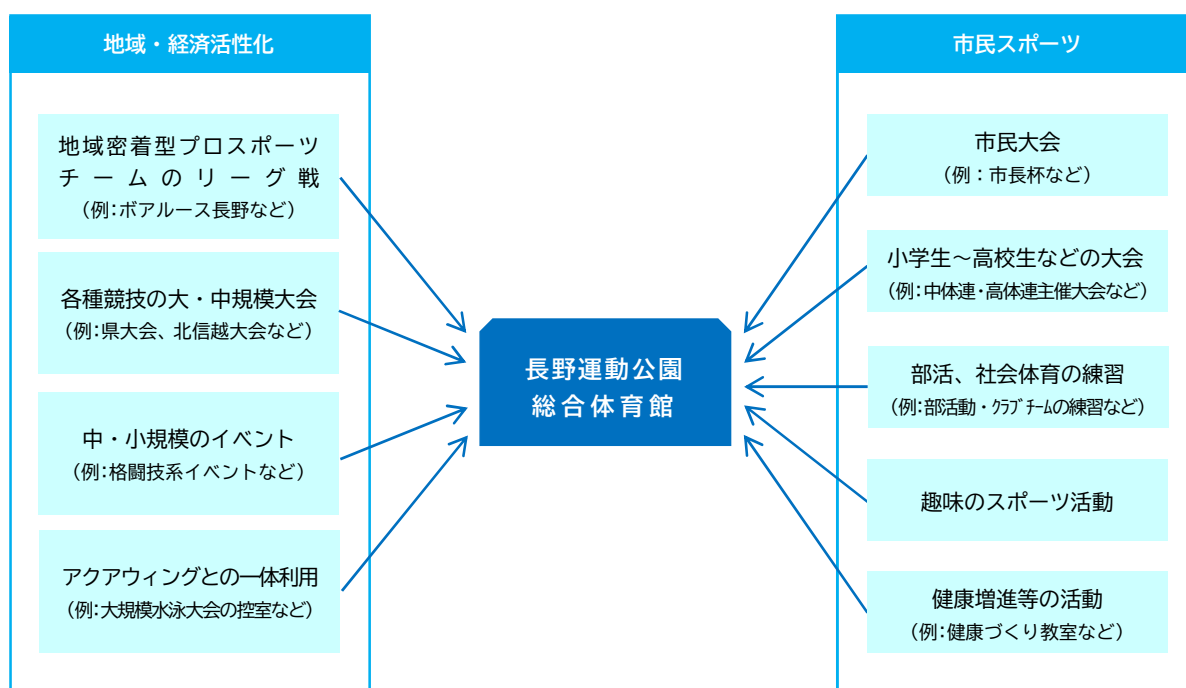
※「主な用途」は週末(休日)を中心としたものであり、平日は市民のスポーツ活動に利用する

(2) 施設整備後の利活用

新たな長野運動公園総合体育館は、「地域・経済活性化」と「市民スポーツ」両方の役割を持つ必要があります。

「地域・経済活性化」の役割としては、空調設備や観客用トイレ、運営諸室等、現在不足している機能を整備することにより、これまで大会の規模に関わらずホワイトリングに集中していた開催希望を、開催要件に応じた適正な会場に分散することが可能になります。

「市民スポーツ」の役割としては、現在もメイン・サブの体育館(アリーナ)だけでなく柔道、剣道や卓球場などを備えた、本市で唯一の“総合体育館”として日常的に多くの市民のスポーツ活動の場として利用されているため、今後も引き続き機能を維持していく必要があります。



(3) 防災拠点としての利活用

長野運動公園は災害対策基本法に基づく指定緊急避難場所及び指定避難所に指定されているほか、「長野市地域防災計画」及び「長野市受援計画」において災害発生時の支援や救助活動の拠点到に位置付けられています。

令和元年東日本台風災害の際、総合体育館は主にメインアリーナが避難所として利用されたほか、サブアリーナは災害派遣された自衛隊の宿营地として利用されました。

新たな総合体育館においては、大規模な災害の発生時に、これまで以上に有効に利用されるように整備内容を検討する必要があります。

4 施設の規模・整備の内容（仕様）

(1) 施設の規模

これまでの検証により、新たな長野運動公園総合体育館は、V-3で示した本市の大規模体育館のあり方から、「地域・経済活性化」と「市民スポーツ」両方の役割を持ち、ホワイトリングと南長野運動公園 体育館の中間的な規模の施設であることが求められます。また、長野市公共施設等総合管理計画に基づき、将来社会体育施設等を本施設へ集約していく可能性があることから、原則として大幅な拡大もしくは縮小を行わず、以下の方針により整備の内容を検討します。

■ 現在の競技環境の維持

- ・現在の競技環境：メインアリーナ、サブアリーナ、柔道場、剣道場、卓球場
- ・将来的に社会体育施設等を本施設へ集約化
- ・高い稼働率や、将来の社会体育施設の集約化を見据え、現有機能を維持

■ 空調設備の整備

- ・冷暖房設備を整備する
- ・大会等の利用や避難所開設時の利用を考慮し、ロビー等共用部分の空調も考慮する

■ 体操練習場の整備

- ・ホワイトリングのサブアリーナに常設化している体操練習場を移設
- ・本市の大規模体育館全体の機能向上

(2) 整備の内容（仕様）

■ 国民スポーツ大会の競技施設基準

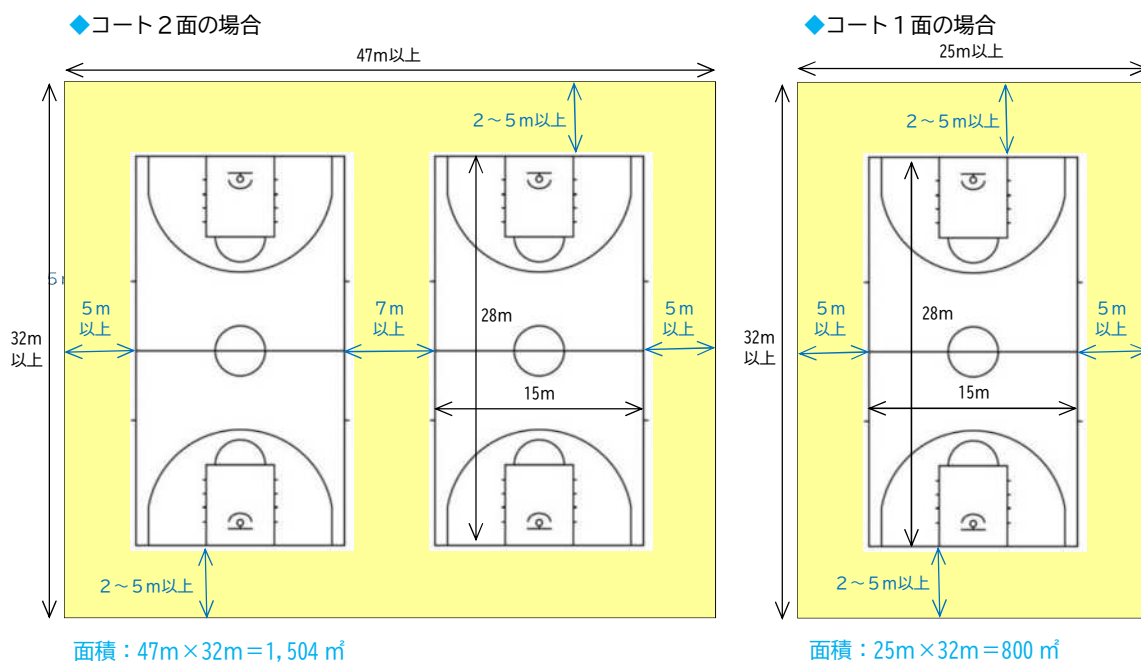
メインアリーナ及びサブアリーナの仕様を検討するにあたり、今回の整備が国民スポーツ大会の施設整備として行うものであることから、大前提として国民スポーツ大会の競技施設基準を満たす施設とし、大会が開催できるようにする必要があります。

◇ バasketボールの施設基準

- ・規定のコート10面 ➡ 長野運動公園 総合体育館はメインアリーナ2面、サブアリーナ1面が必要

施設名		コート数	備考
長野運動公園 総合体育館	メインアリーナ	2	現在のコート数と同じ
	サブアリーナ	1	現在のコート数と同じ
ホワイトリング	メインアリーナ	3	
	サブアリーナ	2	体操練習場を移設しない場合は1面のみ
南長野運動公園 体育館		2	
コート数 合計		10	

・規定のコートサイズ及び周辺の余白



・照明に関する基準：「コート面上1mの高さで700ルクス以上とすることが望ましい」

体操練習場をホワイトリングから移設した場合、今後の競技団体等との協議によって国民スポーツ大会の体操競技についてもメインアリーナでの開催となる可能性があるため、体操競技の施設基準についても考慮する必要があります。

◇ 体操競技の施設基準

- ・競技場の広さ 2,000㎡以上※
- ・競技場の高さ 12m以上
- ・空調設備 冷暖房を完備していること
- ・照明に関する基準 1,000ルクス以上

但し、地元の保有施設がこの限りでない場合には、別途検討、調整を図る



※ 上越市が“大会を想定した規模”の体操専用アリーナとして、令和2年に以下の仕様で整備していることから、必ずしも2,000㎡は必要ではないと思われる

【参考】上越市立上越体操場(愛称：ジムリーナ)

- ・フロア面積：1,680㎡(40m×42m)
- ・天井高：14m

■ メインアリーナ

◇ フロア寸法及び天井高

バスケットボール及び体操競技の国民スポーツ大会競技施設基準から、フロアサイズ及び天井高は以下を最低限とし、バスケットボール以外の競技での利用等、詳細については今後検討を行うものとします。

- 長辺 47m以上 × 短辺 32m以上、面積 1500 m²以上
(現行：長辺 約 50m × 短辺 約 38.5m、面積 1,925.59 m²)
- 天井高 12m以上
(現行：15m)

◇ 照明設備

ランニングコストからLED照明とし、体操競技の国民体育大会競技施設基準を満たす1,000ルクスを最低照度として今後検討を行います。

◇ 観客席

プロスポーツチームの試合やイベント開催を考慮し、固定席に加え可動席によるセンターコート方式のレイアウトが可能で、最大2,000人の収容ができるよう検討を行います。

◇ 器具庫

現行の器具庫がフロア面積の約22%と大きく、柔道で使用する畳等も収容するなど、多くの種類の競技に対応していることから、フロア面積の20%を基準に検討を行います。

◇ 放送設備

大会(試合)の運営に必要な放送に対応できるような放送設備について検討を行います。

■ サブアリーナ

◇ フロア寸法及び天井高

バスケットボールの国民体育大会競技施設基準から、フロアサイズは以下を最低限とし、詳細については今後検討を行うものとします。天井高については施設基準に規定がないため、今後利用が想定される競技から検討を行うものとします。

- 長辺 32m以上 × 短辺 25m以上、面積 800 m²以上
(現行：長辺 約 37m × 短辺 約 24m、面積 886.54 m²)

◇ 照明設備

ランニングコストからLED照明とし、バスケットボールの国民体育大会競技施設基準を満たす700ルクスを最低照度として今後検討を行います。

◇ 観客席

現行のサブアリーナ同様、ギャラリー席を基本としますが、固定式の観客席設置が可能か検討を行います。

◇ 器具庫

一般的な器具庫の大きさであるフロア面積の15%程度を基準に検討を行います。

◇ 放送設備

大会(試合)の運営に必要な放送に対応できるような放送設備について検討を行います。

■ 柔道場

現行の機能(柔道公式2面)を基本として検討を行います。

■ 剣道場

現行の機能(剣道公式1面)を整備しますが、ダンス等多目的に利用できるよう検討を行います。

■ 卓球場

現行の機能(卓球台9台程度設置)が維持できることを基本としますが、公式の競技大会開催は前提としません。また、集会等多目的に利用できるよう検討を行います。

■ 体操練習場

ホワイトリングの器具を移設できるよう、現行の体操練習場の面積(約1,000㎡)を基本としますが、全体レイアウトの中で検討を行います。

なお、整備の詳細検討にあたっては、競技団体等と協議を行います。

■ その他

- ・大規模大会(試合)運営にも対応できる必要十分な諸室を設け、運営動線を考慮した配置を検討します。
- ・諸室のうち会議室は、ヨガ・ダンス等の軽運動にも利用できるよう検討します。
- ・興行開催時の利用を考慮し、メインアリーナへつながる選手・関係者入口と、観客席へつながる一般観客用入口を設置します。
- ・ユニバーサルデザインを取り入れ、障がいのある方や高齢者などが安心して利用できる環境を整備します。
- ・事務室等施設の維持管理に必要な機能は、長野運動公園全体の維持管理費軽減に寄与できるよう検討を行います。
- ・建替えに伴い整備する駐車場は、既存と同等(180台)以上の規模とし、メインの入口に車寄せ(ロータリー)を設置するほか、体育館の周囲に搬入出車両等が通行できる車路を整備します。
- ・環境に配慮した施設とし、SDGs推進に寄与するよう、再生可能エネルギー設備の導入や冷暖房効率化のための断熱性能向上等を検討します。

(3) 防災拠点としての機能

■ 指定避難所としての機能

指定避難所として長期の避難生活を支える施設となるよう、以下の事項を検討します。

- ◆ 防災備蓄倉庫の設置場所確保
- ◆ 耐震性の確保
- ◆ 感染症対策
- ◆ 支援物資の受入れ場所、搬入動線
- ◆ 自家発電設備、蓄電設備
- ◆ 利用者動線、トイレ等のバリアフリー化

■ 災害支援拠点としての機能

長野運動公園は「長野市地域防災計画」及び「長野市受援計画」において災害発生時の支援や救助活動の拠点に位置付けられており、災害派遣された自衛隊や他の自治体からの緊急消防援助隊の活動の拠点となります。このため、総合体育館においては、宿营地として利用できるよう、以下の事項について検討します。

- ◆ 宿泊場所としての機能（特にサブアリーナ）
- ◆ 専用駐車場の確保（長野運動公園全体）
- ◆ 避難所とのすみ分け（総合体育館及び長野運動公園全体）



令和元年東日本台風災害時、長野運動公園総合体育館の駐車場に設置された入浴施設



令和元年東日本台風災害時、臨時ヘリポートとして利用された長野運動公園県営野球場

5 財政負担の軽減

(1) 補助・助成制度の活用

長野運動公園総合体育館の整備への活用が想定される特定財源は以下のとおりです。整備にあたっては、これらの特定財源の活用を前提とし、関係機関と協議の上、適切なものを最大限活用して整備にかかる財政負担を軽減します。

■ 国庫補助金

・国土交通省 社会資本整備総合交付金

国民スポーツ大会開催のための都市公園整備等に関する事業やPFI事業による都市公園の整備等に関する事業は、国土交通省の社会資本整備総合交付金の重点配分対象となります。

◇ 補助率(上限)	国 1/2 : 市 1/2 (用地補償費は国 1/3 : 市 2/3)
◇ 起債充当率	市負担額の90%
◇ 交付税措置	起債額の20%

・国土交通省 防災・安全交付金

地域防災計画等に位置付けられた都市公園(広域的な防災拠点又は避難地に限る)の整備や耐用年数の9割を超過した公園施設の更新については、国土交通省の防災・安全交付金の重点配分対象となります。

なお、本施設は、令和5(2023)年に耐用年数の9割である築後45年を迎えます。

◇ 補助率	国 1/2 : 市 1/2 (用地補償費は国 1/3 : 市 2/3)
◇ 起債充当率	市負担額の90%
◇ 交付税措置	起債額の20%

■ 独立行政法人日本スポーツ振興センター(JSC)助成金

・スポーツ振興くじ助成(地域スポーツ施設整備助成)

地域住民の身近なスポーツ活動の場となる競技施設等の新設(増改築を含む)、改修又は改造を行う事業が対象となります。

◇ 対象事業	スポーツ施設等の整備(助成対象経費10,000千円以上のもの)
◇ 助成対象者	地方公共団体又は非営利のスポーツ団体
◇ 助成限度額	助成対象経費限度額(30,000千円)に3分の2を乗じて得た額 =助成限度額 20,000千円

国の補助金又は交付金を活用する事業は助成の対象外となりますが、スポーツ振興くじ助成には器具購入等の助成もあるため、活用できるものを検討していきます。

(2) 整備手法の検討

■ PPP／PFI手法の導入検討

本市は極めて厳しい財政状況の中で、効率的かつ効果的な公共施設等の整備等を進めるとともに、新たな事業機会の創出や民間投資の喚起による経済成長を実現していくため、公共施設等の整備等に民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用していくこととしています。このため、「PPP／PFI手法導入優先的検討方針」を定め、本市で実施する建築物の整備等に関する事業などで、事業費の総額が10億円以上の公共施設整備事業(建設、製造又は改修)は、PPP／PFI手法の導入を優先的に検討することとしています。

長野運動公園 総合体育館の建替えについても、事業費の総額が10億円以上となることが予想されるため、PPP／PFI手法の導入検討が必要となります。

〈長野市PPP／PFI手法導入優先的検討方針(抜粋)〉

3 優先的検討の対象とする事業

(1) 対象事業

市で実施する建築物又はプラントの整備等に関する事業及び利用料金の徴収を行う公共施設整備事業その他民間事業者の資金、経営能力及び技術的能力を活用する効果が認められる公共施設整備事業で次のいずれかの事業費基準を満たす公共施設整備事業

ア 事業費の総額が10億円以上の公共施設整備事業(建設、製造又は改修)

イ 単年度の事業費が1億円以上の公共施設整備事業(維持管理、運営等)

8 評価結果の公表

(1) 簡易な検討の結果の公表

市は、別紙のPPP／PFI手法簡易定量評価調書により、簡易な評価の結果、PPP／PFI手法の導入に適しないと評価した場合には、次に掲げる事項を、それぞれ次に定める時期にインターネット上で公表するものとする。

(略)

(2) 詳細な検討の結果の公表

市は、詳細な検討の結果、PPP／PFI手法の導入に適しないと評価した場合には、次に掲げる事項を、それぞれ次に定める時期にインターネット上で公表するものとする。

(略)

■ 建設手法の検討

現在の長野運動公園 総合体育館は、非常に稼働率が高く、週末(休日)には多くの大会が開催されています。このため、建て替えにあたり長期間施設の利用ができないと、現在の“大会予約ができない”状況に拍車がかかり、本市のスポーツ環境に大きな影響を与えることとなります。

このことから、新たな施設を建設した後、現在の施設を解体するなど、総合体育館が利用できない期間が極力短くなるよう、建設位置を含めた建設の手法を検討します。

(3) 整備後の維持管理

■ 維持管理・運営体制

現在の長野運動公園は指定管理制度を導入しており、駐車場その他の共用部分の使用や各施設での大会開催、運営等を考慮すると、総合体育館の整備をPFI等の手法で行った場合も、これまでと同様、運動公園内の他の施設とあわせて維持管理を行う必要があります。

このため、PPP/PFI手法の導入検討にあたっては、運動公園全体の維持管理を行っていくことを前提とします。

■ 維持管理の効率化

運動公園全体の維持管理を行うにあたり、現在の長野運動公園の管理、運営の中心となっているアクアウィング内の設備と可能な範囲で共有化を図り、人員の削減等、維持管理の効率化を行うことができるよう検討します。



長野運動公園 航空写真

6 事業スケジュール

総合体育館整備で想定される事業スケジュールは以下のとおりです。

年度	全体構想(計画)	PPP/PFI導入 ※導入を決定した場合	国庫補助	設計・工事
R3(2021)	施設整備計画 ↓	導入可能性調査 ↓	国庫補助事前協議 ↓	
R4(2022)	基本計画 ↓	実施方針の決定及び公表 アドバイザー業務委託 ↓ 特定事業の選定及び公表 ↓	国庫補助申請(概算) ↓	要求水準書策定 ↓
R5(2023)		民間事業者募集・評価 ↓ 民間事業者選定・公表	国庫補助関係事務 ↓	基本設計 ↓
R6(2024)				実施設計 ↓
R7(2025)				建設・解体工事 ↓
R8(2026)		※現指定管理期間終了(3/31)		
R9(2027)				
	新体育館供用開始			
	リハーサル大会 開催			
			↓	↓
R10(2028)				
	第82回 国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会 開催			

VI 長野Uスタジアム（フットボール場）

1 課題解消の方法（手段）

(1) 課題の整理

長野Uスタジアム（フットボール場）について、Ⅲ-3で挙げた課題は以下のとおりです。

- 使用頻度の高さ、圃場の不足により、芝生のコンディション維持が困難
→ 2チームのホームスタジアムであり試合数(使用日数)削減には限界がある
- サブピッチ及び市内に長野Uスタジアム以外の競技施設がないため、大規模大会(試合)の誘致・開催が困難
→ 評価の高い長野Uスタジアムのポテンシャルを活かせていない
- 国民スポーツ大会開催には、長野Uスタジアム以外にも大会の施設基準を満たす競技場が必要
→ 長野市営陸上競技場での開催にはトラック等の大規模な改修が必要であり、国民スポーツ大会終了後、再び復旧を行う必要がある

(2) 課題の分析

1 芝生のコンディション維持が困難

・原因1：使用頻度の高さ

→ JリーグやWEリーグの試合、ラグビーの国際親善試合等の有料試合については、長野Uスタジアム以外での開催は困難です。また、これらの有料試合は本市に与える経済波及効果が大きく、本市が取り組んでいる地域密着型プロスポーツチームとの連携の観点からも、引き続き長野Uスタジアムで開催していく必要があります。

〈参考：Jリーグクラブによる地域への経済波及効果〉注：各チームの経済波及効果については、調査手法がそれぞれ異なる

チーム名	推計時期	経済波及効果	推計機関
松本山雅FC	2011年	14.1億円	NPO法人SCOP
モンテディオ山形	2008年	14.0億円	荘銀総合研究所
カターレ富山	2008年	11.7億円	北陸経済研究所
ガイナレ鳥取	2008年	5.9～7.9億円	鳥取県
AC長野パルセイロ	2012年	5.4 ^{※1} ～13.6億円 ^{※2}	NPO法人SCOP

※1：JFL時の推計 ※2：J2昇格を仮定した推計

→ 上記の試合以外については、開催にあたって必ずしも長野Uスタジアムの施設規模でなくてもよい試合(大会)が多く、他に更衣室、運営諸室、観客席等の設備を有する“フットボール場”があれば、かなりの試合(大会)を振り替えることが可能です。

なお、長野Uスタジアムのサブピッチ的なフットボール場であれば、決勝や3位決定戦のみを長野Uスタジアムで行うような大会運営が可能であり“プロチーム以外長野Uスタジアムは使えない”という状態になることを避けながら芝生への負荷を軽減することが可能です。

・原因2：圃場の不足

→ 総合球技場改修時に整備した圃場(250 m²)では不足していたため、平成 28(2016)年に南長野運動公園内(テニスコート南側)に圃場を整備(800 m²/合計 1,050 m²)しました。これ以上の圃場を南長野運動公園内に整備するには、現在使用されている公園の機能(芝生広場等)を廃止する必要がありますが、多くの利用者がいるため困難です。

長野Uスタジアムのピッチコンディション維持のためには、1,500 m²から 2,000 m²の圃場があることが望ましいため、500 m²から 1,000 m²の圃場整備が必要です。



圃場の状況



芝の張替え作業

2 大規模大会(試合)の誘致・開催が困難

・原因：サブピッチ及び長野Uスタジアム以外の競技施設がない

→ 全国大会等の大規模な大会の開催にあたっては、更衣室、運営諸室、観客席等の設備を有する芝生グラウンド(天然芝又は人工芝)が複数必要です。また、日本代表の親善試合等の国際試合開催にあたっては、試合会場の近隣に以下のような設備の整った練習場を備えることが条件とされています。

〈参考：2017年 国際試合開催条件／(公財)日本サッカー協会 競技運営部〉(抜粋)

2. 練習会場

- (1) チーム数分の会場の確保(実際の利用の有無/時間帯は、チーム意向により最終確定)
- (2) 原則として「試合4日前」から「試合翌日」まで ※公式戦時はさらに前倒しの可能性あり
- (3) 天然芝(良好な芝生状態の維持)
- (4) 照明施設(最低照度=500 lux程度)
- (5) シャワー付きチーム更衣室、メディア用控室(=原則日本チーム利用会場は必須)の用意
- (6) 正規ゴール1組(=2個)に加えて可動式ゴール1組(=2個)
- (7) 最低1会場(=日本チーム利用分)の非公開練習が可能
- (8) クリーンベンチャー(=商業的表示の撤去・マスキング)

→ 現在、本市には2(3)施設6(7)面の天然芝グラウンドがありますが、いずれも全国大会等の大規模な大会開催や国際試合の練習ができる付帯施設・設備を有していません。

〈本市の芝生グラウンド〉

施設名	面数	摘要
千曲川リバーフロントスポーツガーデン	5面	河川敷のため付帯施設等の整備が不可能
飯綱高原南グラウンド	1面	防球ネット等整備中。市街地から遠い
(長野運動公園 陸上競技場)	(1面)	(陸上競技で使用の為、利用調整が困難)

→ サッカー・ラグビー両競技団体から評価の高い長野Uスタジアムのポテンシャルを活かし、本市にとって大きな経済波及効果のある、全国大会等の大規模な大会(試合)を継続的に誘致・開催するためには、一定の設備を有し、長野Uスタジアムのサブピッチとして機能する“フットボール場”の整備が必要です。



キリンチャレンジカップ2015 なでしこジャパン v s イタリア代表 (2015年5月28日)
※女子A代表(なでしこジャパン)の試合では初のチケット完売となった試合

3 国民スポーツ大会開催には長野Uスタジアム以外にも大会の施設基準を満たす競技場が必要

本市の既存芝生グラウンドを、国民スポーツ大会の施設基準を満たすように改修することは不可能であるため、解決のためには次の2つの方法(手段)が考えられます。

- 案A：競技施設を有する周辺自治体との分散開催
- 案B：施設基準を満たすフットボール場の整備

以下、それぞれの案について検証を行います。

案A：競技施設を有する周辺自治体との分散開催

① 周辺自治体のサッカー競技施設

本市周辺のサッカー競技施設は次の3施設がありますが、すべて人工芝グラウンド1面の競技施設であるため、国民スポーツ大会の施設基準である「人工芝の使用は各カテゴリーで1面の使用を原則とする。ただし、隣接した人工芝ピッチが2面以上ある場合は利用が認められる場合がある」の規定から、使用できるのは1施設のみとなります。また、いずれの施設もJFA公認のロングパイル人工芝ピッチではないため、ピッチの改修及び公認検査が必要となります。

〈周辺自治体のサッカー競技施設〉

競技施設	面数	国スポ施設基準の適合			長野駅からの所要時間	摘要
		JFA 公認	付帯施設*	WU スペース		
千曲市サッカー場	人工芝	×	×	△	約 50 分	いずれも付帯施設の仮設整備が必要
中野市多目的サッカー場	人工芝	×	×	△	約 40 分 (高速道使用)	
筑北村サッカー場	人工芝	×	×	△	約 60 分 (高速道使用)	

※チーム分の更衣室、審判・運営要員の諸室、シャワールーム、ドーピングコントロールルーム、マッチコミッショナー室 等

② 分散開催にかかる費用

周辺自治体と分散開催した場合、通常の開催経費に上乗せされる費用として想定されるものは次のとおりです。

なお、本市の都合により施設を借用することから、開催にかかる経費は負担金などで、すべて本市が負担するものと想定されます。

・シャトルバス運行経費(千曲市以外は高速道路利用)	3,000 ～ 5,000 千円
・仮施設設経費	50,000 ～ 70,000 千円
・JFA 公認ピッチの公認料、検査料	約 1,500 千円
・ピッチ改修費用(JFA 公認人工芝への張替え)	130,000 ～ 150,000 千円
・会場利用料(1週間程度)	450 ～ 1,000 千円
合 計	約 190,000 ～ 230,000 千円

③ 分散開催のメリットと問題点

■ メリット

分散開催した場合に上乗せされる費用の総額は、新たにフットボール場の整備を行うより遥かに安価であり、財政的には大きなメリットがあります。

■ 問題点

・長野Uスタジアムの芝のコンディション悪化

人工芝ピッチの使用は、隣接した2面がない場合は1カテゴリー(種目)1面のみに限られることから、分散開催した場合は次のような競技日程となります。

〈周辺自治体と分散開催した場合の競技日程〉 注：1回戦は1面で3試合以上を行う必要があるため、競技団体等と協議が必要

成年女子	1日目	2日目	3日目	4日目
イベント	1回戦	準々決勝	準決勝	3決・決勝
長野Uスタジアム	4試合	2(又は0)試合	2試合	2(又は1)試合
周辺自治体の施設	4試合	2(又は4)試合	—	0(又は1)試合
チーム数 16	8試合	4試合	2試合	2試合

注：会期に総合開会式及び監督会議の日は含まない

長野Uスタジアムでは4日間で7～10試合を行わなければならない、決勝時には相当のピッチコンディション悪化が想定されます。また、国民スポーツ大会終了後のJリーグやWEリーグ*等への影響が懸念されます。

※ 女子サッカーの国内トップリーグ。WEはWomen Empowerment Leagueの略。

・施設整備方針との不適合

開催のため他の自治体の施設整備(改修)を行うこととなりますが、将来的に本市には何も残るものがなく、費用は周辺自治体の競技施設で行われる6～9試合、2～3日間だけのためのものとなります。また、本市のスポーツ施設が抱える課題を解消するものでなく、補助・助成制度の活用もできないため、施設整備方針に合致しません。

案B：施設基準を満たすフットボール場の整備

施設基準を満たすフットボール場を新たに整備することは、国民スポーツ大会のサッカー競技開催という点からは最も確実に課題を解決できる手段ですが、多額の財政負担に加え、公共施設マネジメントの「公共施設の縮減」という方針にも適合しないため、施設の必要性や本市に与えるメリット・デメリットについて慎重に検討する必要があります。

① 本市におけるサッカー等競技環境の課題とフットボール場の必要性

■ 千曲川リバーフロントスポーツガーデンの機能移転

千曲川リバーフロントスポーツガーデンは、実質的に本市唯一の芝生グラウンドとして、平日はAC長野パルセイロトップチーム及びレディースチーム、AC長野パルセイロアカデミーの練習場所として使用され、週末(休日)は主に子供たちのサッカー大会やラグビー教室、アメリカンフットボールの試合等が行われるなど、本市のフットボール競技の振興に大きな役割を果たしています。しかし、天然芝であるため利用が多いほど芝生の維持管理が難しくなるほか、河川敷(堤外地)という立地から、夜間照明や観客席、更衣室等の施設・設備を設置することができません。また、近年は水害を受けることが多くなっており、市民が参加する多くの大会等の日程が変更を強いられているほか、AC長野パルセイロのリーグ戦終盤の練習場確保に影響を及ぼしています。

このため、令和4(2022)年1月12日、長野市民18,603人の署名を添えて、長野市サッカー協会、長野市ラグビーフットボール協会、長野アメリカンフットボール協会、(株)長野パルセイロ・アスレチッククラブから、堤内地への芝生グラウンド整備に関する要望が提出されています。また、市議会でも堤内地への芝生グラウンド整備について複数回質問が出されています。



令和元年東日本台風災害時の被災状況(2019年10月)

〈参考〉

令和元年東日本台風 災害復旧費	136,307千円
//	利用停止日数 約200日

■ 市内競技者の練習環境整備

本市のサッカー競技人口は競技別では最も多く、日本代表、Jリーグ等の人気や、AC長野パルセイロの普及活動などもあり多くの子供たちがサッカーを始め、子供の人口が減少する中、協会登録者は増加し、競技者の受け皿となるクラブチームも多い状況です。

〈競技別登録者数(競技団体、高体連、高野連、中体連)〉 注：レジャーとして行っている者は含まれていない

競技名	長野市内※1	うち高校生以下※1	参考：中央競技団体※2
サッカー	3,410人	2,480人	919,466人
ラグビー	220人	165人	96,714人
アメリカンフットボール	84人	—	15,756人
バスケットボール	2,425人	2,110人	597,375人
野球(硬式・軟式)	1,705人	1,352人	803,079人
バレーボール	1,360人	1,270人	418,847人
テニス(硬式・軟式)	2,090人	1,340人	288,625人

※1：2020年度長野市スポーツ協会、長野市教育委員会、長野県高等学校体育連盟 調べ

※2：出典 笹川スポーツ財団／中央競技団体現況調査 2020

〈長野市サッカー協会 登録者・チーム数(高校生以下)の推移〉 注：チーム数にフットサルクラブは含まない

2018年		➡	2020年	
競技者数	チーム数		競技者数	チーム数
2,320人	59		2,480人	58

参考：市内6歳～18歳の人口推移 2018年4月 45,514人 ➡ 2020年4月 44,023人

出典：長野市統計情報

サッカーの試合は原則芝生で行われるため、普段の練習環境は非常に重要であり、上達だけでなくケガの防止にもつながります。このため、高校サッカーの強豪校は人工芝グラウンドを備えており、2018年の全国高校サッカー選手権大会で上田西高校がベスト4入りした際には、普段土のグラウンドで練習を行っていることが全国的にニュース※になったほどです。

※ 参考：2018年1月5日 スポーツ報知
「上田西、私立でも稀な土のグラウンドで鍛錬…雪にも、土にも負けず 長野県勢初4強」

千曲川リバーフロントスポーツガーデンには夜間照明がなく、週末(休日)は大会等で利用されていることが多いため、本市には平日夜間及び休日に、子供たちを含めた一般のチームが利用できる芝生グラウンドの練習環境がない状態です。

なお、長野県内の夜間照明を備えた芝生グラウンドは中信地域に多く、JFA全日本U-12サッカー選手権大会長野県大会(2017年まで全国少年サッカー選手権大会)の優勝も中信地域のチームが多くなっています。

〈長野県内の夜間照明付き芝生グラウンド〉

競技施設名	芝生種類	所在地(地域)	設置者
中野市多目的サッカー場	人工芝	中野市(北信)	中野市
千曲市サッカー場	人工芝	千曲市(北信)	千曲市
軽井沢風越公園グラウンド	人工芝	軽井沢町(東信)	軽井沢町
筑北村サッカー場	人工芝	筑北村(中信)	筑北村
松本市サッカー場	人工芝	松本市(中信)	松本市
梓川ふるさと公園多目的グラウンド	天然芝	松本市(中信)	松本市
松本市かりがねサッカー場	人工芝	松本市(中信)	松本市

注：利用者が一般的に練習できないもの(大規模施設、陸上競技場、学校のグラウンド)を除く

〈J F A全日本U-12 サッカー選手権大会長野県大会 優勝チーム〉

年	回	チーム名	所在地(地域)
2021	45	フォルツァ松本J r	松本市(中信)
2020	44	フィルツァ松本J r	松本市(中信)
2019	43	松本山雅F C U-12	松本市(中信)
2018	42	アンテロープ塩尻ジュニア	塩尻市(中信)
2017	41	フォルツァ松本J r	松本市(中信)
2016	40	松本山雅F C U-12	松本市(中信)

以上のことから、競技振興・環境整備の観点からは、新たなフットボール場(芝生グラウンド)の整備が望まれており、国民スポーツ大会の開催を機会に整備を行った場合、大会終了後もサッカー、ラグビーの競技者に有効利用されるものと思われます。

② フットボール場整備によるメリットとデメリット

フットボール場の整備を行った場合の本市に与えるメリットとデメリットについて、サッカー、ラグビー等競技者(利用者)の観点以外からも検討を行います。

■ 財政負担

新たな施設を整備することは、本市にとって大きな財政負担となります。また、整備後の維持管理費も将来にわたって負担となるものであるため、整備費だけでなく、維持管理を見据えた整備手法や、既存の類似スポーツ施設の見直しも併せて行う必要があります。

なお、国民スポーツ大会の施設整備に位置付けることにより、整備場所・内容等の条件を満たせば、補助・助成制度の重点配分事業の対象とすることが可能です。

● 社会資本整備総合交付金

・国民スポーツ大会などの“国家的関連事業”の開催に向けた都市公園の整備に関する事業は、国土交通省の社会資本整備総合交付金の重点配分事業となる。

- ◆ 補助率 工事費 国 1/2：市 1/2、用地補償費 国 1/3：市 2/3
- ◆ 起債充当率 市負担額の90%（公共事業等債）
- ◆ 交付税措置率 起債額の20%

■ 災害に強い施設の整備

本市のサッカー・ラグビー・アメフト競技の拠点施設である千曲川リバーフロントスポーツガーデンは、河川敷(堤外地)という立地から度々水害を受けており、近年は2年に1度の頻度となっています。今後も気候変動に伴い水害の発生は増加するものと予想されています。

〈過去10年間の水害〉

発成年月等	利用停止期間
平成25(2013)年 9月 台風18号	約1か月
平成29(2017)年 10月 台風21号	約10日
令和元(2019)年 10月 台風19号	約200日
令和3(2021)年 8月 豪雨	約1週間

〈今後の気候変動について〉 出典：気象庁「地球温暖化予想情報」

- ◆ 豪雨の発生件数が30年前の約1.4倍に増加
- ◆ 今後、平均気温の上昇に伴う流入水蒸気量の増加により、総降水量が増加

堤内地へのフットボール場整備は、水害の影響を受けづらい競技施設の確保だけでなく、大規模災害時、他の自治体からの緊急消防援助隊や自衛隊の宿营地・車両基地などの支援拠点としての機能を果たすことができます。

令和元年東日本台風災害では、南長野運動公園が自衛隊の宿营地となりましたが、テントを設営する適当な場所が少なく、傾斜地やわずかな平坦地にテントを設営していました。



南長野運動公園における自衛隊のテント設営状況

■ 大規模大会(試合)の誘致・開催

国民スポーツ大会の施設基準を満たすフットボール場の整備により、前述した長野Uスタジアムでの大規模大会(誘致)時の練習会場としての活用だけでなく、これまで本市で開催できなかった市外・県外から多くの参加者・観客が宿泊を伴って参加するような大会(試合)を誘致・開催することができます。

〈誘致が可能になると思われる大会／長野県サッカー協会、長野市サッカー協会より〉 注：人工芝2面があるものと想定

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ◆ 1種(社会人・大学生年代) <ul style="list-style-type: none"> ・全国社会人サッカー選手権大会北信越大会 ・全国地域サッカーチャンピオンズ大会(予選・決勝) ・全国クラブチームサッカー選手権大会北信越大会 等 ◆ 2種(高校生年代) <ul style="list-style-type: none"> ・インターハイ北信越予選 等 ◆ 女子 <ul style="list-style-type: none"> ・キャノガールズEIT JFA 地域ガールズEIT(U-12)サッカー大会 等 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 3種(中学生年代) <ul style="list-style-type: none"> ・高円宮杯全日本U-15サッカー選手権大会 ・高円宮杯全日本U-15サッカー選手権大会北信越大会 ・U-13地域サッカーリーグ ・日本クラブユース選手権U-15北信越大会 等 ◆ 4種(小学生年代) <ul style="list-style-type: none"> ・全日本U-12サッカー選手権大会 ・全日本U-12サッカー選手権大会長野県予選大会 等 |
|---|---|

■ 経済効果の創出

前項で示した誘致が可能になる大会のうち、主なものの概要は次のとおりです。

大会名	区分	参加チーム数	参加者数	会期
全国地域サッカーチャンピオンズ大会(予選・決勝)	1種 (社会人年代)	予選 12 チーム 決勝 4 チーム	約 288 人 約 96 人	予選 3 日間 決勝 5 日間
高円宮杯全日本U-15 サッカー選手権大会 (1 回戦～準々決勝)	3種 (中学生年代)	16 チーム (全体 32 チーム)	約 368 人 (736 人中)	3 日間
全日本U-12 サッカー選手権大会	4種 (小学生年代)	48 チーム	約 960 人	4 日間
キャノガールズエイト JFA 北信越ガールズエイト(U-12)サッカー大会	女子	8 チーム	約 184 人	2 日間

大会の開催にあたり、選手等の参加者以外にも、観戦のため宿泊する関係者(特に高校生以下の年代は保護者)も多く、市内へ一定の経済効果を与えることになります。また、大会によっては地元への経済効果を考慮し、開催自治体への宿泊を参加の要件としているものもあります。

なお、これら北信越以上や全国規模の大会は、3～4チームのグループリーグで予選ラウンド(3～4グループ)を行い、その後決勝ラウンドとなるため、2面以上のグラウンドが同時に使用*でき、クラブハウス(更衣室・シャワー等)が4チーム～6チーム分あることが開催の前提条件となります。また、芝生のコンディション悪化のおそれがなく、1日の試合数を制限する必要のない人工芝グラウンドを会場とすることが多くなっています。

※ 4種(小学生年代)の競技フィールドの大きさは半分のため、4面以上の設置が可能

■ 長野Uスタジアム及び南長野運動公園の課題解消

南長野運動公園の近隣にフットボール場を整備した場合には、長野Uスタジアム及び南長野運動公園の課題について、次のとおり解消又は軽減することができます。

課題	内容	課題解消・軽減の方法
使用頻度の高さ	市内に更衣室、運営諸室、観客席等の設備を有する施設がなく、大会等が集中	一定の設備を有するフットボール場を整備して大会等を分散
圃場の不足	500㎡～1,000㎡の芝生圃場が不足	フットボール場内に芝生の圃場を整備
(長野Uスタジアムへの) 大会等誘致・開催	開催条件に定められる参加チームの練習会場がない	一定の設備を有するフットボール場を整備して使用
駐車場の不足	複数の施設で大会等が行われる休日(週末)における慢性的な駐車場不足	フットボール場と併せ駐車場を整備
その他(井水の水質改善)	芝生の散水等に使用している井水に鉄分が多く、機材や芝生の生育に悪影響を与えている	フットボール場の整備と併せて井戸を掘削し、Uスタジアムにも使用

■ AC長野パルセイロ トップチームのJ1ライセンス取得

本市をホームタウンとするAC長野パルセイロ トップチームは、Jリーグクラブライセンス交付規則の「施設基準」のうち、トレーニング施設(練習ピッチ、クラブハウス)の要件を充足していないため、J1クラブライセンスを取得することができません。

Jリーグの規定は、国民スポーツ大会の施設基準と重複するものが多く、また、大会後にも有効に活用できるものが多くなっています。これをAC長野パルセイロが利用することにより、J1クラブライセンスを取得することが可能です。

なお、利用形態については今後検討が必要になります。

〈Jリーグクラブライセンス交付規則 第9章施設基準(抜粋)〉

(2) ライセンス申請者は、年間を通じてライセンス申請者専用のもしくはライセンス申請者が優先的に利用できる、以下の各号に定める設備を備えたトレーニング施設を有していなければならない。

なお、当該設備のうちいずれか1つでも充足していない場合には、J1クラブライセンスは交付されない。

- ① クラブハウスに隣接した常時使用できるフルサイズの天然芝もしくはJリーグが認めたハイブリッド芝のピッチ1面
- ② 前号のピッチを観覧できるエリア。ただし、一般客およびメディアそれぞれのために設けられているものとする
- ③ 以下の設備を備えたクラブハウス
 - イ. トレーニングジム
 - ロ. トップチーム用の更衣室(トップチームの選手全員が使用可能な数のロッカー、8基程度のシャワー、トイレを備えていること)
 - ハ. ビジターチーム用の更衣室
 - ニ. メディカルケアスペース(マッサージ台2台、ベッド、担架、AED、冷蔵庫、製氷機を備えていること)
 - ホ. トップチームの選手、コーチ、チームスタッフ全員が収容可能なミーティングルーム(映像再生装置が使用可能であること)
 - ヘ. メディアからの取材に対応するスペース
 - ト. メディアが作業できるスペース(ハ.のスペースとは別であること)
 - チ. 駐車場(クラブ関係者、メディア、一般利用者それぞれのために用意されていること)

■ 地域密着型プロスポーツチームとの連携強化による地域活性化

本市はこれまで地域密着型プロスポーツチームであるAC長野パルセイロと連携し、以下のような取組みを行ってきました。

● 地域連携事業

- ・出張スポーツ交流事業 - 幼稚園、保育園、小学校に出向いてのスポーツプログラム実施(年間約70件)
- ・スタジアム交流事業 - 未就学児、小学生を対象に長野Uスタジアムでスポーツプログラム実施
- ・その他 - シティプロモーションへの協力、市内小中学生のホームゲーム無料招待 等

● 長野市からチームへの支援

- ・ホームタウンながの活性化事業 - 市民ホームタウンデーの開催、応援バス事業 等
- ・出資金10,000千円の出資 - 他の民間事業者3社と並ぶ筆頭株主

● 包括連携協定の締結

- ・平成28(2016)年3月20日 長野市、長野商工会議所、AC長野パルセイロの3者により、スポーツの振興やシティプロモーション、地域の活性化等について連携して取り組むため「長野市ホームタウン包括連携協定」を締結した。

新たなフットボール場を整備することにより、安定した練習環境の確保やチーム力の向上※などの支援につながることを期待されます。また、各種交流事業による市民との交流の機会が増えることが期待されます。

※練習環境の良し悪しが選手移籍の条件となることがあるため、有望な選手の獲得にもつながる

〈第三次長野市スポーツ推進計画（抜粋）〉

施策2-1 地域密着型プロスポーツチームとの連携の推進

地域密着型プロスポーツチームとの連携・協力により、スポーツ振興及び地域の活性化を図ります。

(1) 地域密着型プロスポーツチームとの連携

4つの地域密着型プロスポーツチーム（AC長野パルセイロ、AC長野パルセイロ・レディース、ポアルース長野、信州プレイブウォリアーズ）との「連携推進ビジョン」※に基づき地域密着型プロスポーツチームと協働による「スポーツを通じた“人”と“まち”のポジティブサイクル（好循環）づくり」を推進します。

- ①「する」スポーツでのポジティブサイクルづくり
- ②「観る」スポーツでのポジティブサイクルづくり
- ③「つながる」スポーツでのポジティブサイクルづくり
- ④「連携推進ビジョン」の推進

※ 連携推進ビジョン：長野市と4つのプロスポーツチームが連携して効果的かつ効率的に「スポーツを軸としたまちづくりに取り組むために ①目標の設定 ②活動の方向性 ③評価・改善」を目的とした長野市及び各チームが共通して目指す将来構想

〈AC長野パルセイロ トップチーム ホームゲーム入場者数の推移〉

年	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31/R1)	2020* (R2)	2021* (R3)
所属リーグ	J3	J3	J3	J3	J3	J3
ホームゲーム入場者数	75,274	68,095	56,869	51,006	41,629	35,250
ホームゲーム数	15	16	16	17	17 (うち無観客1試合)	14
ホームゲーム1試合あたり平均入場者数	5,018	4,256	3,554	3,000	2,602	2,518
所属リーグ内平均入場者数順位	2位	3位	3位	4位	2位	5位
所属リーグ1試合あたり平均入場者数	2,957	2,613	2,491	2,396	1,140	1,913
リーグ成績	3位	5位	10位	9位	3位	9位

〈参考：上位カテゴリー（J1・J2）の平均入場者数〉

J1リーグ1試合平均入場者数	17,968 (2部制)	18,883	19,064	20,751	5,796	6,661
J2リーグ1試合平均入場者数	6,946	6,970	7,049	7,176	2,753	3,910

※2020年は新型コロナウイルス感染症拡大による影響を受けている

- ・所属リーグ内では常に上位の平均入場者数となっており、J2又はJ1への昇格した場合、さらに多くの入場者が見込まれます。

〈AC長野パルセイロ レディース ホームゲーム入場者数の推移〉

項目	年	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31/R1)	2020* (R2)
所属リーグ		なでしこリーグ 1部	なでしこリーグ 1部	なでしこリーグ 1部	なでしこリーグ 1部	なでしこリーグ 2部
ホームゲーム入場者数 (なでしこリーグカップを含む)		42,540	33,058	28,044	20,450	7,294
ホームゲーム数 (なでしこリーグカップを含む)		13	13	13	13	9 (うち無観客1試合)
ホームゲーム1試合あたり平均入場者数		3,272	2,543	2,157	1,573	912
所属リーグ内平均入場者数順位		1位	1位	1位	2位	1位 (1部・2部(全体)3位)
所属リーグ1試合あたり平均入場者数		1,561	1,364	1,268	1,219	354
所属リーグ成績		3位	6位	7位	9位	5位

※2020年は新型コロナウイルス感染症拡大による影響を受けている

- ・なでしこリーグ内では常にトップクラスの平均入場者数となっており、平成27(2015)年5月28に行われたなでしこジャパン対イタリア代表戦では、女子A代表(なでしこジャパン)の試合史上初のチケット完売となるなど、本市における女子サッカーの人気うかがえます。
- ・昨年から創設された女子サッカーの国内トップリーグである日本女子プロサッカーリーグ、略称WEリーグへ参戦しており、地元出身の選手も活躍していることから、今後も高い人気を維持していくものと思われます。



ホームゲームの観客席



長野Uスタジアムを使ったサッカー教室



長野市役所第一庁舎のチーム応援装飾

案A「周辺自治体との分散開催」と案B「フットボール場の整備」の比較

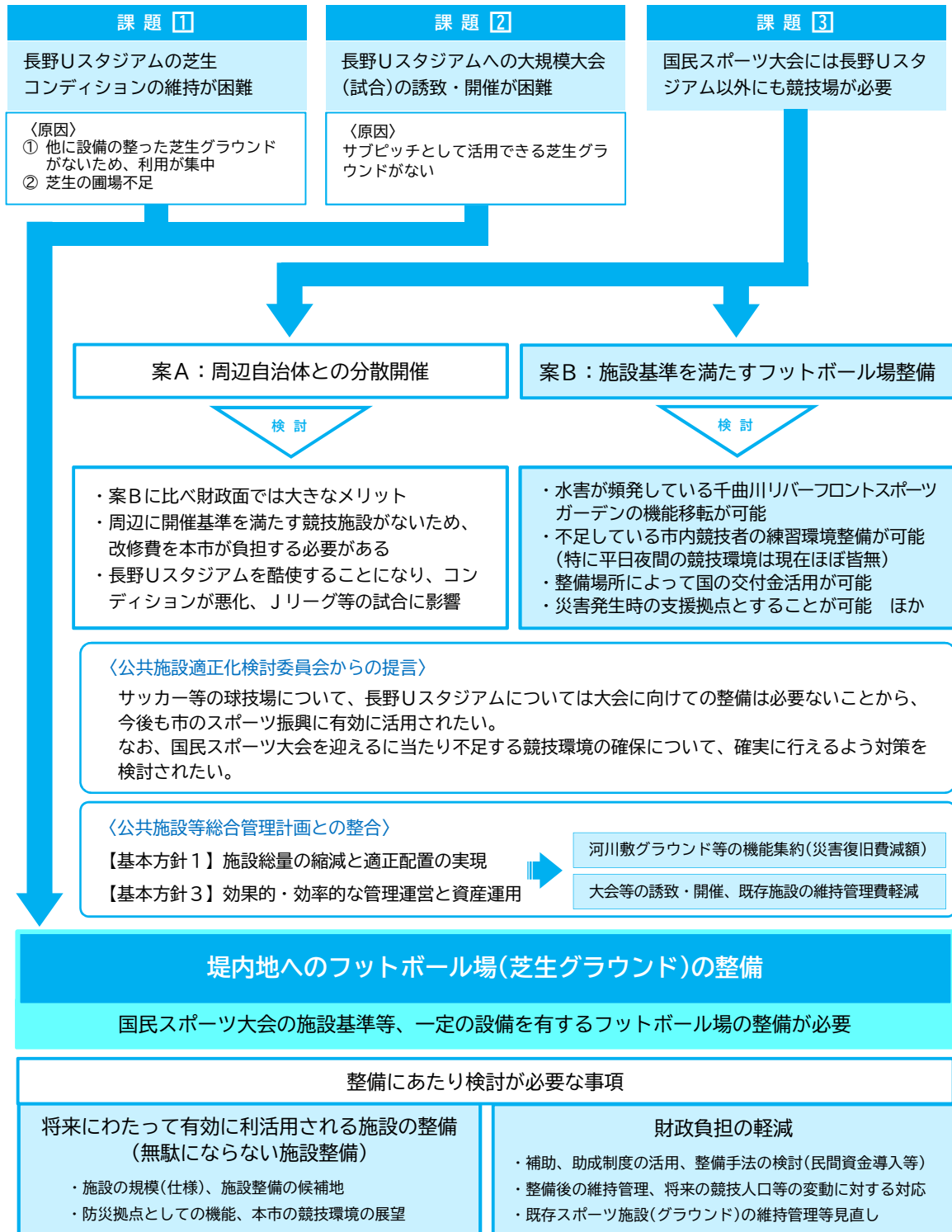
		案A	案B
フットボール場の整備		整備しない	整備する
国民スポーツ大会 成年女子サッカー競技の開催		他自治体と分散開催	長野市単独開催
■ スポーツの振興	<ul style="list-style-type: none"> 千曲川リバーフロントスポーツガーデンの機能移転 市内競技者の練習環境整備 	×	○
■ 財政負担	<ul style="list-style-type: none"> 整備の場合、多額の財政負担 支出：用地取得費、建設費 収入：社会資本整備総合交付金 ※国民スポーツ大会は重点配分 	○	× <small>整備場所によっては 国庫補助使用不可能</small>
■ 災害に強い施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> 水害の影響を受けづらい競技施設確保 大規模災害時の防災拠点としての機能 	×	○
■ 大規模大会(試合)の誘致・開催	<ul style="list-style-type: none"> 開催の条件を満たす施設の確保 宿泊を伴う参加者の多い大会の誘致 Uスタジアム開催試合の練習会場確保 	×	○
■ 経済波及効果の創出	<ul style="list-style-type: none"> 大規模大会(試合)参加者による消費額による市内への経済波及効果 高校生以下の年代の大会は参加者だけでなく保護者等の消費額も見込まれる 	×	○
■ 長野Uスタジアム及び南長野運動公園の課題解消	<ul style="list-style-type: none"> 長野Uスタジアムの使用頻度の高さ、芝生の圃場・駐車場不足、その他の課題解消・軽減 	×	○ <small>ただし整備場所による</small>
■ AC長野パルセイロ トップチームのJ1ライセンス取得	<ul style="list-style-type: none"> クラブライセンス交付規則を満たす施設によるライセンス取得 	×	○
■ 地域密着型プロスポーツチームとの連携強化による地域活性化	<ul style="list-style-type: none"> これまでの取組みの連携強化 AC長野パルセイロのチーム力向上、活躍による地域活性化 	×	○

2 施設整備計画における方針

(1) 施設整備の方針

これまでの検討の結果から、堤内地にサッカー、ラグビー、アメリカンフットボール等に利用するためのフットボール場(芝生グラウンド)を整備し、長野Uスタジアムの抱える課題だけでなく、本市のサッカー等競技を取り巻く課題を解消又は軽減するものとします。

なお、整備にあたり、将来にわたって市民等に有効に利活用され、可能な限り本市の財政負担軽減を図ることができるよう検討した上で、整備するフットボール場の規模(仕様)、整備場所等を決定することとします。



(2) 公共施設適正化検討委員会からの提言

公共施設適正化検討委員会からは、グラウンド（球技場）について次のとおり提言を受けました。また、検討小委員会では、堤内地へのフットボール場の整備についても意見が出されました。

■ 提言（グラウンド／球技場関係）

- サッカー等の球技場について、長野Uスタジアムについては大会に向けての整備は必要ないことから、今後も市のスポーツ振興に有効に活用されたい。
- なお、国民スポーツ大会を迎えるに当たり不足する競技環境の確保について、確実に行えるよう対策を検討されたい。

【参考】検討小委員会における各委員の主な個別意見

- ・長野Uスタジアムだけでは国民スポーツ大会の開催は不可能であるため、他にも大会が開催できる芝生グラウンドが必要
- ・リバーフロントは水害の度に復旧期間と費用が発生するため、堤内地への機能移転が必要
- ・市内に夜間練習等の環境がないため、やむなく近隣市町村の芝生グラウンド(人工芝)を利用しているので、整備した場合は十分需要がある
- ・リバーフロントの機能移転を考えると1面、2面だけの整備では足りない
- ・天然芝グラウンドは維持管理上経費や利用制限の問題があるため、高い頻度で利用でき、維持管理費の安い人工芝グラウンドを整備して、利用増を図るなどトータルコストを抑えること
- ・整備する面数については、リバーフロントの機能移転としての役割などや、国民スポーツ大会以降の長期的な考え方から検討し、必要性を説明すること
- ・市内のグラウンドには夜間照明がなく、サッカー等の屋外競技も体育館で活動(特に平日夜間)するので、体育館が予約できない状況に拍車をかけているため、夜間照明を備えたグラウンドの整備が必要
- ・人工芝グラウンドは災害等の際、災害支援拠点としても利用できる
- ・リバーフロントの維持管理を見直し、財政的な負担を減らすことが必要
- ・整備によるメリット、デメリットを具体的に示すこと
- ・フットボール場整備後のリバーフロントの位置づけを説明すること
- ・(天然芝より)多くの人々が利用できる人工芝の整備と夜間照明の設置により競技力向上が期待できる
- ・将来的な人口減少に当たっては、リバーフロントの面数等で調整するよう検討すること

3 施設の規模・整備の内容（仕様）

堤内地へのフットボール場（芝生グラウンド）整備にあたり、整備する面数や仕様により本市の芝生グラウンド全体に与える影響や役割が大きく変わるため、国民スポーツ大会の施設基準等から施設の規模や整備の内容を定めた後、本市の芝生グラウンドのあり方や施設整備後の利活用についての検討を行います。

(1) 施設の規模・整備の内容(仕様)

フットボール場の整備にあたり、国民スポーツ大会の開催だけでなく、本市財政負担の軽減を図り、大会後も有効に利活用される施設とするため、以下の規定等から規模等の検討を行います。

- (公財)日本サッカー協会 国民体育大会サッカー競技 施設ガイドライン
- (公財)日本サッカー協会 競技運営部 国際試合開催条件
- 国庫補助・助成制度の要件
- 大規模大会(少年～社会人)の開催傾向
- Jリーグクラブライセンス交付規則
- フットボール競技(サッカー、ラグビー、アメリカンフットボール)の競技会場要件
- 天然芝グラウンド・人工芝グラウンドのメリットとデメリット
- その他、施設等の課題を解消するために必要な事項

■ (公財)日本サッカー協会 国民体育大会サッカー競技 施設ガイドライン

◇ フィールド(ピッチ)

- ・ 2面以上の芝生(天然・人工)ピッチ確保が望ましい
- ・ 競技フィールドの大きさは「105m(タッチライン)×68m(ゴールライン)」とする
- ・ 芝生面の余白をタッチライン、ゴールラインそれぞれから5m以上確保すること
- ・ 人工芝はJFAロングパイル人工芝ピッチであること
- ・ 人工芝は、1回戦から3位決定戦に限り使用可能とする。→ 準決勝・決勝戦は天然芝ピッチ
- ・ 人工芝は、各種別1面の使用を原則とする。同種別で2面以上使用する場合は、1会場地内に2面以上の人工芝ピッチがある場合に限り、協議の上、その可否を決定する。

◇ 付帯施設

- ・ マッチコミッショナー席、審判アセッサー席、記録員席をフィールド全体が見渡せる中心位置に設置すること(風雨の影響を受けないこと/プレハブ等の仮設可)
- ・ 1日1会場で出場するチーム数分の更衣室、審判用更衣室があること
- ・ 審判員用のミーティングスペース(審判用更衣室に隣接)を設けること
- ・ ドーピングコントロールルームを設けること
- ・ 関係各団体の役員席(風雨の影響を受けないこと)を設けること
- ・ 観客用スタンド、風雨に影響しない視察員席を設けること
- ・ 1チーム100㎡以上の試合前ウォームアップスペースを設けること

■ (公財)日本サッカー協会 競技運営部 国際試合開催条件

◇ 練習会場

- ・天然芝(良好な芝生状態の維持)
- ・照明施設(最低照度 500 ルクス程度)
- ・シャワー付き更衣室、メディア用控室
- ・非公開練習が可能なこと(=目隠し等の設置が可能)

■ 国庫補助・助成制度の要件

◇ 国土交通省 社会資本整備総合交付金

- ・国民スポーツ大会などの“国家的関連事業”の開催に向けた都市公園の整備に関する事業は、国土交通省の交付金の重点配分事業となる。
= 交付の対象は「国民スポーツ大会の開催される都市公園の整備に関する事業」

◇ 日本スポーツ振興センター(ＪＳＣ) スポーツ振興くじ助成(地域スポーツ施設整備助成)

- ・対象となる施設等：地域住民のスポーツ活動の場となる競技施設の新設
- ・助成限度額：20,000 千円(助成対象経費限度額 30,000 千円)
- ・助成対象：自治体、市町村が出資した非営利のスポーツ団体等
- ・“都市公園の整備”である必要はないが、助成限度額があり、社会資本整備総合交付金に比べて助成金額が少ない。また、国庫補助等との併用はできない。

◇ 日本サッカー協会 地区サッカー施設整備助成事業

- ・対象となる施設等：都道府県サッカー協会等が整備するサッカー施設
- ・助成限度額：最大 45,000 千円(人工芝の整備)
- ・助成対象：都道府県サッカー協会、地方自治体等
- ・令和 4 (2022)年 12 月をもって助成事業終了の予定。その後の継続や新たな助成事業が創設されるか未定。
- ・“都市公園の整備”である必要はないが、助成限度額があり、社会資本整備総合交付金に比べて助成金額が少ない。

■ 大規模大会(少年～社会人)の開催傾向

- ・2面以上のグラウンドが同時に使用できる会場
- ・クラブハウス(更衣室・シャワー等)が4チーム～6チーム分あること
- ・芝生のコンディション悪化のおそれがなく、1日の試合数を制限する必要のない人工芝グラウンドを会場とすることが多い。

■ Jリーグクラブライセンス交付規則

◇ ピッチ

- ・クラブハウスに隣接した常時使用できるフルサイズの天然芝、もしくはJリーグが定めたハイブリッド芝のピッチ1面
- ・ピッチを観覧できるエリア(一般客とメディアに分かれていること)

◇ クラブハウス

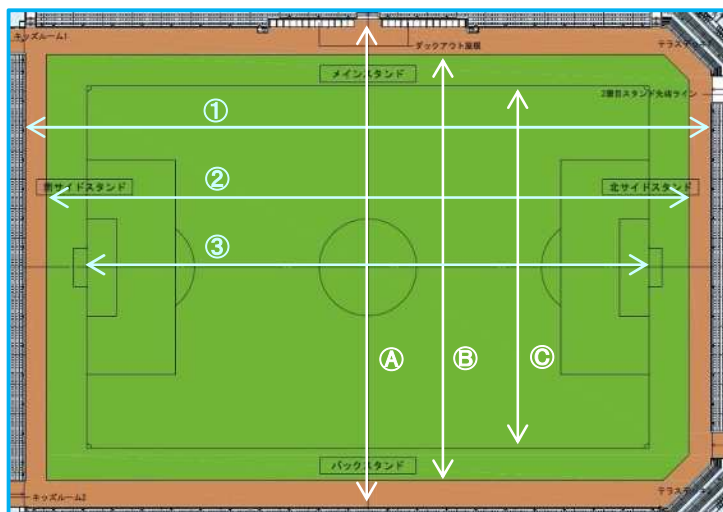
・クラブハウスは以下の設備を備えていること

- ① トレーニングジム
- ② トップチーム用の更衣室(選手全員が使用可能な数のロッカー、8基程度のシャワー、トイレを備えていること)
- ③ ビジターチーム用の更衣室
- ④ メディカルケアスペース(マッサージ台2台、ベッド、担架、AED、冷蔵庫、製氷機を備えていること)
- ⑤ トップチームの選手、コーチ、チームスタッフ全員が収容可能なミーティングルーム(映像再生装置が使用可能であること)
- ⑥ メディアからの取材に対応するスペース
- ⑦ メディアが作業できるスペース(⑥のスペースとは別であること)
- ⑧ 駐車場(クラブ関係者、メディア、一般利用者それぞれのために用意されていること)

■ フットボール競技(サッカー、ラグビー、アメリカンフットボール)の競技会場要件

いずれのフットボール競技にも対応できるように、ピッチサイズは長野Uスタジアムと同規模であることが望ましいと思われます。

◇ 長野Uスタジアムのピッチサイズ



◆ タッチライン側

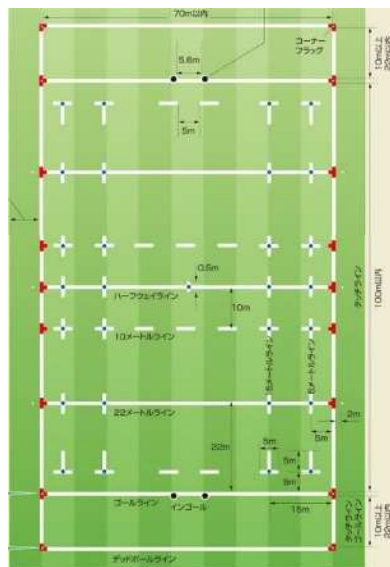
- ① 130m(管理用通路含む)
 - ② 120m(ピッチサイズ)
 - ③ 105m(競技フィールド)
- ※芝生の余白：7.5m

◆ ゴールライン側

- ① 約90m(管理用通路含む)
 - ② 80m(ピッチサイズ)
 - ③ 68m(競技フィールド)
- ※芝生の余白：6m

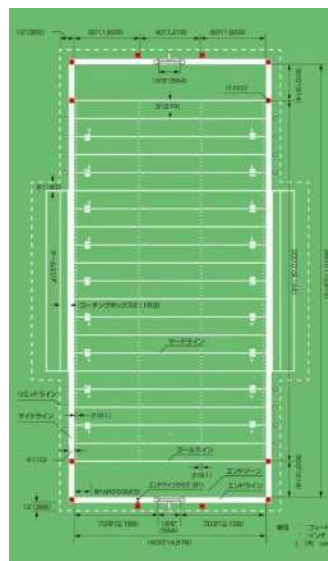
ピッチ周辺管理用通路幅：約5m

◇ 参考：ラグビー、アメリカンフットボールのフィールド(ピッチ)サイズ



◆ラグビー

- ・競技フィールド
縦：100m
横：70m
- ・ピッチサイズ
縦：120m
横：80m



◆アメフト

- ・競技フィールド
縦：約110m
横：約49m
- ・ピッチサイズ
縦：約118m
横：約53m

■ 天然芝グラウンド・人工芝グラウンドのメリットとデメリット

施設の規模(仕様)の検討にあたり、天然芝グラウンドと人工芝グラウンドそれぞれのメリットとデメリットについて検証を行います。

◇ 天然芝グラウンドのメリット

- ・グラウンド自体の建設費が安い(防球ネット、観客席等の建設費は変わらない)。
- ・よく整備された天然芝グラウンドはクッション性が高く、競技者の身体への負担が少ないため故障が起こりにくい。
- ・表面温度が上がりにくく、特に夏季は競技者の身体への負担が少ない。

◇ 天然芝グラウンドのデメリット

- ・建設後のメンテナンスにかかる手間と費用が非常に多い。
- ・使用後は芝生養生のための期間をとる必要があり、連続した使用ができない。また、1日の使用時間を制限する必要がある。
- ・天候の影響を受けやすく、雨天時及び雨天後の使用は芝生の傷みが激しくなる。
- ・冬季など数か月間の芝生養生期間が必要である。
- ・芝生張替えのための圃場やメンテナンスの資機材、人員が必要である。

◆ 人工芝グラウンドのメリット

- ・建設後のメンテナンスにかかる手間と費用が、天然芝に比べて格段に安い。
- ・芝生養生のための期間が不要のため、連続した使用ができる。また、1日の使用時間を制限する必要がない。
- ・天候の影響を受けにくく、一年中利用できる。

◆ 人工芝グラウンドのデメリット

- ・グラウンド自体の建設費が高い(防球ネット、観客席等の建設費は変わらない)。
- ・天然芝に比べてクッション性が低く、競技者の身体への負担が大きいため競技者の故障が起こりやすい(安価な製品や舗装の場合、特に顕著である)。
- ・表面温度が上がりやすく、特に夏季は競技者の身体への負担が大き(充填剤を工夫し、温度の上昇を抑える製品もある)。
- ・使用頻度にもよるが、概ね10年程度で全面的な張替えが必要である。

項目	天然芝グラウンド	人工芝グラウンド
建設費	○ (安い)	× (高い)
維持管理費・手間	× (高い・多い)	○ (安い・少ない)
競技者の身体への負担	○ (少ない)	△ (大きい) ※天然芝と比較
連続使用	× (不可能)	○ (可能)
天候による影響	× (受ける)	○ (受けにくい)
その他	芝生圃場、資機材、人員が必要	10年程度で全面張替え必要

■ その他、施設等の課題を解消するために必要な事項

◇ 芝生の圃場

- ・天然芝ピッチ(フルサイズ)1面あたり1,500㎡から2,000㎡程度の芝生の圃場が必要。
- ・整備場所が南長野運動公園の近隣で、長野Uスタジアムの圃場としても活用できる場合は更に500㎡から1,000㎡の芝生の圃場が必要。

◇ 駐車場

- ・休日(週末)の大会利用を考慮すると、グラウンド1面あたり120台程度の駐車場が必要。

◆ 算出根拠

- ・1試合必要台数 = 1チーム 20台 × 2 = 40台
- ・1グラウンドの1日あたり試合数 = 3試合
- ・駐車場必要数 40台 × 3 = 120台

◆ 参考

- ・松本市サッカー場(人工1面) : 119台※
- ・松本市かりがねサッカー場(天然/人工各1面) : 301台
- ※駐車場が不足した場合、周辺の松本平広域公園駐車場を利用

- ・整備場所が南長野運動公園の近隣で、南長野運動公園の駐車場不足を解消又は軽減するためには、更に駐車場が必要となる。

◇ その他、必要な設備

- ・その他、国民スポーツ大会後もフットボール場として有効に利用するために、次の設備が必要と思われる。

- 防球ネット：敷地の有効利用や周辺への危害を防ぐため8～10m程度のものが必要。
- 公衆トイレ：クラブハウス内の競技者用だけでなく、観覧者等も利用できるもの。
- 散水設備：天然芝ピッチ及び圃場に必要。井水の利用可。
- 天然芝維持管理用資機材：トラクター等の機材、養生用肥料、薬剤等。長野Uスタジアムとの位置関係によっては共用可。

以上のことから、整備するフットボール場の規模・整備内容(仕様)は次のとおりとします。

■ 天然芝1面、人工芝2面のグラウンド

- ・ピッチサイズは 縦 120m×横 80m程度で周囲に管理用通路があること
- ・人工芝はJ F A公認のロングパイル人工芝であること
- ・最大 500lux 程度の夜間照明、8～10m程度の防球ネットがあること
- ・観客席、公衆トイレがあること
- ・天然芝グラウンドには散水設備と維持管理用資機材があること

■ クラブハウス

- ・天然芝グラウンドに隣接していること
- ・シャワー付き更衣室6室程度があること
- ・トレーニングジム、医務室(メディカルケアスペース)があること
- ・多目的に使用できる複数の会議室があること

■ 駐車場：400 台程度

■ 芝生の圃場：1,500 m²以上

(2) 施設整備の候補地

前項の規模のフットボール場の整備場所選定にあたっては、以下の方針により候補地の選定を行います。

- 想定する規模の整備が可能で、かつ、整備する各施設が分散せず一体的利用ができること
- 国庫補助の活用が可能な立地条件であること

今後、複数の候補地を選定し、当該地域や地権者(用地買収を伴う場合)の意向を踏まえ、関係機関等と協議を行った上で、最終的な整備地を決定します。

(3) 防災拠点としての機能

想定する規模のフットボール場は、災害発生時にも防災拠点として以下のような機能を発揮できるものと考えられます。また、整備地によっては、災害対策基本法に基づく指定緊急避難場所及び指定避難所や、「長野市地域防災計画」や「長野市受援計画」において災害発生時の支援や救助活動の拠点に位置付けられる可能性もあることから、防災拠点としての機能に配慮しながら、整備の詳細を検討していく必要があります。

■ **駐車場 → 災害支援関係車両専用駐車場としての機能**

- ・フットボール場用として整備する駐車場を、自衛隊やボランティア長期間災害支援関係車両専用駐車場として長期間利用することが可能
- ・緊急避難時の一時的な避難者の駐車場としても有効に活用することが可能

■ **人工芝グラウンド → テント等の設営場所としての機能**

- ・人工芝グラウンドを自衛隊や他の自治体からの緊急消防援助隊のテント設営場所として利用することが可能
- ・フットボール場内に設置されるクラブハウスや公衆トイレ、観客席等を利用することでより高機能な宿营地となる

■ **クラブハウス倉庫・観客席 → 物資や避難者の一時的な保管・待機場所としての機能**

- ・クラブハウスに設ける機材等の倉庫を物資の集積所として利用することが可能
- ・国民スポーツ大会の施設ガイドラインに準じた“風雨に影響しない”観客席を整備した場合、観客席を避難者の一時的な待機場所として利用することが可能

なお、駐車場に防災備蓄倉庫や災害時に活用できる炊飯用施設やトイレ等を整備することにより「緊急防災・減災事業債」の活用も可能と思われませんが、駐車台数が大幅に減少すること、防災・減災設備の整備が必要となること、緊急防災・減災事業債による整備箇所は他の交付金等の対象とならないことから、活用には留意が必要です。



人工芝グラウンドでの宿営訓練の例



緊急防災・減災事業債を活用して整備された防災備蓄倉庫（石川県金沢市）

4 施設整備後の利活用

VI-3-(1)で検証した「天然芝ピッチ1面、人工芝ピッチ2面」の規模を前提として、新たなフットボール場整備後の本市の芝生グラウンドのあり方や、国民スポーツ大会後の利活用について検討を行います。

(1) 本市の芝生グラウンドのあり方

新たなフットボール場の整備による大きく変わる将来の環境をどう活用していくか、長野市総合計画施策の категорияに分類し、現在の環境との比較で検証します。

■ 現在の環境

総合計画施策	カテゴリー	施設	面数	課題
スポーツを通じた交流拡大の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●交流人口拡大 ●経済・地域活性化 ●プロチームとの連携 	長野Uスタジアム	1 (天然)	<ul style="list-style-type: none"> ・練習ピッチ(サブピッチ)がなく試合・大会誘致に支障 ・利用頻度が高く、芝生の圃場が不足
		千曲川リバーフロントスポーツガーデン	5 (天然)	<ul style="list-style-type: none"> ・堤外地(河川敷)のため、度々水害の影響を受けている ・夜間照明、防球ネット、観客席等の工作物が設置できない ・天然芝であるため、養生期間をとる必要がある
誰もがスポーツを楽しめる環境づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●競技施設 			
豊富な観光資源等を活かした観光交流促進	<ul style="list-style-type: none"> ●観光資源 	飯綱高原南グラウンド	1 (天然)	<ul style="list-style-type: none"> ・芝生の状態が非常に悪く、相当部分が雑草の状態 ・更衣室、トイレが老朽化しているほか、防球ネットがない



■ 将来の環境 (あり方)

カテゴリー	施設名	面数	目指す機能 (用途)	整備年	
<ul style="list-style-type: none"> ●交流人口拡大 ●経済・地域活性化 ●プロチームとの連携 	長野Uスタジアム	1 (天然)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際大会(男子アンダー代表、女子代表等)開催 ・Jリーグ/WEリーグ公式戦 ・天皇杯/皇后杯等カップ戦 ・各種大規模大会の決勝、3位決定戦 	H15 (改修 H27)	
	フットボール場	天然芝グラウンド	1 (天然)	<ul style="list-style-type: none"> ・プロチームの(AC長野パルセイロ)の練習拠点 ・国際大会の練習等(Uスタジアムのサブピッチ) 	R9 (予定)
		人工芝グラウンド	2 (人工)	<ul style="list-style-type: none"> ・市内クラブチーム等一般競技者の練習(平日夜間中心) ・各種大規模大会の予選リーグ、順位決定トーナメント ・各年代のリーグ戦、カップ戦(休日 昼夜間) 	R9 (予定)
<ul style="list-style-type: none"> ●競技施設 	千曲川リバーフロントスポーツガーデン	5 (天然)	<ul style="list-style-type: none"> ・各年代のリーグ戦、カップ戦(休日昼間) ・市内クラブチーム等一般競技者の練習(休日昼間) 	H2 (改修 H29)	
<ul style="list-style-type: none"> ●観光資源 	飯綱高原南グラウンド (R3 再整備)	1 (天然)	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー合宿利用等による飯綱地区の活性化 ・サッカーの避暑地としての利用 ・合宿等の空きコマは市民、パルセイロ利用により活用 	S60 (改修 R3)	

注：青字の用途はフットボール場の整備および飯綱高原南グラウンドの再整備により新たに本市に加わるもの

(2) 施設整備後の利活用

前項での検討から、新たなフットボール場の整備には、千曲川リバーフロントスポーツガーデンが担っていた機能(用途)だけでなく、これまで本市になかった機能(用途)が加わることになります。また、既存の芝生グラウンドの機能(用途)にも維持管理の軽減などの効果があるものと見込まれます。

■ 新たなフットボール場の機能(用途)

施設	特徴	主な機能(用途)	機能(用途)の区分
天然芝グラウンド (1面)	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間の使用は不可 ・養生期間が必要 	国際大会等の練習会場	新たな機能
		プロチーム(AC長野パルセイロ)の練習拠点	リバーフロントからの機能移転※
人工芝グラウンド (2面)	<ul style="list-style-type: none"> ・連続使用が可能 ・養生期間が不要 ・2面あることにより大規模大会の開催が可能 	市内競技者の練習(特に平日夜間)	新たな機能
		各種大規模大会の開催	新たな機能
		各年代のリーグ戦、カップ戦(特に休日)	リバーフロントからの機能移転
		フットボール競技以外の使用(グラウンドゴルフなど)	新たな機能

※ 新たにJ1ライセンスの取得が可能になる

■ 既存の芝生グラウンドへの効果

施設	新フットボール場整備の影響	効果
長野Uスタジアム	中・小規模の大会の振り分け	芝生のコンディション向上
千曲川リバーフロント スポーツガーデン	プロ仕様の芝からの変更	維持管理費の減少
	使用日数の減少	維持管理費の減少

(3) 防災拠点としての利活用

VI-3-(3)で検証した防災拠点としての機能を有することにより、災害発生時にも有効に利活用されるものと考えられます。

5 財政負担の軽減

(1) 補助・助成制度の活用

フットボール場の整備への活用が想定される特定財源は以下のとおりです。整備にあたっては、これらの特定財源の活用を前提とし、関係機関と協議の上、適切なものを最大限活用して整備にかかる財政負担を軽減します。

■ 国庫補助金

・国土交通省 社会資本整備総合交付金

国民スポーツ大会開催のための都市公園整備等に関する事業は、国土交通省の社会資本整備総合交付金の重点配分対象となります。整備にあたっては、本交付金の対象となる候補地の選定を行います。

◇ 補助率(上限)	国 1/2 : 市 1/2 (用地補償費は国 1/3 : 市 2/3)
◇ 起債充当率	市負担額の 90%
◇ 交付税措置	起債額の 20%

■ 独立行政法人日本スポーツ振興センター(JSC)助成金

・スポーツ振興くじ助成(地域スポーツ施設整備助成)

地域住民の身近なスポーツ活動の場となる競技施設等の新設(増改築を含む)、改修又は改造を行う事業が対象となります。

◇ 対象事業	スポーツ施設等の整備(助成対象経費 10,000 千円以上のもの)
◇ 助成対象者	地方公共団体又は非営利のスポーツ団体
◇ 助成限度額	助成対象経費限度額(30,000 千円)に3分の2を乗じて得た額 =助成限度額 20,000 千円

国の補助金又は交付金を活用する事業は助成の対象外となりますが、スポーツ振興くじ助成には器具購入等の助成もあるため、活用できるものを検討していきます。

■ 日本サッカー協会 地区サッカー施設整備助成事業

都道府県サッカー協会等が行うサッカー施設の整備事業に対し、日本サッカー協会が助成を行うものです。令和4(2022)年12月をもって助成事業が終了となります。

◇ 対象事業	サッカー施設の整備
◇ 助成対象者	都道府県サッカー協会、地方自治体等
◇ 助成限度額	天然芝：15,000 千円(対象経費の 75%) 人工芝：45,000 千円(対象経費の 50%) 夜間照明、クラブハウス：15,000 千円(対象経費の 30%)

助成事業の終了までには整備が間に合わないことから、今回の整備での活用は困難です。ただし、今後新たな助成事業が創設されるか注視していくことが必要です。

(2) 整備手法の検討(民間資金導入等)

フットボール場にあたり、整備後にクラブハウス及び天然芝グラウンドをAC長野パルセイロが利用する場合、整備費の負担をすることや、広く寄付を求めることなど、民間資金の導入を検討する必要があります。

(3) 整備後の維持管理

整備後のフットボール場の運営及び維持管理は指定管理者が行うことが想定されますが、国庫補助の活用を前提とした場合、都市公園の隣接地に整備する必要があるため、整備場所となる都市公園全体の指定管理とすることが望ましいと思われます。

■ 維持管理費

近隣の類似施設や他の自治体の実績を参考に算出したフットボール場の一年間の維持管理にかかる経費の見込みは以下のとおりです。

◇ 天然芝グラウンド(1面/圃場を含む)	20,000 千円
◇ 人工芝グラウンド(2面)	4,000 千円
◇ クラブハウス	1,500 千円

■ 利用料収入等

近隣の類似施設や他の自治体の利用料金単価等を参考に算出した、フットボール場の一年間の利用料収入等の見込みは以下のとおりです。

なお、人工芝グラウンドの利用率(利用日数÷利用可能日)については、近隣の千曲市サッカー場の利用率が100%を超えているため※、100%として想定しました。

※営業日はすべて利用があり、定休日の利用がある状態となっている

◇ 天然芝グラウンド(1面)	1,500 千円
◇ 人工芝グラウンド(2面)	17,200 千円
◇ クラブハウス	1,500 千円

これらを参考に、フットボール場整備後の本市芝生グラウンド全体の維持管理費や、その他のグラウンドの維持管理について見直しを行います。

(4) 既存スポーツ施設(グラウンド)の維持管理等見直し

■ 芝生グラウンドの維持管理

本市の芝生グラウンドの維持管理について、現況とフットボール場整備後を次のとおり計画し、芝生グラウンド全体として実質的な年間の市負担額(指定管理料)の軽減を図ります。

施設名	面数	現況	整備後	フットボール場整備後の維持管理
長野Uスタジアム	1	36,000	36,000	・プロリーグ開催に適した芝生を維持するため維持管理費削減は困難 ※ 金額は芝生ピッチの維持管理費のみ
千曲川リバーフロントスポーツガーデン	5	100,000	60,000	・フットボール場整備後、プロ仕様の芝を見直し ・利用料の見直し(値上げ)による指定管理料減 ・祝休日中心の利用へ転換し芝生への負担軽減 ・その他、水害後の工事期間を長期化できるようになることから、復旧費の軽減が可能
飯綱高原南グラウンド	1	8,600	8,600	・飯綱高原観光協会ではアメフトからサッカーの合宿誘致の方針転換 ・再整備により維持管理費は増えるが、利用料収入の増により指定管理料は変わらない見込み
フットボール場	天然芝グラウンド	—	5,300	・維持管理費 20,000 千円、収入 1,500 千円 ・プロチームの練習に適した芝生を維持 ・維持管理用資機材を他のグラウンドと共有
	人工芝グラウンド	—		・維持管理費 4,000 千円、収入 17,200 千円 ・平日は夜間の練習、祝休日は大会利用を想定 ・10年前後で全面的な張替えが必要
合計		144,600	109,900	

フットボール場整備後は、芝生グラウンド全体で年間約 34,700 千円の市負担額削減が可能となります。

■ 将来の競技人口等の変動に対する対応

将来、人口減少等の要因により競技者数が減少し、芝生グラウンドの利用人数が少なくなった場合には、千曲川リバーフロントスポーツガーデンのピッチ数や維持管理の方法の見直しを行い、経費削減等の対応を行います。

◇ 参考：千曲川リバーフロントスポーツガーデンの利用状況

年 度	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)
利用件数	1,517 件	1,623 件	1,610 件	1,640 件	2,282 件

※ R 元(2019)年度以降は、令和元年東日本台風災害と新型コロナウイルス感染症の影響を受けているため掲載していない

※ H26(2014)～H29(2017)はピッチ 3 面、H30(2018)はピッチ 5 面

■ 河川敷グラウンド(運動場)の見直し

令和元年東日本台風災害をきっかけに、今後水害を受けることが多くなると予想されている河川敷のグラウンド(運動場)について見直しを行い、令和2(2020)年度をもって2施設を廃止しました。

◇ 令和2年度をもって廃止した運動場

施設名	所在地	面積	水系	開設日
塩崎運動場	篠ノ井塩崎 8282	17,180 m ²	千曲川水系	昭和 63(1988)年 12 月
万年島運動場	大字屋島 121-1	8,944 m ²	千曲川水系	昭和 46(1971)年 3 月

本市の河川敷グラウンド(運動場)は、千曲川沿いにあるものと犀川沿いにあるものに大別されますが、千曲川水系のグラウンド(運動場)は、平成 25(2013)年、平成 29(2017)年、令和元(2019)年と頻繁に水害を受けており、今後も被災する可能性が高いことから、利用者数や近傍同類施設の有無等を勘案し、見直し(廃止・縮小)を行っていく方針としています。

参考：令和元年東日本台風災害 千曲川水系河川敷運動場復旧費(見込) 3.1 億円

なお、犀川水系の運動場は、比較的用户も多く、水害の可能性も少ないことから、当面は維持していく予定です。

参考：平成 30(2018)年度 河川敷グラウンド(運動場)利用者数

(マレットゴルフ場、若穂多目的広場、千曲川川畔「フットボールパーク」除く)

- 千曲川水系のグラウンド(運動場) 7施設 利用者数：48,820 人
- 犀川水系のグラウンド(運動場) 6施設 利用者数：191,500 人
- 平成 31/令和元(2019)年 グラウンド整備予算額 21,800 千円

注：令和2・3年度は水害の影響があるため、通常ベースの金額が出せない



水害後の塩崎運動場 (令和2(2020)年廃止)

6 事業スケジュール

フットボール場整備で想定される事業スケジュールは以下のとおりです。

年度	全体構想(計画) 国庫補助	農地転用 市街化区域編入	用地買収	設計・工事	民間資金導入
R3(2021)	施設整備計画 ↓				
R4(2022)	地区・地権者説明、関係者協議 → 整備地の選定				
	概算事業費算出 国庫補助申請(概算) ↓	都計審(6月) 都計審(11月) 事業認可	境界立会い 土地鑑定 補償費算定	平面及び用地測量 ↓	民間事業者協議 基本的枠組み合意 ↓ 協定締結
R5(2023)	国庫補助関係事務 ↓		用地先行取得 ↓ 用地再取得	実施設計 ↓	民間事業者施設 基本計画策定 ↓
R6(2024)				道路築造 用水・雨水対策工事 ↓	民間事業者施設 実施設計 ↓
R7(2025)				運動施設等工事 ↓	民間事業者施設 建設工事
R8(2026)					
R9(2027)	リハーサル大会 開催				
	↓		↓	↓	
R10(2028)	フットボール場供用開始				
	第82回 国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会 開催				



Ⅵ 駐車場

1 課題解消の方法（手段）

(1) 課題の整理

Ⅲ-1 及びⅢ-3 での検証では、国民スポーツ大会で複数の競技が行われる長野運動公園、南長野運動公園とも、駐車場について以下の課題があります。

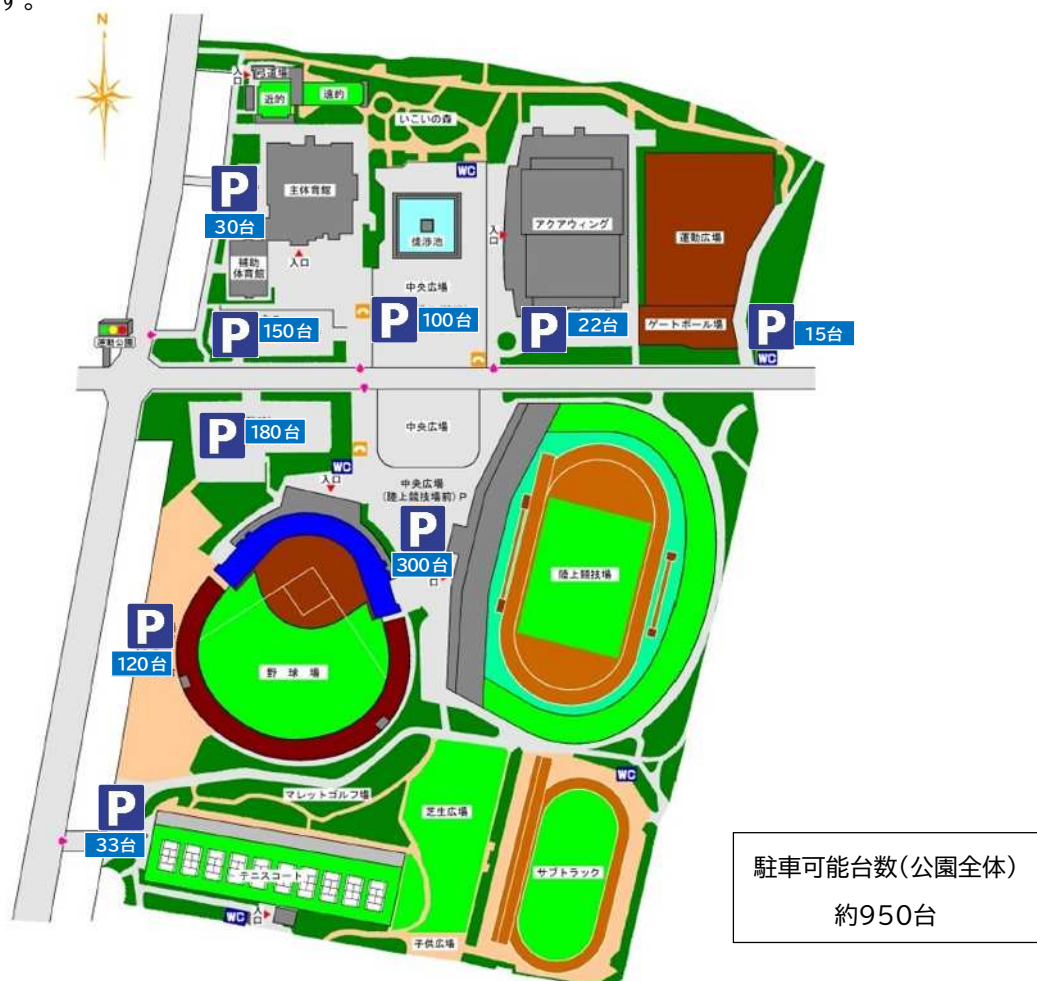
- 休日(週末)における慢性的な駐車場不足
→ 周辺への迷惑のほか、大会運営にも支障

(2) 課題解消の方法(手段)

■ 長野運動公園

長野運動公園内の駐車場は敷地内に点在しており、大会等が行われる際には使いづらい状態となっています。また、長野運動公園は、長野市都市公園条例で定める運動施設の敷地面積の基準(公園全体の50%)が、ほぼ上限となっており、緑地の割合が非常に少なくなっています。

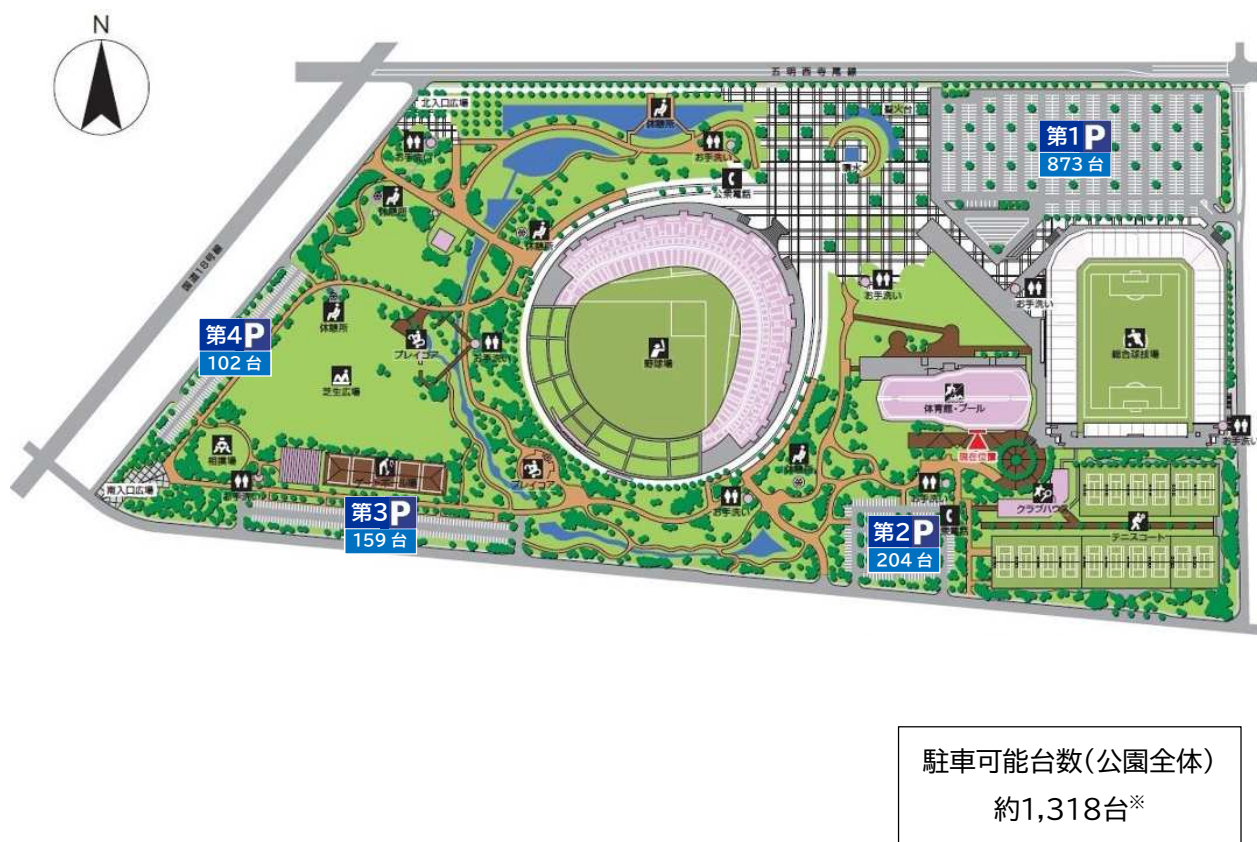
このため、課題解消のためには公園の隣接地に、まとまった台数が駐車できる、新たな駐車場が必要です。



■ 南長野運動公園

南長野運動公園には第1から第4まで4つの駐車場があり、大会等が行われる際には、主に第1駐車場と第2駐車場が使用されています。特にJリーグのシーズン中は、一番広い(=駐車台数の多い)第1駐車場が試合運営のために使用されています。

課題解消のためには新たな駐車場が必要ですが、公園内の施設の配置から既存の駐車場の拡充は困難であり、公園内への駐車場新設も、緑地(芝生広場)が多く市民の憩いの場として有効に活用されていることから困難な状況です。また、第1駐車場は、平成27(2015)年に長野Uスタジアムの整備に合せ、国庫補助を受けて駐車台数増設のための再整備が行われており、新たに駐車場施設のみで国庫補助の対象とするのは困難と思われます。

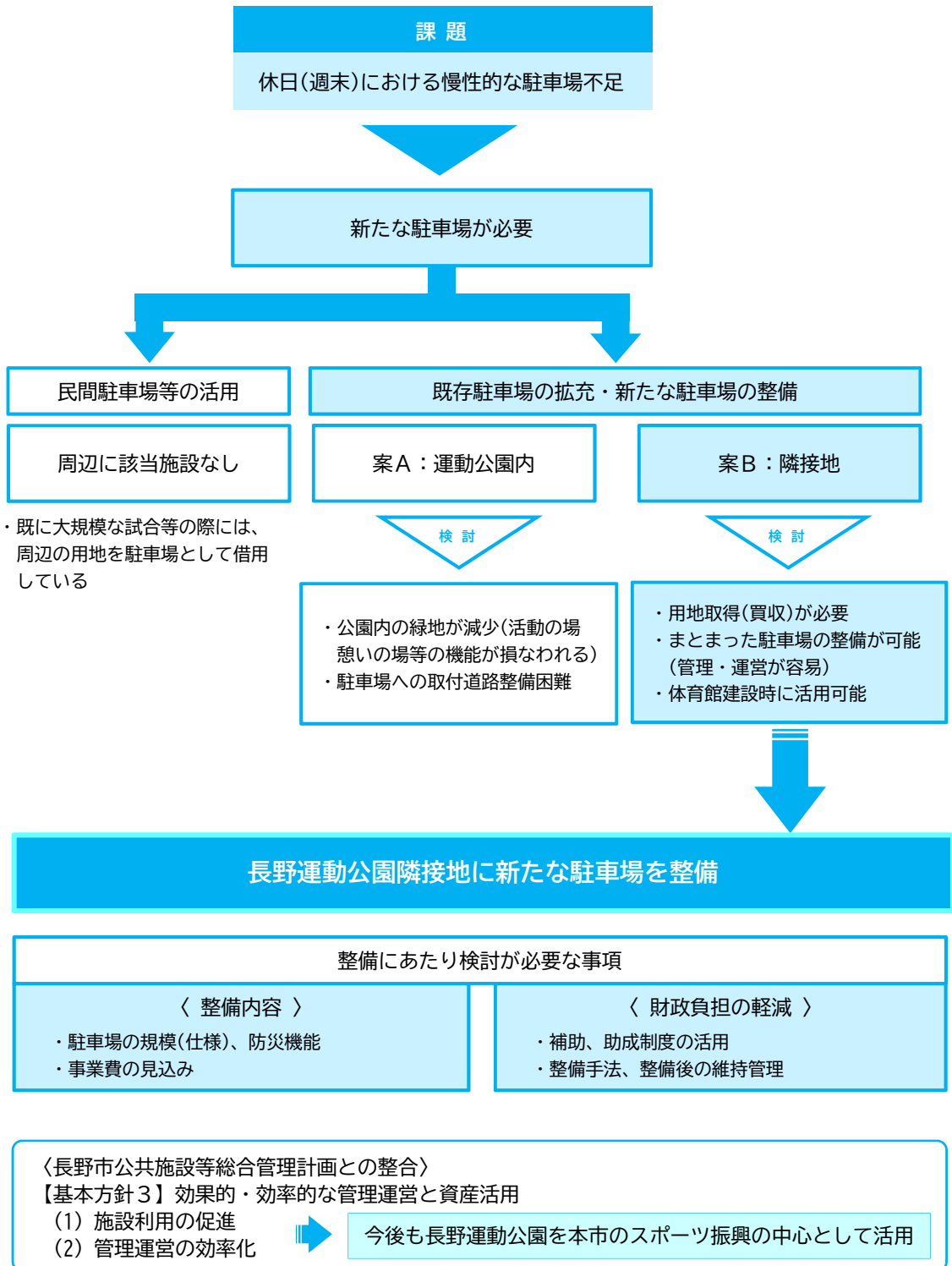


※長野Uスタジアム内の駐車台数は含まない

2 施設整備計画における方針

(1) 長野運動公園

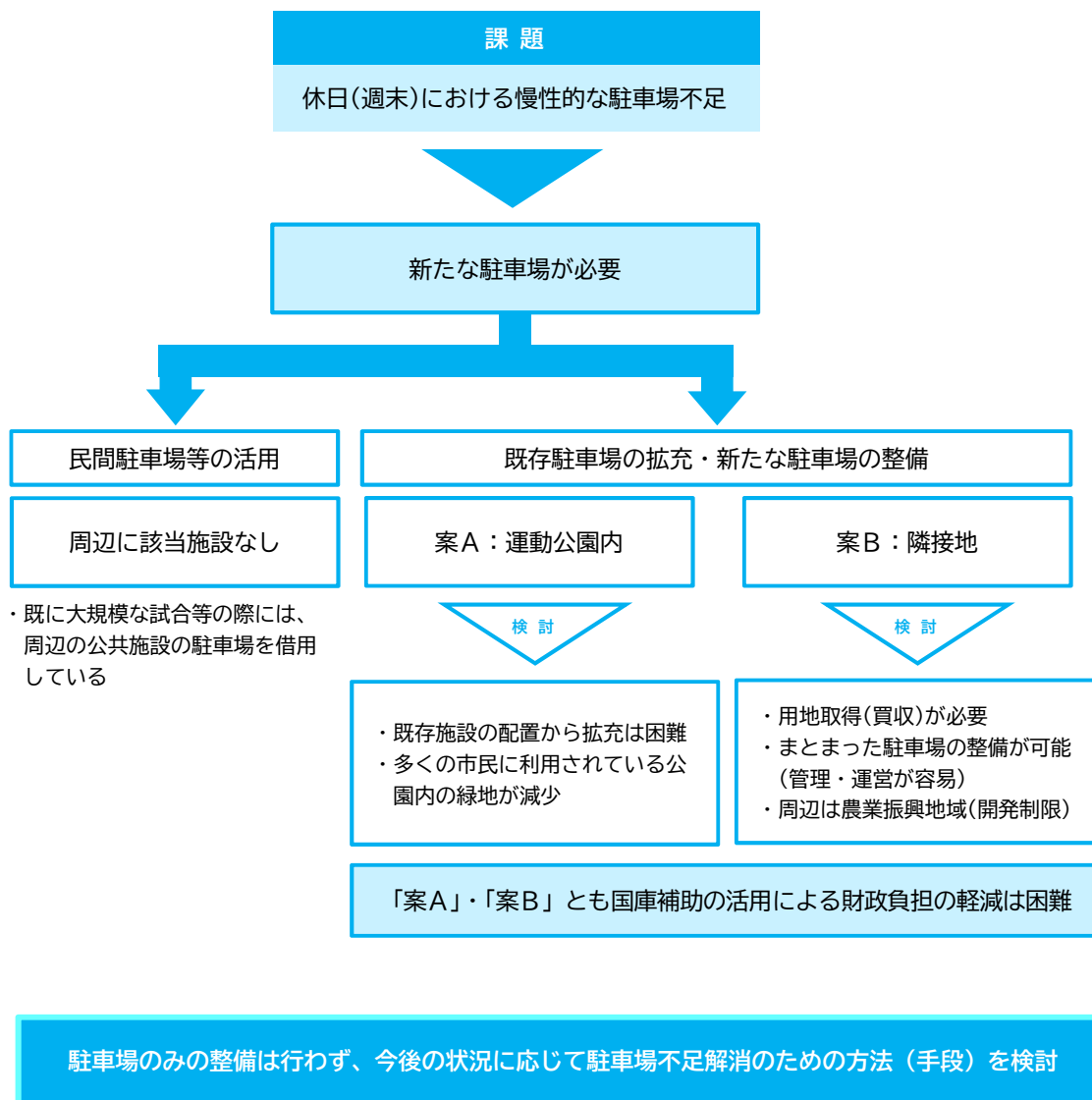
検討の結果から、長野運動公園隣接地に新たな駐車場を整備することとします。



(2) 南長野運動公園

検討の結果から、駐車場の増設や新たな駐車場の整備は困難な状況です。

このため、駐車場のみの整備は行わず、今後の状況に応じて駐車場不足解消のための方法（手段）を検討していきます。



3 事業スケジュール

(1) 長野運動公園

駐車場整備で想定される事業スケジュールは以下のとおりです。

年度	全体構想(計画)	都市計画変更 (公園区域)	用地買収	実施設計・工事
R3(2021)	施設整備計画策定 ↓	都市計画変更素案作成 国庫補助申請事前協議 ↓	地権者説明	
R4(2022)		都市計画変更 事業認可手続き 事業認可	境界立ち合い ↓	用地測量 ↓
R5(2023)			用地先行取得 ↓ 用地再取得 ↓	実施設計 ↓
R6(2024)				整備工事 ↓
R7(2025)	供 用 開 始			

(2) 南長野運動公園

駐車場のみの整備は行わないため、今後の状況をみながら整備等の実施を検討します。

年度	整備等の実施検討
R3(2021)	施設整備計画
R4(2022)	駐車場不足解消のための方法(手段)検討 ↓
R5(2023)	
R6(2024)	
R7(2025)	
R8(2026)	
R9(2027)	リハーサル大会 開催
R10(2028)	第82回 国民スポーツ大会・第27回 全国障害者スポーツ大会 開催

VIII 參考資料

1 公共施設適正化検討委員会からの提言

■ 「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の施設整備に向けた提言」(提言に関する部分抜粋)

II 競技開催施設への提言

本提言では、本市のスポーツ施設の在り方を総論としてまとめた上で、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会競技開催施設の在り方を各論として示します。

1 スポーツ施設の在り方(総論)

本市のスポーツ施設は、社会体育館などの中小規模の施設のほか、長野オリンピック・パラリンピック冬季競技大会の開催を契機に整備されたエムウェーブなどの大規模施設が市内全域に設けられています。

このうち、中小規模の施設では、健康増進、リフレッシュ、生きがい・仲間づくりなどを目的として、市民によるスポーツ活動が盛んに行われています。

また、大規模施設では、日常的な市民によるスポーツ活動に加え、数多くの国際大会や全国的な試合が開催されているほか、地域密着型のプロスポーツチームが活躍するなど、市民に夢や感動をもたらすとともに、地域の活性化や経済にも大きな役割を果たしています。

一方、これらの施設は、その多くが建設から年数が経過していることで老朽化が進行しており、改修の必要性や維持管理費など、施設管理の観点からの課題が生じています。

検討小委員会では、これらの現状を踏まえ、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会を迎えるに当たり、スポーツ施設の在り方について昨年11月より検討を重ね、提言をとりまとめてきました。

それを受け、本委員会では以下のとおり提言します。

まずは、現在の施設に対し、必要な長寿命化改修を施すなど、十分に活用されたい。また、新たな整備等が必要な場合には、これまで本市が進めてきた公共施設マネジメントに沿って、十分に検討されたい。

なお、施設の整備に当たっては、「普段スポーツ施設を利用しない市民を含めた広い市民の理解」、「災害発生時などスポーツ以外での複層的な活用」、「ユニバーサルデザインの推進」、「国等による財政的支援の確保や整備後の収支を見越した財政負担の抑制」を考慮されたい。

これらの点を十分に踏まえ、この50年ぶりに開催される国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会を成功に導けるよう万全の準備を進めるとともに、これを契機として本市が取り組む市民一人ひとりが自分に合ったスポーツとの関わり方を見つけ、楽しむことによるスポーツ振興の進展、更には本市が目指す「健幸増進都市」の実現にもつなげることができるよう、検討されることを望みます。

2 両大会競技開催施設の在り方（各論）

(1) 体育館

【提言】

○総合体育館などの大規模体育館は、市民のスポーツ活動やプロリーグ、各種大会の開催等で活用され、スポーツ振興の拠点施設となっていることから、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会後も重要な役割を維持していくよう検討されたい。

ア 施設の概要

総合体育館などの大規模体育館は、前回のやまびこ国体や長野オリンピック・パラリンピック冬季競技大会の開催を契機に整備が行われ、多くの観客を集めるプロスポーツチームの試合や大規模な大会等が開催されており、市民利用の場合も含めて有料の施設として運営されています。

一方で社会体育館に代表される中小規模な体育館は市内各地区に点在しており、主に市民のスポーツ活動や地区の行事等で利用され、多くは無料の施設として運営されています。

イ 現状と課題

総合体育館は、竣工後40年以上、南長野運動公園体育館及びホワイトリングは、竣工後20年以上が経過しており、老朽化や設備の更新が課題となっています。また、プロスポーツチームも含め、空調等の設備が整ったホワイトリングに利用希望が集中する傾向がありますが、サブアリーナの半面が体操練習場となっており、利用や大会・試合の運営に制約がある状況となっています。また、これらの大規模体育館は、災害発生時の拠点施設である指定避難所などに指定されています。

社会体育館等は、市街地の体育館を中心に高い利用率となっており、特に夜間と土日・祝日の予約が取れない傾向があります。また、避難所や投票所に指定されている施設があります。

(2) プール

【提言】

○アクアウィングについては、個別施設計画に基づき長寿命化の改修等を行い、国民スポーツ大会等の終了後も有効に活用するよう対応されたい。

ア 施設の概要

屋内の通年型プールとしては、長野運動公園のアクアウィングと南長野運動公園の屋内プールがありますが、公式な競技会に使用できるのはアクアウィングのみとなっています。

屋外の市民プールについては、個別施設計画に基づき統廃合が行われ、令和3年度までに5か所が廃止されました。

なお、その他にレジャーと健康増進に特化した施設として、サンマリーンながのがあります。

イ 現状と課題

アクアウィングについては、大会や合宿での利用のほか、市民の利用も非常に多い状況ですが、竣工後 20 年以上が経過しており、設備更新・整備が必要となっています。

その他のプールについても、施設の特性上、ろ過機をはじめ定期的な設備更新・整備が必要です。

(3) グラウンド（野球場、球技場）

【 提 言 】

- 野球場のうち市有施設については、個別施設計画に基づき、長寿命化の改修など適切な対策を検討されたい。また、県有施設については、長野県に働きかけ、国民スポーツ大会の開催に支障のないよう対応されたい。
- サッカー等の球技場について、長野Uスタジアムについては大会に向けての整備は必要ないことから、今後も市のスポーツ振興に有効に活用されたい。
なお、国民スポーツ大会を迎えるに当たり不足する競技環境の確保について、確実に実行できるよう対策を検討されたい。

ア 施設の概要

野球場の大規模施設は、長野運動公園の県営野球場と南長野運動公園の長野オリンピックスタジアムの 2 施設があります。

その他の野球場（多目的運動場を含む）は、全 58 面の内、約 3 分の 2 が河川敷にあり、夜間照明があるものは 6 面となっています。

球技場の大規模施設は、平成 27(2015)年に改修された南長野運動公園の長野Uスタジアムがあります。

その他の球技場（芝生グラウンド）は千曲川リバーフロントスポーツガーデン（以下「リバーフロント」という。）に 5 面、飯綱高原に 1 面あり、いずれも天然芝のグラウンドで、夜間照明のあるものはありません。

イ 現状と課題

県営野球場と長野オリンピックスタジアムは、共に設備や建物が旧式化・老朽化しており、特に県営野球場は昭和 41(1966)年竣工で、その後大規模な施設改修が行われていないため、老朽化が著しいものとなっています。両施設とも大会等での利用が多く、長野オリンピックスタジアムでは、定期的にプロ野球の試合も開催されています。

その他の野球場は主に市民のスポーツ活動に利用されています。

また、長野UスタジアムはJ3リーグに所属するAC長野パルセイロやWEリーグに所属するAC長野パルセイロ・レディースのホームスタジアムとしてリーグ戦が開催されているほか、市内で唯一の観客席や更衣室等の設備が整った球技場（芝生グラウンド）として、サッカー、ラグビーなどの試合が行われています。このため、利用頻度が高く、芝生の維持管理が難しくなっています。また、練習会場となる“サブピッチ”がないため、大規模大会や試合の誘致・開催が困難な状態となっています。

その他の球技場（芝生グラウンド）としては、リバーフロントが市の競技者にとって中心的な施設となっていますが、河川敷に位置するため、観客席や更衣室、夜間照明等の設備を設置できないほか、近年の温暖化に伴い度々水害を受けるようになっています。

【参考】検討小委員会における各委員の主な個別意見

全5回の検討小委員会において、各委員から出された施設整備に関する主な意見を参考までに記載します。

1 主に「長野運動公園総合体育館の建替え」について

- ・総合体育館は、かなり古い施設で利用者も多いため、新しく建替える必要がある
- ・他の大規模体育館を含めて位置づけを明確にし、各施設の役割が重複しないようにすること
- ・公式大会開催が可能など、大規模体育館ならではの利用価値の高い施設とすること
- ・バリアフリー等、今まで不足していた部分を整備すること
- ・シャワー室や運営に使用する諸室など、選手や大会運営側の意見も取り入れること
- ・（長野運動公園総合体育館の建替えを行う場合には）国際規格のプールであるアクアウィングと一体的に利用できるようにし、国際大会を含めた大規模大会が開催できるよう検討すること
- ・体育館の建設とともに、使いやすい駐車場の整備をきちんと行うこと
- ・利用用途に対して規模や設備の過不足がないよう、よく検討を行うこと
- ・施設の使い方を決定した上で、適切な利用料金を検討すること
- ・建設後すぐに改修が必要といったことがないよう、基本的な計画をよく検討すること
- ・現在無料で利用できる社会体育館の有料化を検討すること

2 アクアウィングについて

- ・（長野運動公園総合体育館の建替えを行う場合には）国際規格のプールであるアクアウィングと一体的に利用できるようにし、国際大会を含めた大規模大会が開催できるよう検討すること（再掲）

3 主に「堤内地へのフットボール場の整備」について

- ・長野Uスタジアムだけでは国民スポーツ大会の開催は不可能であるため、他にも大会が開催できる芝生グラウンドが必要

- ・リバーフロントは水害の度に復旧期間と費用が発生するため、堤内地への機能移転が必要
- ・市内に夜間練習等の環境がないため、やむなく近隣市町村の芝生グラウンド(人工芝)を利用しているため、整備した場合は十分需要がある
- ・リバーフロントの機能移転を考えると1面、2面だけの整備では足りない
- ・天然芝グラウンドは維持管理上経費や利用制限の問題があるため、高い頻度で利用でき、維持管理費の安い人工芝グラウンドを整備して、利用増を図るなどトータルコストを抑えること
- ・整備する面数については、リバーフロントの機能移転としての役割などや、国民スポーツ大会以降の長期的な考え方から検討し、必要性を説明すること
- ・市内のグラウンドには夜間照明がなく、サッカー等の屋外競技も体育館で活動(特に平日夜間)するので、体育館が予約できない状況に拍車をかけているため、夜間照明を備えたグラウンドの整備が必要
- ・人工芝グラウンドは災害等の際、災害支援拠点としても利用できる
- ・リバーフロントの維持管理を見直し、財政的な負担を減らすことが必要
- ・整備によるメリット、デメリットを具体的に示すこと
- ・フットボール場整備後のリバーフロントの位置づけを説明すること
- ・(天然芝より)多くの人々が利用できる人工芝の整備と夜間照明の設置により競技力向上が期待できる
- ・将来的な人口減少に当たっては、リバーフロントの面数等で調整するよう検討すること

4 施設全般について

- ・国スポ・全障スポのためにやむを得ず整備するというのではなく、国スポ・全障スポを機に今後もスポーツ振興に寄与していくために必要な整備だという説明をすること
- ・国スポ・全障スポ開催の意義や経済効果の面を明らかにすること
- ・国スポ・全障スポのためだけの施設とすることのないようにすること
- ・スポーツをやらない市民へのメリットを計画に盛り込むこと
- ・災害時の活用や競技力の向上、大規模大会の誘致、開催による経済効果など、市民に還元される整備であることを説明すること
- ・国スポで補助金等が活用できるということを示すこと
- ・補助金等がどのように活用できるのかを示すこと
- ・高齢化が進む中、バリアフリー等に配慮した整備が必要
- ・バリアフリー等、障がい者や高齢者への配慮がされ、災害時にも活用できる整備が必要
- ・事業を進めていくうちに事業費が膨れ上がることをないよう、当初の計画をしっかりと立てること
- ・国スポ・全障スポ以降の利用のため、大規模な大会等の開催基準を満たす整備が必要

- ・整備に当たっては地元の建設業界が受注できるよう配慮が必要
- ・スポーツ以外にも人が集まることができる機能(集会場、商業施設等)を検討すること
- ・国スポ・全障スポを契機とした施設整備によって市民の健康増進やスポーツの普及等今後のメリットを示すこと
- ・整備後、どのように有効活用されるかを示すこと
- ・整備により抑制できる将来的な修繕費等について記載すること
- ・個別施設計画との整合性を検討し、必要な場合は(個別施設計画の)変更を行うこと
- ・将来的に公共施設マネジメントにプラスの影響を与えるようにすること
- ・国スポ・全障スポの開催競技以外の競技への配慮も必要
- ・施設を整備するだけでなく、関係団体と協力し、スポーツを通じた活性化に努めること
- ・スポーツ大会が開催される大規模施設と日頃市民が使う小規模な社会体育館やグラウンドでは、スポーツ施設の中での役割が異なっているので、それぞれの役割を整理して進めていくことが大事
- ・市の公共施設等総合管理計画では、バリアフリーにとどまらずユニバーサルデザインの推進を目指しているため、本提言にも含める必要がある

■ 審議経過

開催日	会議	内容
令和3年10月27日	第2回公共施設適正化検討委員会	小委員会設立と委員の選出について
令和3年11月22日	第1回国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の施設整備検討小委員会	現地視察
令和3年11月25日	第2回国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の施設整備検討小委員会	課題分析、整備方針検討(意見)
令和3年12月22日	第3回国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の施設整備検討小委員会	整備方針検討(意見)
令和4年1月28日	第3回公共施設適正化検討委員会	小委員会の状況報告
令和4年2月10日	第4回国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の施設整備検討小委員会	提言(案)の検討
令和4年2月18日	第5回国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の施設整備検討小委員会	提言(案)の決定
令和4年3月3日	第4回公共施設適正化検討委員会	提言の決定

2 大会準備及び施設整備計画策定の経過

年月日	内容	備考
平成 29(2017)年 3月 24 日	県部局長会議において第 82 回国民体育大会の招致を決定	
平成 29(2017)年 5月 22 日	長野県知事名等で文部科学省・日本体育協会あて大会開催要望書提出	
平成 29(2017)年 7月 13 日	第 82 回国民体育大会の長野県開催が内々定	日本スポーツ協会
平成 29(2017)年 12月 20 日	第 82 回国民体育大会 長野県準備委員会 設立	
平成 30(2018)年 4月 13 日	第 82 回国民体育大会 市町村競技会開催希望調査	長野県準備委員会
平成 30(2018)年 7月 2 日	「競技及び施設選定の基本方針」及び「希望する競技及び施設」決定	長野市部長会議
平成 30(2018)年 7月 6 日	市町村競技開催希望調査書 提出(回答)	
平成 30(2018)年 11月 9 日	第 1 次選定にて長野市における水泳、バスケットボール、高校野球の開催が内定	長野県準備委員会
平成 30(2018)年 12月 6 日	長野県準備委員会から体操・ボウリング競技会の開催検討依頼	
平成 31(2019)年 1月 11 日	長野県準備委員会から全国障害者スポーツ大会競技会の開催検討依頼	
令和元(2019)年 5月 14 日	ボウリング競技及び全国障害者スポーツ大会競技会の受入れを決定	長野市部長会議
令和元(2019)年 5月 23 日	長野県準備委員会に対しボウリング競技会の受入れを回答	
令和元(2019)年 5月 23 日	長野県準備委員会に対し全国障害者スポーツ大会競技会の受入れを回答	
令和元(2019)年 7月 31 日	第 2 次選定にて長野市におけるサッカー、ボウリングの開催が内定	長野県準備委員会
令和元(2019)年 8月 9 日	第 82 回国民体育大会 冬季大会開催希望調査	長野県準備委員会
令和元(2019)年 9月 2 日	冬季大会スケート競技会(スピード・フィギュア)の開催希望を決定	長野市部長会議
令和元(2019)年 9月 5 日	第 82 回国民体育大会 冬季大会開催希望調査票 提出(回答)	
令和元(2019)年 11月 18 日	第 4 次選定にて長野市におけるスケート競技会の開催が内定	長野県準備委員会
令和 2(2020)年 7月 1 日	国民体育大会に向けた施設整備方針決定	長野市部長会議
令和 2(2020)年 10月 15 日	鹿児島国体の令和 5(2023)年への延期が決定、長野大会は 2028 年へ	日本スポーツ協会
令和 2(2020)年 12月 14 日	長野県準備委員会からライフル競技 CP 競技会の開催検討依頼	
令和 3(2021)年 4月 1 日	長野市文化スポーツ振興部スポーツ課内に国民スポーツ大会準備室を設置	
令和 3(2021)年 4月 19 日	長野市部局横断案件総合調整会議にて整備計画内容と進め方を協議	
令和 3(2021)年 9月 13 日	長野市議会経済文教委員会にて整備計画の進め方を報告	部長挨拶内
令和 3(2021)年 9月 27 日	長野市スポーツ推進審議会開催 検討方法、委員選出について協議	

年月日	内容	備考
令和3(2021)年10月18日	長野市部局横断案件総合調整会議にて整備計画検討について報告	
令和3(2021)年10月27日	長野市公共施設適正化検討委員会開催 検討方法、小委員会設立決定	
令和3(2021)年11月18日	体操(競技)競技会、ライフル競技(CP)競技会の受入れを決定	長野市部長会議
令和3(2021)年11月22日	第1回長野市公共施設適正化検討委員会 小委員会開催	施設視察等
令和3(2021)年11月25日	第2回長野市公共施設適正化検討委員会 小委員会開催	課題整理・方針検討
令和3(2021)年11月26日	第三次長野市スポーツ推進計画(案)市民意見等募集(～12月20日)	国スポ関連含む
令和3(2021)年12月6日	長野県準備委員会に対し体操及びライフルCP競技会の受入れを回答	
令和3(2021)年12月22日	第3回長野市公共施設適正化検討委員会 小委員会開催	提言に向けた意見
令和4(2022)年1月12日	競技団体等から「堤内地への芝生グラウンド整備要望」の署名提出	18,603人分
令和4(2022)年1月24日	第三次長野市スポーツ推進計画 スポーツ推進審議会から答申	国スポ関連含む
令和4(2022)年1月27日	第三次長野市スポーツ推進計画決定	長野市部長会議
令和4(2022)年1月27日	国民スポーツ大会等の施設整備計画検討状況の報告	長野市部長会議
令和4(2022)年1月28日	長野市公共施設適正化検討委員会開催 施設整備計画検討状況の報告	
令和4(2022)年2月7日	第6次選定にて長野市における体操、ライフル(CP)の開催が内定	長野県準備委員会
令和4(2022)年2月10日	第4回長野市公共施設適正化検討委員会 小委員会開催	提言(案)の検討
令和4(2022)年2月18日	第5回長野市公共施設適正化検討委員会 小委員会開催	提言(案)の検討
令和4(2022)年3月3日	長野市公共施設適正化検討委員会開催 提言の決定	
令和4(2022)年3月14日	長野市スポーツ推進審議会開催 施設整備計画(案)について協議	
令和4(2022)年3月22日	競技団体からの「堤内地への芝生グラウンド整備」請願 採択	長野市議会
令和4(2022)年3月30日	国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会施設整備計画 決定	長野市部長会議

長野市国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会施設整備計画

令和4(2022)年 3月

長野市文化スポーツ振興部スポーツ課国民スポーツ大会準備室

〒380-8512

長野市大字鶴賀緑町 1613 番地

Tel : 026-224-9709 Fax : 026-224-7351

E-mail : k-sports@city.nagano.lg.jp